

令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」  
沖縄・動物系分野における有機的高専連携プログラム開発・実証事業

# 事業報告書

2024年2月

## 学校法人 KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校

本報告書は、文部科学省の専修学校による地域産業中核人材養成事業による委託事業として、学校法人KBC学園沖縄ペットワールド専門学校が実施した、令和5年度「沖縄・動物系分野における有機的高専連携プログラム開発・実証事業」の成果をとりまとめたものです。

# 目次

## 第1部 事業の概要と令和3・4年度の取組み

1 事業の概要	
1.1 実施体制	1
1.2 事業の趣旨	2
2 令和3年度の活動	
2.1 第一回連携プログラム開発検討委員会	3
2.2 第二回連携プログラム開発検討委員会	4
3 令和4年度の活動	
3.1 第一回連携プログラム開発検討委員会	5
3.2 第二回連携プログラム開発検討委員会	6
3.3 第三回連携プログラム開発検討委員会	7

## 第2部 令和5年度の活動

1 令和5年度スケジュール	8
1.1 連携プログラム開発協議会の開催	9
1.2 実証授業の開催	10
1.3 プログラム開発	10
1.4 コーディネーター業務	10
2 第一回連携プログラム開発検討委員会	11
3 第二回連携プログラム開発検討委員会	
3.1 中部農林高等学校 職業講話（動物の仕事）プログラム評価	
3.1.1 理解度	13
3.1.2 仕事知識	13
3.1.3 資格	14
3.1.4 学び方	14
3.1.5 はじめて知ったこと・聞いたこと	15
3.1.6 感じたこと・思ったこと	18
3.2 中部農林高等学校 職業講話（コミュニケーション）プログラム評価	
3.2.1 思った通り行動できたか	21
3.2.2 自己理解度	22
3.2.3 他人理解度	22
3.2.4 授業効用度	23
3.2.5 はじめて知ったこと・聞いたこと	24
3.2.6 感じたこと・思ったこと	27
3.3 高校生の職業意識に関する調査（中部農林高校前期）	
3.3.1 調査概要	30
3.3.2 進路について保護者との会話	31
3.3.3 希望する職業を決めているか	32
3.3.4 仕事・働くことのイメージ	33
3.3.5 「とてもそう思う」働くことのイメージ	36
3.3.6 職業を選ぶにあたり重視すること	37
3.3.7 「とても重要」な職業選択要素	43
3.3.8 希望する勤務地	44
3.3.9 仕事に関する意識・考え	45
3.3.10 「とてもそう思う」仕事に関する意識	51
3.4 実証授業、令和6年度の取組みについて	52

4	第三回連携プログラム開発検討委員会	
4.1	中部農林高等学校 職業講話（職業図鑑）プログラム評価	
4.1.1	理解度	53
4.1.2	効用度	53
4.1.3	感想	54
4.1.4	はじめて知ったこと・聞いたこと	55
4.1.5	印象に残ったこと	57
4.1.6	取り上げて欲しい仕事やスキル	59
4.1.7	感想	60
4.2	北部農林高等学校 職業講話（マナー）プログラム評価	
4.2.1	理解度	62
4.2.2	効用度	62
4.2.3	希望する職業を決めているか	63
4.2.4	はじめて知ったこと・聞いたこと	64
4.2.5	印象に残ったこと	66
4.2.6	取り上げて欲しい仕事やスキル	68
4.3	高校生の職業意識に関する調査（中部農林高校前期）	
4.3.1	調査概要	69
4.3.2	進路について保護者との会話	69
4.3.3	希望する職業を決めているか	70
4.3.4	仕事・働くことのイメージ	71
4.3.5	「とてもそう思う」働くことのイメージ	74
4.3.6	職業を選ぶにあたり重視すること	75
4.3.7	「とても重要」な職業選択要素	81
4.3.8	希望する勤務地	82
4.3.9	仕事に関する意識・考え	83
4.3.10	「とてもそう思う」仕事に関する意識	89
4.4	実証授業評価検討と令和6年度事業の意見交換	90
5	第三回連携プログラム委員会以降に取りまとめた職業意識調査	
5.1	高校生の職業意識に関する調査（中部農林・具志川商業・南部商業）	
5.1.1	調査概要	92
5.1.2	進路について保護者との会話	92
5.1.3	希望する職業を決めているか	93
5.1.4	仕事・働くことのイメージ	94
5.1.5	「とてもそう思う」働くことのイメージ	97
5.1.6	職業を選ぶにあたり重視すること	98
5.1.7	「とても重要」な職業選択要素	104
5.1.8	希望する勤務地	105
5.1.9	仕事に関する意識・考え	106
5.1.10	「とてもそう思う」仕事に関する意識	112

## 資料

アンケート用紙	113
---------	-----

## 議事録

第1回プログラム検討委員会	116
第2回プログラム検討委員会	122
第3回プログラム検討委員会	128

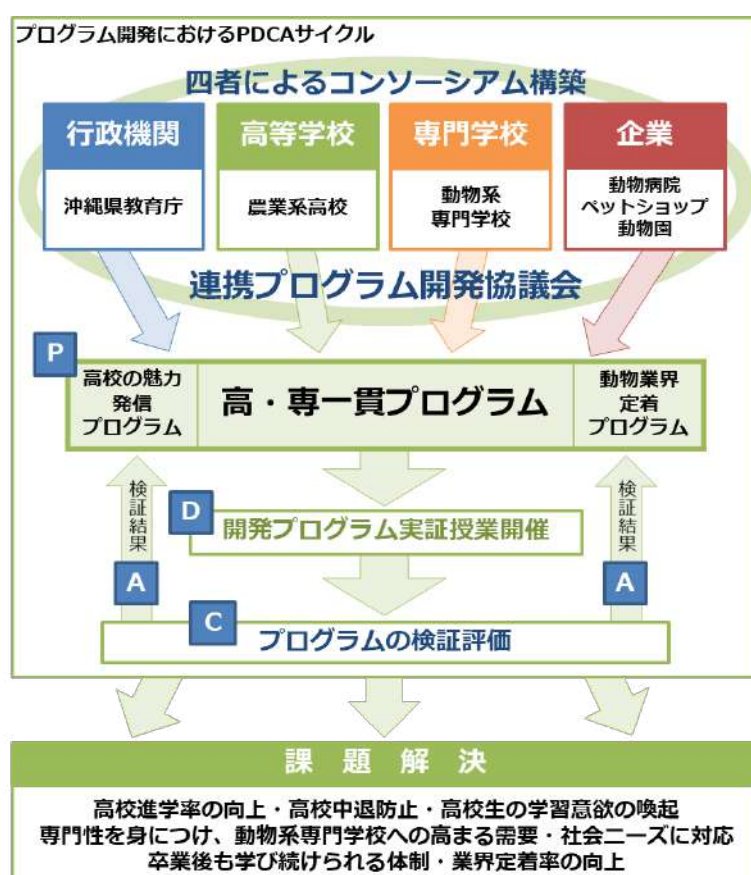
## 第1部 事業の概要と令和3・4年度の取組み

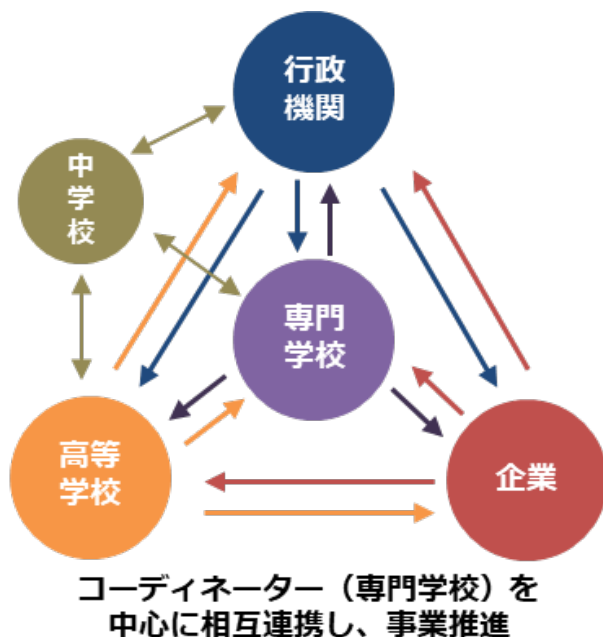
### 1 事業の概要

#### 1.1 実施体制

行政機関、高等学校、企業、専門学校四者によるコンソーシアムを構築。「連携プログラム開発協議会」を設立し、高・専一貫プログラムの計画を立案する。

計画を基に開発プログラム実証授業を開催し、プログラムの検証評価委員会によってプログラムの評価を行う。検証結果を基に新たな計画に反映させ実証授業を行う。このPDCAサイクルを有機的に機能させ、実効性・教育効果の高い連携プログラムを開発する。





## 1.2 事業の趣旨

開発プログラムは「高校生」「専門学校生」はもちろん、高校と専門学校の前後に位置する「中学生」及び「社会人」も包括する。時系列に見ると、中学と高校の橋渡しとして「高校の魅力発信プログラム」を開発。開発プログラムにより中学生にとっても魅力的な高校となり、地域課題である高校進学率の向上、高校中退防止に繋げる。次に、高校と専門学校で5年かけて学ぶ「高・専一貫プログラム」を開発。共通目標と一貫したカリキュラムを構築し、動物系分野の高まる受容や社会ニーズに対応できる専門人材を育成する。そして、専門学校卒業後も学び続けられる体制づくりとして「動物業界定着プログラム」を開発。離職を減らし、動物業界への定着率を向上する。卒業生の業界での活躍は高・専一貫プログラムで学ぶ高校生と専門学校生の身近な将来像であり、将来像の明確化は共通の目標設定や一貫したカリキュラムの重要な要素となる。

開発プログラムにより「動物にかかわりながら、専門性を身につけ、人や社会への貢献を認識しつつ、収入が安定し、一生続けられる仕事として動物業界で活躍できる」という好循環を本プログラムを通して実現していく。そして、我が国の労働生産性及び生涯を通じた学習機会の拡大に寄与する。

## 2 令和3年度の活動

### 2.1 第一回連携プログラム開発検討委員会（令和3年11月11日）

本事業主旨概要説明と事業の目的・ビジョンの共有を行った。また、事業推進上の留意点やインターンシップの現状に関する意見交換を行った。

高校からは、生徒にとって一番大事なことは大人と接することであり、企業からは、子ども達にすごいと感じる姿を見せたいなどの声が挙がった。  
動物業界の離職率が高い原因のひとつとしてイメージが先行していることがあるため、動物を扱う仕事の現実も伝える必要がありバランスが非常に難しいという意見もあった。

<インターンシップの現状に関する情報共有等>

（高等学校）

インターンシップは令和4年度より、今まで通りの全県一致の実施から「総合的な探求」の時間として取り入れてはという意見が普通高校からある。但し専門高校は必修としている。就労体験だけではなく事前学習による動機付けを行わないと、ただ「やるだけ」になってしまう。

（企業）

体験に来た子どもたちが、どのくらいの割合で動物業界に就職したかという現状は非常に興味がある。連携という点で、我々の地域でも小中学生の体験学習が行われており、全国的に見直されている。当初の目的は「地域」で子どもたちがどう学び、育っていくかであった。

子どもがすごいと感じる働く姿を見せる要素は必須だと思う。

## 2.2 第二回連携プログラム開発検討委員会（令和4年2月10日）

ヒアリング調査結果報告と検討、プログラム開発方針の検討、インターンシップの現状とあるべき姿の検討を行った。

目標とする職業に就くまでのストーリー、そして、職業に就いてからのストーリーを生徒自身が立てることができるプログラムが理想である。  
また職業体験プログラムは、学校のニーズ、生徒側のニーズ、企業のニーズをくみ取りコーディネートする必要があることが挙げられた。

### <ヒアリング調査検討>

#### 実施状況

2021年12月24日 10:00~11:00	東京都教育庁	訪問
2021年12月24日 13:00~14:00	東京都町田工業高等学校	訪問
2022年1月12日 16:00~17:00	沖縄県立中部農林高等学校	web
2022年1月29日 11:00~11:40	観光系大学	web

#### （高等学校）

具体的なプログラム目標として次の3点、①動物関連産業の実態、可能性を感じる。②働くことの意義、責任感を養う。③社会の一員として尊厳、自己肯定感を高めることを求める。

#### （企業）

外部との連携という点で、学生が自分でイベントを企画することを行っているので一緒に出来ればと思う。

飼育係に付いて1日仕事を体験してもらうという流れで、生の仕事を体験してもらう意味では良い。しかしこれが本当に高校や専門学校のニーズに合っているか、体験する本人が求めている内容になっているかといった議論はそこまでなかった。

#### （専門学校）

動物愛玩の資格でいうと、今年度からスタートした動物看護の基礎を学ぶ授業が始まった。先に高校でふられていれば本来は2年生で取得する資格が1年生でとれるものもあるのでスムーズに進めるのではないかと思う。

就職の担当者として、人間性教育の難しさを感じている。企業の求める人材と学校が教育できる人材の乖離を動物業界は抱えていると思う。学校で企業の方に説明会を行ってもらった際、求めている人材像が全く違っていたこともある。人間性教育に関わるところが非常に大きい。

高校生もアニマルプロフェッショナルに触れ、将来像を明確にする。専門知識を持った高校生が専門学校でさらに知識をつけて職場で活かすというプロジェクトはすごく良い取り組みだと思う。



### 3 令和4年度の活動

#### 3.1 第一回連携プログラム開発検討委員会（令和4年8月25日）

令和4年度事業計画とキャリアプランニング能力向上教材（職業図鑑）プロトタイプと試験対策教材の意見交換を行った。

職業図鑑に関しては、メモを取る形にしているのは大変有効である、イメージをしやすくするため可能であれば働く場面を取り入れたものにして欲しいとの意見が挙がった。

愛玩動物飼養管理士試験対策は、主催団体の教材にプラスアルファして理解を深めることができるものにする。

（高等学校）

辛かった経験など負の部分についても触れている点が大いに評価できる。この動画には高校時代の様子を聞く質問もあり、実際の高校生たちにとって興味深い点だと思う。

（企業）

実際に聞きながら記入すると難しいと思ったが、自身の現状を知るきっかけにもなり、それとしていいのではないかと思った。またA→B→Cというようにスキルが上がっていく内容にしても面白いのではと感じた。高校生の立場として見ても良い動画と感じた。

メモをとりながらの視聴は大変ではあるが、会議での議事録作成など社会に出たときのことを考えると高校生にとっては力になる。生徒一人ひとり耳に残っている点が違うと思うので、お互いのメモをシェアできる時間を作っても面白い学びの場になるのではと思った。

3年以内の離職率に関しては企業も責任を感じる部分があるので離職の理由も明示してほしい。

（専門学校）

今回の取り組みは専門学校とも連動性があり良いと思う。受験の費用負担も大きく、年々上がっている点を踏まえ、毎年受験の継続に対して職員同士で検討しているが、最低2級の取得は必要であると考えている。本校では試験の2級取得を必須で1級は任意としている。中部農林高校の卒業生ですでに2級を取得して入学してくる人、最近ではすでに1級を取得している生徒も入学している。2級取得者の授業では1級の学習時間にあてている。

## 3.2 第二回連携プログラム開発検討委員会（令和4年12月8日）

実証授業報告の意見交換と、採用活動・就職・定着状況の情報共有と意見交換を行った。

実証授業は、生徒達の目標にもつながりよい結果が得られている。  
就職活動に関してはコロナ禍が終息しつつあり、徐々に元に戻りつつある。  
企業からは3年以内の離職理由の聴き取り情報が欲しいとの意見がでた。

### <実証授業実施状況>

#### <キャリア教育>

2022年11月5日	中部農林高校1年	動物系の仕事
2022年11月12日	中部農林高校1年	コミュニケーション力の重要性

#### <愛玩動物飼養管理士試験対策>

2022年9月10日	中部農林高校2年	目・耳の形態機能
2022年9月24日	中部農林高校2年	エキゾチックアニマル
2022年10月15日	中部農林高校2年	動物のしつけ
2022年10月29日	中部農林高校2年	爬虫類

#### （高等学校）

専門学校講師の授業で生徒の積極的な姿勢が見られた。授業終了後の質疑応答も多く、とてもよかった。講師と生徒のコミュニケーションもよく、テンポよく授業が進んでいた。生徒たちもしっかりと記録している様子が見られ、成果が表れていると思った。今回の実証授業は手探りでスタートしたが、継続していくことでより大きな成果が得られると感じ、期待が見られる。今後も進めながら内容を深めていければと思う。

愛玩動物飼養管理士試験に関しては、2年生の2級合格者は今年度20名中18名なので合格率は90%。不合格者は例年2~3名いるが、昨年度は初めて受験者全員が合格した。

### <採用・教育・定着活動状況の意見情報交換>

#### （高等学校）

動物コースの生徒は半数以上が動物に関する業種を希望しているが、就職よりもより高度な技術や資格を習得したいと進学を希望するのが大半。専門学校で学ぶ学生との交流会など先輩と関われる機会が無いので連携プログラムに入れてほしい。インターンシップはとても大切であると思う。地域で行っている「グッジョブ」という取り組みから小中学生の受け入れも行っているがコロナ禍で実施できない状況。子どもたちの発表の機会が失われている。以前は企業、行政を招いて社内での発表会を行っており、学ぶことも多かった。

コロナ禍が収束して、実施できることが望ましい。次年度実施できた場合に備えて、企業として受け入れを準備しておく。

#### （企業）

従業員の課題として先ほどからあるようコミュニケーションの大切さがあげられる。改めて自身でも認識することを感じる。コロナ禍で「集まる機会」をどうしても作ることができず、コミュニケーション不足が生じた。社内でも年間目標を掲げるなどで社員の育成を図った。

#### （専門学校）

本校の学生を見ていると例年に比べて遅いと感じる。動物看護師を目指す学生は2年次の後半から3年次にかけてインターンシップを行い、卒業年次に内定していたがコロナ禍でインターンシップ受け入れ先が減少。とくに県内志向の学生が多いので県内での受け入れが減少してしまい、就活への動きが鈍くなってしまった。沖縄は観光立県でもあり、自然を舞台にしたアドベンチャーアクティブツアーの動物関連求人もあるが人前で話すことが苦手な大人しい学生が多く、お断りを入れることもある。にコミュニケーション能力を高める指導体制をつくる必要がある

### 3.3 第三回連携プログラム開発検討委員会（令和5年1月19日）

令和4年度開発教材の意見交換と、令和5年度の実績の意見交換を行った。

県教委から、沖縄県キャリア教育の基本方針「かふやみ」に従ったものをブラッシュアップして欲しいという要望が挙がった。また、南部農林高校への広がりや中学校への取組みも推進して欲しいとの要望もあった。

次年度3年生の1級対策は、職業を意識したものや専門学校への接続を考慮にいれ中部農林高校と連携を密に行っていく。

#### <令和4年度開発教材の意見交換>

##### （高等学校）

生徒にも分かりやすく作りこまれていると思う。県立学校教育委員会でもキャリア教育を重点的に取り組んでいる。資格取得の前に何のために学ぶのか？といったキャリア教育を進めたいという意識が授業に浸り込んでいく流れにしていって欲しいと思う。令和2年に沖縄県キャリア教育の基本方針を冊子にまとめた。県として身につけさせたい4つの力「かふやみ」として、関わる力、振り返る力、やり抜く力、見通す力を取りまとめている。4つ全てとは言わないが、県がキャリア教育として目指すものが示されているのでこの部分を見てもらい、ブラッシュアップさせ同じ方向性に合わせられればと思う。

動物が好きで動物系の学校に進学するが、そのあとそれをどう活かして職業につなげていくか明確にできていない生徒もいる。今回のプログラム連携を通して職業感覚は大分ついてきていると感じる。まだ手探りで進めている状況もあったので、次年度はより効果的に高めるために1年生、3年生と各学年に合わせたプログラム内容にしていければと思う。

#### <令和5年度の実績の意見交換>

##### （高等学校）

現時点では中部農林高校だけではなく、キャリアの部分で南部農林高校にも導入してもらえるとありがたい。ぜひ進めてもらいたい。

##### （企業）

離職率の数字に関する考え方は難しいと思う。例えば初めての就職先が一生の職場になればいいが、数回の離職から本当に自分に合った職場に出会うこともあると思う。自身も振り返ると今の職場が初めてではない。この点を踏まえると評価や目標設定が難しいと感じた。

##### （専門学校）

次年度、1級の対策をするのであれば楽しさだけでなく、厳しさや現状など少し専門学生寄りにした授業にしていく必要があると感じた。

高校生に授業をするにあたり大切にしたいのは、知らなかったことを知った時のインパクトや感動である。自身の授業を通じて好きになれば、勉強と感じなくなり興味を持ってやってくれればと思う。授業を作った。中部農林高校の生徒からは、本当に動物が好きという気持ちを強く感じ、リアクションもとてもよく授業もすすめやすかった。愛玩動物飼養管理士試験の合格率にも驚いている。

次年度は高校生が試験に関してどの部分が本当に知りたいのか、細かい解説が欲しいのかといったことを事前に聞いて授業を作っていくことができたらさらに合わせた対策ができると思うので渡真利委員を通じて、生徒の声を反映させたい

## 第2部 令和5年度の活動

### 1 令和5年度スケジュール

時期	連携プログラム開発協議会	高校向け実証授業	プログラム開発 (オンライン教材) (キャリア教材)	コーディネーター 業務
7月		実証授業		高校・行政・企業への周知、連携プログラム開発協議会運営 連携校、連携企業の開拓
8月	第1回開催			
9月		実証授業		
10月		実証授業	(キャリア教材)	
11月	第2回開催	実証授業	(キャリア教材) (オンライン教材)	
12月		実証授業	(キャリア教材) (オンライン教材)	
1月	第3回開催		(キャリア教材)	
2月				事業報告書作成

## 1.1 連携プログラム開発協議会の開催

高等学校、行政、専門学校、企業の四者による高専連携プログラム開発に向けた協議会を発足、プログラム開発に向けた委員会を開催する。ヒアリング調査の分析、課題及びニーズ整理、開発内容の選定を行う。

また、開発プログラムの課題整理、導入に向けた手順を整理する。

第1回委員会（8月開催）：今年度スケジュール紹介、開発プログラム概要

第2回委員会（11月開催）：実証授業開催報告、開発プログラム紹介

第3回委員会（1月開催）：今年度成果報告、次年度方向性確認

### <連携プログラム開発協議会委員>

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
1 渡真利 学	沖縄県立中部農林高等学校教諭	委員	沖縄県
2 平良 一朗	沖縄県教育庁県立学校教育課 指導主事	委員	沖縄県
3 吉川 鉄平	学校法人シモソノ学園国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校 募集広報部 部長	委員	東京都
4 喜納 保	ペットメディカルセンター・エイル取締役	委員	沖縄県
5 翁長 朝	公益財団法人 沖縄こどもの国 動物みらい課 課長	委員	沖縄県
6 吉田 剛	学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 副校長	委員長	沖縄県
7 仲松 謙	学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 事務局長	委員	沖縄県
8 崎山 孝司	学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 就職課主任	委員	沖縄県
9 儀間 秀人	学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 教務主任	委員	沖縄県
10 山城 正仁	学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 教務主任	委員	沖縄県
11 名護 聡美	学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 教務主任	委員	沖縄県
12 永井 洋美	学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 教務	委員	沖縄県

## 1.2 実証授業の開催

中部農林高校にて実証授業を開催（令和5年7月、9月、10月、11月、12月）

合計11回×2コマ=22コマ

【熱帯資源科 実証授業（予定）】

日程	授業時間	授業内容	担当者	対象学年・曜日
9月1日	11:20~13:10	愛玩2級動機づけ、エキゾチックアニマル	山城	【2年生】20名 金曜日
9月8日	11:20~13:10	形態機能（眼、耳、口腔）	仲村渠	
9月29日	11:20~13:10	爬虫類	山城	
10月6日	11:20~13:10	動物のしつけ	名護	
12月8日	11:10~12:50	キャリア教育用の動画教材を利用した授業	広原	
9月6日	11:20~13:10	犬と猫の栄養学	永井	【3年生】20名 水曜日
9月27日	11:20~13:10	犬と猫の疾病とその予防～感覚器・脳神経編～	永井	
10月11日	11:10~12:50	犬と猫の疾病とその予防～泌尿器・生殖器編～	新崎	
10月25日	11:20~13:10	犬と猫の疾病とその予防～骨・関節・皮膚編～	儀間	
11月9日	11:20~13:10	職業講話	仲松	【1年生】40名 木曜日
11月16日	11:20~13:10	コミュニケーションの重要性	吉田	

※10月11日、12月8日は1コマ45分の短縮授業になります（通常授業は1コマ50分）

※11月26日 愛玩動物飼養管理士試験

【2年生】2級受験

【3年生】1級受験

## 1.3 プログラム開発

愛玩動物飼養管理士1級対策 教材制作（50分授業×4コマ分）

高校1年生向けキャリア教育教材制作（50分授業×2コマ分）

キャリア教育のための動物業界周知インタビュー動画制作（3セット）

## 1.4 コーディネーター業務

連携校・連携企業の開拓、高等学校・行政・企業の橋渡し

## 2 第一回連携プログラム開発検討委員会

令和5年度事業計画の検討、実証授業、プログラム評価についての意見交換を行った。

### <離職率について>

KPIのところ卒業後3年定着率が81%、最終的に90%以上という目標を立てているが、転職先が同じ動物業界であれば「離職」というカウントせず、他業種への転職を止めたいと考えている。

1人ひとりの理由もあり離職してしまうことはある程度仕方がないと思う。女性が多い職場なので結婚や出産などもある。

事業所としても離職理由は知りたいと思う。退職の理由で多いのは人間関係だと思う。現場としては、ストレスマネジメントなどのリーダー研修や新人研修、学校でも指導が必要なのではないか。

人間関係の問題は一定の職員数になると必ず出てくる。企業として、理解させながらそこに至る経緯、原因をすべて確認して話し合いによる解決の場をつくる環境に努めている。

### <実証授業の振り返り>

#### (高校)

いつもと違い、専門学校の教員による授業は緊張感もあり生徒たちの集中力も高かった。質疑応答や積極的に記録を取る様子は主体的に参加していると見て分かった。スライド映像、実際に動物を使った授業などどれも高校現場だけでは準備できないものが多かったのが効果的でリアルに感じるところであった。生徒たちからも本当に良かったという声を聞いている。

仕事に対する考え方、これから動物に関わる職業に就くという意識、こういった部分を大きく叶えてくれる結果になっている。今年のさらなるステップに期待し、生徒たちにも意識づけしていきたい。

#### (専門学校)

体験を通して、気づくという授業を実施したが、中部農林高校の生徒は本当に優秀で熱心であった。熱い授業を体験してもらい多くの気づきもあったと思う。今年も入学して半年の生徒を対象にコミュニケーションの必要性に関する授業を行う。良好な人間関係は日々のコミュニケーションから生まれると思うのでこういった授業を通じて動機づけたい。

初めに「自分が何をしたいのか」「その分野がどういったものなのか」をしっかりと理解した上で選択する。考える機会が早いほど情報収集もたくさんできると思う。イメージだけで就職してしまいミスマッチが生じることは高校生、学生、企業においてお互いが不幸で大変な思いをしてしまうので、まずはしっかりと職業を理解できる機会があっても良いと思う。

プロを目指す専門学生と動物のことが好きで入学してきた高校生は教え方を変えないといけないという点を考えながら授業準備を行った。また検定の合格率を上げることが一番大事ではあるが、それは教科書にも載っており自分でなくてもよいと思うので自身の経験や知識、専門学校の教員による授業も知ってもらいたいという点から教科書を越えた展開を意識して授業を行った。

### <プログラム全体について>

このプログラムを進めていくことで、企業の立場としてプレッシャーになってきたと感じる。だんだんと職業のイメージ調査結果がでてくると、さらにどうしていくべきか持ち帰って話をしないといけない。従業員も増えていくなか、業界として責任を感じないといけない。この結果を真摯に受け止め、学ぶべき環境や3年以上働き続けられる環境づくりなどをテーマに出し、今後どうすべきか話し合いながら建設的に進めていきたいと思う。

高校生が将来、社会に出て仕事に就く。その時のお手伝いとして学生が「大人になる」という形で職業を選べるようになればよいと思う。昨年資料等を見直し、さらにブラッシュアップしながらお役に立てたらと思う。

動物業界以外の就職は毎年、数名の学生がいる。その理由として給与面があり、奨学金の返済や両親の面倒を見ないといけないとなると、給与が高い IT 系に就職してしまう。そういった意味では業界の就職率は%だけでは表せない個々の事情も考えないといけないのかとも感じる。もちろん目標に対して頑張りたいと思う。

愛玩動物看護師の試験は個人の知識を高めるものでなく、社会において動物の管理をするために必要な知識を身に付け、仕事に活かすためのもの。国家資格となったのは国が社会に貢献してほしいという意味で資格を与えているのでその仕事に向かうとなったら、社会に生きる人間にならないといけないと思う。高校生にそこまで重い課題を与えるとは考えていないが、職業は1人のためではないということである。



### 3 第二回連携プログラム開発検討委員会

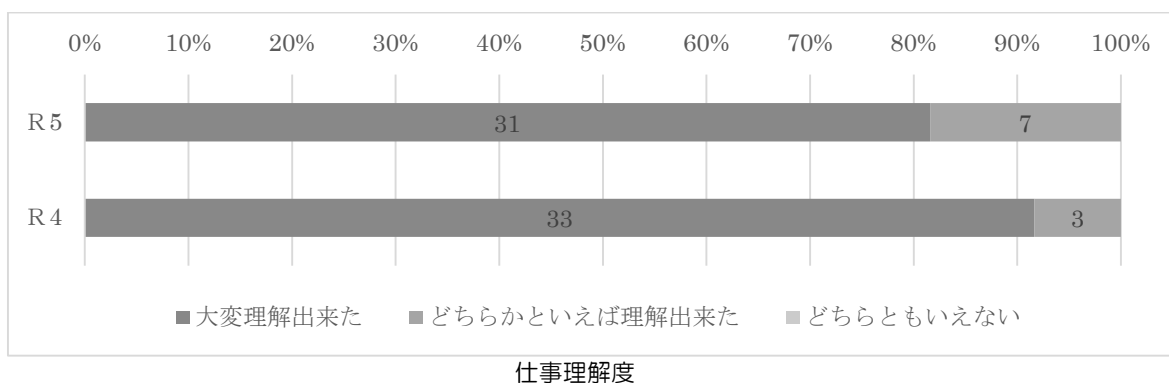
実証授業結果報告と検討、キャリア教育に関する意見交換を行った。

#### 3.1 中部農林高等学校 職業講話（動物系の仕事）プログラム評価

##### 実施概要

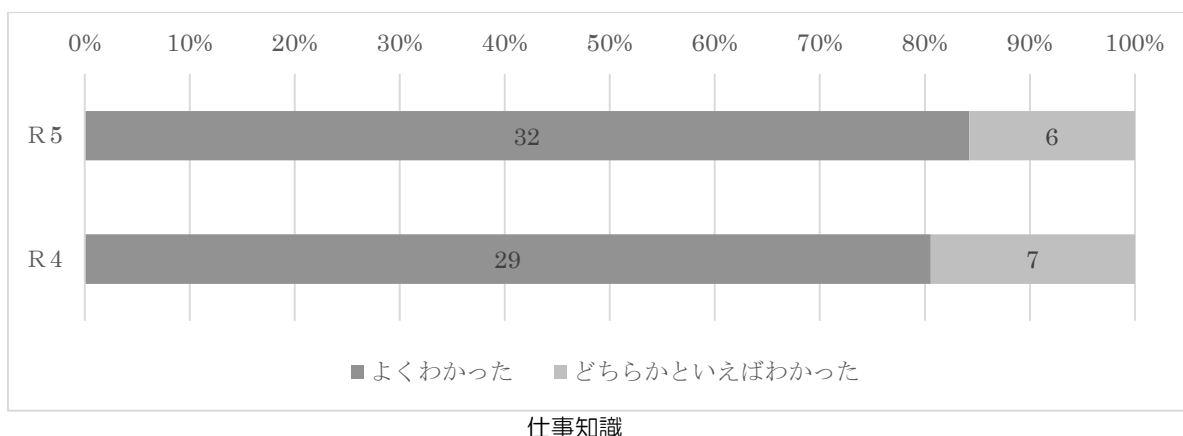
日時 令和5年11月9日 10:00~12:00  
 対象 沖縄県立中部農林高等学校 熱帯資源科 1年生  
 人数 38名  
 講師 沖縄ペットワールド専門学校 仲松謙先生  
 内容 動物系の仕事

##### 3.1.1 質問「本日の講話を受けて、仕事の内容が理解できましたか？」（平均 4.8）



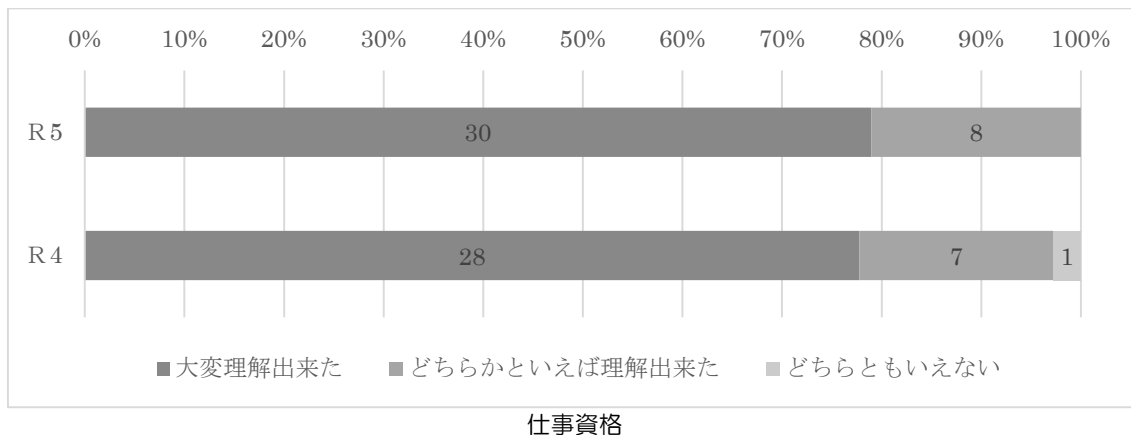
100%の生徒が、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」と答えた。

##### 3.1.2 質問「仕事に必要な知識がわかりましたか？」（平均 4.8）



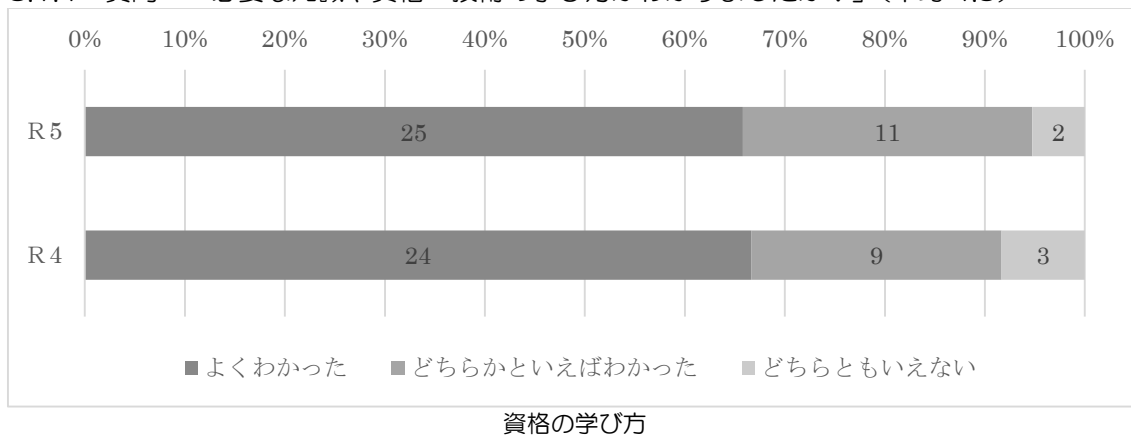
100%の生徒が、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」と答えた。

3.1.3 質問 「仕事に必要な資格や技術について理解ができましたか？」（平均 4.8）



100%の生徒が、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」と答えた。

3.1.4 質問 「必要な知識や資格・技術の学び方がわかりましたか？」（平均 4.5）



92%の生徒が、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」と答えた。

### 3.1.5 質問 「特に印象に残ったことや初めて知ったことを、箇条書きで記入してください。」

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、句読点の位置も原文のままにしている。

沖縄にじゅういしになるための大学がないことは知っていたが、他県もないところがあるというのは初めて知った。アニマルカフェの初まり（※原文ママ）は犬を連れて共に飲食をする場所からということが特に印象に残った。モンキーカフェやフクロウカフェも印象に残った。行ってみたい～！

--

動物看護師の国家資格が今年まで無かったことにとっても驚いた。動物に関わるお仕事は肉体労働。動物を観察することが大切。野生生物保護官という仕事がある。

--

印象に残ったことは、愛玩動物飼養管理士は、「販売」「保官」「貸出」「訓練」「展示」の動物取扱業責任者になれるということです。自分はその資格をとれるように、勉強ががんばりたいなと思いました。働く目的は、人々がお互いの生活を支えあうためというのも印象に残りました。

--

ペットショップ店員は物を売販（※原文ママ）するだけじゃなくお客さまへのアドバイスなどコミュニケーションが必要であると知った。

動物の仕事は主に肉体労働と初めて知れて良かった。

--

実さいにあった話がとても印象に残った。ペットショップのおじいちゃんの話と、沖縄であったぎゃくたいの話など。ドクトレーナーは、犬をしつけるだけじゃなく、飼主さんにも、犬の正しいせっしかたを教えるのが初めて知った。

--

ブードルの毛の有無は動きやすさや体温の調節などの重要な役割があることを知った。動物に関わる仕事は結構肉体労働で体力を使うことがわかった。トリマーは毛を切るだけでなく、動物の健康状態も保つこともわかった。アニマルカフェにはフクロウがいることも知った。

--

アニマルカフェにも色々な動物を扱っているところがあること。動物に関わる仕事は肉体労働も多いということ。どんな動物に関わる仕事でも資格や免許が必要になってくること。

--

動物を扱うお店を開くときには、業種によって販売や保管（預かり）などの登録が必要なことを初めて知りました。

--

動物は、気分がわるくなった時とかは、エサを食べなくなるなどなにかしら合図をすることが分かりました。子どもの国は火曜日は閉まっている事も知りました。もっと、犬や動物について知りたいと思っし、資格もとりたいたいと思いました。

--

今日の講話で動物に関わる仕事について知る事ができました。それぞれのお仕事のなかで必要な資格・技術について学ぶ事ができました。特に印象に残ったお仕事は、愛玩動物看護師で2023年から国家資格になった事を初めて知りました。

--

自分で動物に関するお店を出す時には、県のとうろく、動物責任者が必要なことが分かりました。動物看護師は、前は国家資格じゃないことを初めて知りました。

--

動物に関わる仕事では、資格などをとったり技術、やる気などが大切で、心の構えも大切とわかりました。動物に関わる仕事はたくさんあって、どんなことをその人たちはしているのかなどを知ることができてとてもよかったです。

--

特に心に残ったことは、動物の職に就くにあたって必要なことが同じ動物を扱うという共通点があってもそれぞれ全然違っていて、初めて（※原文ママ）自分はどう向き合っていきたいのか考えさせられたことです。初めて知ったことは、飼育員のお仕事には繁殖させて増やすというものもあったということです。

--

動物看護の仕事や医師になるためには、国家資格を取らなければならないということ。動物を扱うお店を開くには、第一動物取扱業の登録を県にしないといけないという事、動物病院と人の病院では扱っている

物、薬がほぼ同じということを知りました。

--

動物についての仕事は仕事でも色々な種類があり、動物と対等に接する職もあれば上下関係が大切になる仕事もあったりして色々あるのだなと感じました。今年から愛玩動物看護師が国家資格になったことを初めて知りました。

--

動物に関わる仕事では、仕事をする時に、しかくなどを持っていないと入れない仕事がある事や、知識・技術は、資格を必要としないけど、色々分かっていないといけない事などが分かったので覚えておけるといいです。

--

お店で動物を取り扱うためには登録する必要があることを初めて知りました。

--

今年から動物看護師になるために資格が必要になった。各職業で必要な資格。ドッグトレーナーと訓練士の違い動物に関わる職業は肉体労働。動物をよく観察することが動物の仕事をする上で大切

--

動物の仕事をするうえで大切なことを知ることができた。動物に関わる仕事は体力しょうぶ  
たくさん資格がある。知識・技術・根性は仕事に就くうえで必要

--

特に印象に残ったことは、資格・免許・技術・知識以外に、やる気や根性が必要だとわかった。動物看護師の仕事で、2023年から国家資格で愛玩動物看護師になったことがわかった。

--

ペットシッターがあることを今日初めて知りました。動物にぎゃくたいの話が1番印象に残ります。自分より体の小さい生き物になぜそんなことをするのかなと思いました。はちゅうるいは脱皮をするときに、白くにごることを初めて知りました。

--

動物に関わるお仕事に必要なことは1 資格・免許 2 技術・知識 3 やる気・根性（※原文ママ）以外に肉体的労働動物たちの変化に気づくには観察が必要であること。資格を取った方が職につきやすい。

--

働く目的はお金のためだけじゃない。動物に関わる仕事はたくさんある。動物に関わる仕事は体力が重要！

--

動物看護師に免許が必要なこと初めて知りました。動物にかかわる仕事は、体力をとてもつかうことも初めて知りました。特に印象に残ったことは、動物にかかわる仕事に必要なことにやる気・根性があることです。

--

何の仕事でも人との付き合いが大切である。

動物のかんごをするには、国家資格〔愛玩動物飼養管理師〕が必要となった。以前は必要なかった。今、動物に関する法律はどんどんきびしくなっている。動物と関わると時は、動物が大好（※原文ママ）という気もちと命を扱う責任感が大切。

--

動物に関わる職業は、1. 資格・免許 2. 技術・知識 3. やる気・根性のそれぞれが必要で、求められてくることだと知ることが出来た。動物の仕事をする上では、まず動物の生態を知りしっかりと観察することが大事で、動物を中心とした生活（ごはん、トイレそうじ等）にしていく必要があると知れた。

--

初めて知ったことは、動物に関わる仕事はたくさんあり、それぞれ資格や、知識が必要であり、仕事の内容は全部ちがったりしていたことです。印象にのこったことは、たくさん仕事があるのに意外と資格がすくなかったり国家資格ではなかったりしたことです。

--

印象に残ったことは、動物を扱う仕事は知識や技術、資格だけでなく、やるきや根性、特に命をあつかうという責任がとても大切なんだということが分かりました。好きだけでは何もかわらない、好きだからこそできることがいっぱいある。

--

動物と関わる仕事につくには、しかく・めんきょ・技術・知識・やるき・こんじょうなど、いろいろな物が必要だと分かった。それに、法律のことなど少し分かった。

--

簡単そうな仕事と思っていたものはすべて大変な仕事であり、命をあつかう仕事なので責任をもって注意

しながら行うことがわかった。

動物看護師や獣医が使う道具や薬などは人と似ているという事に驚いた。動物取扱責任者にも獣医、動物看護師の国家資格が必要だと知り、動物に関わる事について重要にされている資格だと印象に残った。

資格・免許・技術・知識・やる気・根性が必要。意外と体力を使う。資格・免許をとるには必ずカリキュラムを受講する

動物看護師は人間の看護師とほぼいっしょで使っている道具や薬、機械もいっしょだと知ってとてもおどろきました。また、動物をあつかうにあたってたくさんの資格があって持っているいろいろな業種をにんていしてもらえると知りました。

動物取扱業責任者は、それぞれのお店にいて、責任者になる方法は、いずれにせよ実務経験とそれさうさうの知識が必要ということがわかった。

ドッグトレーナーは犬と横ならびな関係で、訓練士は仕事をする犬を訓練して犬とたてならびの関係だと分かった。動物の看護士やじゅう医士は、(※原文ママ)人間の医者や看護士とだいたい同じだということが分かりました。

動物に関わるそれぞれの仕事がある中で、その仕事を単にこなすだけでなく、お客様や動物がわにもはいりよすることが大切とわかった。生き物である以上、動物中心の生活になってしまうかもしれないという、心構えが大切。

動物看護師になるために、2023年の2月から愛玩動物看護師という資格が必要になったということを知った。動物と人間が使う手術のときの機械や薬が量はちがうけど一緒だということも初めて知った。

動物に関わる仕事はたくさんあって似たような仕事もあるけど目的によってやり方が変わったり1つの仕事でやる事は1つだけじゃないという事が分かった。また、動物取扱業責任者要件資格で、取るものによって販売や訓練など、登録できるものが変わってくる事を初めて知る事ができたから良かった。

動物に関わる仕事は、資格や免許、技術や知識、やる気と根性が必要で責任のある体力がいる仕事であることや、看護師が国家資格であることを多くの生徒が挙げている。



### 3.1.6 質問 「本日の講話を聞いて、感じたことや思ったことを自由に書いてください。」

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、句読点の位置も原文のままにしている。

私は今アルバイトをしているのですが周りの人としゃべらずにすごしています。ただコミュニケーションをとった方がいいと聞いたのでしゃべりかけられたら話題を広げられるように頑張りたと思いました。(さすがに自分からはまだ難しいので・・・笑)

--

動物看護師の国家資格のことで特に思ったが、動物の命がまだモノとして認識されていることに驚いた。動物が大好きな私にとってペットショップなどは早くなくなって欲しいと思う。今法律なども変わり始めている中で、動物に対する意識や行動を変えていってほしいと思った。私は将来動物に関する仕事に就こうとは思っていないが色々なことが知れてとても良かった。

--

動物に関わる仕事の中で必要なことは、①資格・免許②技術・知識(※原文ママ)③やる気・根性が必要ということがわかりました。1番お仕事をやっていく中でも、人とのコミュニケーションが大事だということもわかりました。自分の将来のために、興味のある仕事のことを調べておきたいと思いました。

--

動物の仕事は、動物や人とのコミュニケーションを取る必要があったり、意外に肉体労働であるなど知らなかったことも知れて良かった。そして動物に関わる仕事で大切なのは「よく観察する」と「動物中心になる生活」を心がけながら行っていくことが大切であるとわかった。

--

動物に関わる仕事をするためには、資格やめんきょ、技術だけでなく、やる気やこんじょうも大切なんだなと思いました。

--

動物に関わる仕事は結構肉体労働であることがわかった。獣医師や看護師などは6年間も勉強して国家試験にも受かっているのすごいなと思った。人間用の薬と動物用の薬の成分は、ほぼ同じで量や濃度だけが違うことを知ってびっくりした。

--

動物に関わる仕事にも色々な種類があって、様々な資格や免許が必要になることを知ったので、そのために進学、就職先も早めに決めて見通しを立てておきたいと思いました。

--

免許が必要な職業や資格を持っていた方がよい職業などたくさんの種類の職業があることがわかりました。

--

ペットショップや動物看護師、トリマーなどちゃんと犬の事を色々してすごいなと思ったし、ペットショップではお客様にも的確なアドバイスをしていると分かってビックリしました。

--

今日の講話を聞いて、とても必要な事は“技術・資格”という事がわかりました。知識があっても技術がないと仕事はなりたないという事もわかりました。これから色々な事を学ぶなかで将来に活かしていきたいです。

--

今日は、動物の仕事をするさいに、どんな資格が必要かくわしく知ることができました。これを参考に進路につなげていきたいと思っています。ありがとうございました。

--

動物かかわるときには、しっかり観察して病気などの体のふちょうにもしっかり気づけるようになりたいと思いました。動物の仕事につくには資格を取ったりするので勉強、体力づくり(※原文ママ)をがんばりたいです。

--

やっぱり命に関わる仕事なので、生活が仕事中心になり、休みも少なくなりそうで大変だなと思いました。仕事をするうえで1番大切だと思ったのは、動物が好きという強い気持ちを持ち続け、動物のことを第一に考えていくことだろうと考えました。

--

動物の職業につきたいとき、目的によって動物との接し方は、変えていくべきだと思った。あと、動物も人と同じように命は重く、感情もあり、喋ることができないだけであって、なのに動物たちをぎゃくたいをしたり、殺した人たちの罪はとても重いと思うので、死刑でいいと思いました。

--

職業にも色々あり、自分が将来どのような職業につきたいかなどの具体的な想像が出来ました。

--

ドッグトレーナーの仕事で、訓練士と、ドッグトレーナーの犬のしつけの仕方は大きく違う事が分かって忘れないようにできるといいです。

--

動物に関わる仕事は色々あり、どれもやりがいの感じられる仕事で、技術や資格、知識が必要とされている理由に納得がきました。動物を取り扱うとき、人間のように言葉をはなせないのだから、観察しようと思いました。

--

自分はトリマーになりたいと思っていたけど、なれる気がしなくなって、他にいい動物関係の仕事ないかな、と思っていたのでとても良い機会でした。ペットショップ店員や訓練士にも興味がわいてきました。

--

話を聞いて、必要な資格や、その仕事についての事など色々知ることができたので、将来の夢はまだ決まっていないけど、もっと視野を広げて、たくさん学びながらゆっくり決めていきたいと思いました。

--

講話を聞いて、動物の仕事をするうえで、動物をしっかりと観察することや動物を中心とした生活になるかもしれないことがわかった。動物のお仕事に関わることで、命を取り扱う心構えや動物が大好きなことが必要だと思い、とても大切だと感じた。

--

美容師になるのが夢だけど、トリマーもいいなと思いました。でも、犬やねこは動くから大変そうだなと思いました。もっと犬や猫、他の動物について知りたいと思いました。

--

動物に関わる仕事につきたいという気持ちがより強くなりました。資格を取るためにも苦手な勉強をがんばってもし落ちたとしてもめげずに努力したいと思いました。これからはがんばります。

--

動物関連の仕事に就かなくても、何のために私達は働かないといけないのかをしっかりと学ぶことができた。今日学習したことを、将来に生かせるようにする！

--

今日、講話を聞いて、動物にかかわるお仕事には色々な種類があり、資格や免許が必要じゃなくても、知識・技術が必要なので、たいへんだなと思いました。また、将来、動物にかかわるお仕事をしたいと思っているので、がんばって資格や知識、技術を身につけようと思いました。

--

本日の講話を聞いて、人間と動物は、対等な関係であるが、目的によってはきびしい順練（※原文ママ）をしたりして、仕つけたり工夫が必要とわかった。どんな仕事でも必要なのは人との付き合いが大切なので、これからはもっと人との関わりを大切にコミュニケーションをとって社会にできる準備をしたいなと思いました。

--

働くことについては、お互いを支え合って働くことで、社会にもこうけんすることが出来ると思いました。私は獣医師に興味があったのですが、国家資格や仕事に必要なこと、大切なことを学び、動物と関わる仕事は想像以上に難しく、大変だと話をきいて感じました。

--

動物を扱うには、ちゃんと命を大切に、しっかりとかんさつすることが大事だとわかりました！！自分になりたいと思っていたトリマーに関する仕事についてもしっかりと聞けてうれしかったです！！

--

自分は、高校を卒業したら動物関係の職につきたいので専門学校に行きたいです。なので今日聞いたことを忘れずに自分の力にかえてこれからの生活にいかしていきたいと思います。

--

動物と関わる仕事につくには、自分が思っているよりもいろんな物が必要と分かった。自分の夢を叶えるためにも、技術や知識を増やしていきたいと思った。

--

命をあつかう仕事はどれだけ大変なことがわかりました。

--

動物に関わる仕事はたくさんあるけど、どれも観察することやコミュニケーション、知識・技術が大事で、その分資格を取得したり経験を積むことが大事だと感じた。

--

動物に関わる仕事は、思っていたより大変だなと思った。けっこうな体力が必要になってくるし、動物を

中心とした生活になる覚悟も必要、またやる気・根性など必要になってくる。最初はトリマーになりたいと思っていたけど、こんな軽い決意じゃだめだとわかったので、改めて考えようと思った。

自分は将来、犬にかかわる事をしたいと思っていて、知識や技術だけでなく、観察力や、体力、時間がとても大切だと感じました。知識や技術も大切なので勉強もがんばっていきたいと思いました。

動物を扱うには体力はもちろんの事、命を扱っているといういきすることも大切で、観察力も必要だとわかったし、人がこうして生活できているのは人が頑張っているの互いを支え合う心も大切だなと思いました。

動物と人間の病院はほぼ同じことが分かったけどなんで給料がちがうのかとっても気になりました。動物に関わる仕事をするときには、体力づくりをがんばりたい。

いくら、かわいい動物達に関わる仕事でも、生き物である以上命をみつかわるので、それだけの技術や知識を身につけることの大変さや、楽しいことばかりではなく、心体的（※原文ママ）にも、ふたんのかかる仕事だということを感じることができました。

動物に関わる仕事につくには、たくさんの知識が必要で、動物中心の生活になることもあると言っていて、体力しょうふ（※原文ママ）などもあるみたいなのでそのために、今から必要なことを学んでいきたいと思った。

動物の仕事はたくさんあって選択しも多いけど共通で専門的知識や技術・資格が必要だったり、動物をしっかりと観察して命を扱っているという心構えや肉体労働でもあるという事など、たくさんの事について知識を深める事ができたので、今後の将来の進路選択の参考にしていきたいと思った。

動物に関わる仕事は、専門知識や専門技術、資格が必要。また、命にかかわる仕事なので観察力や体力も必要な職業で、自分の将来の仕事をしっかり考えたいとしている。



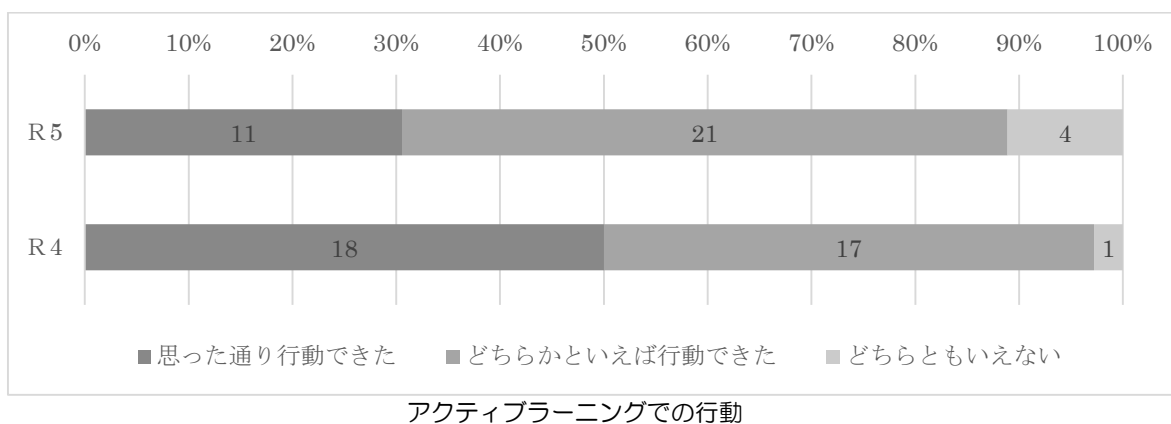


### 3.2 中部農林高等学校（コミュニケーションの重要性）職業講話

#### 実施概要

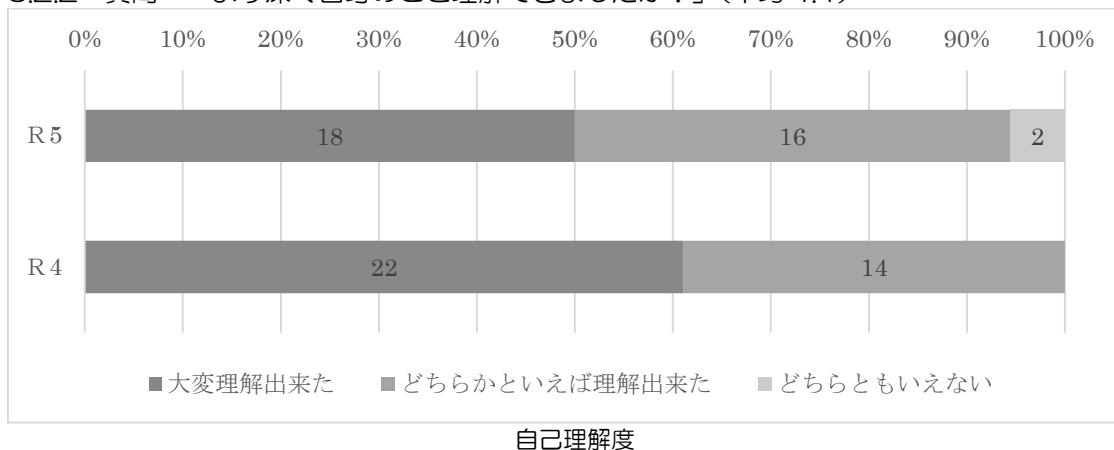
日時 令和5年11月16日 10:00~12:00  
対象 沖縄県立中部農林高等学校 熱帯資源科1年生  
人数 36名  
講師 沖縄ペットワールド専門学校 吉田剛先生  
内容 コミュニケーション力の重要性

#### 3.2.1 質問「この課題ではあなたが思った通り行動することができましたか？」（平均 4.2）



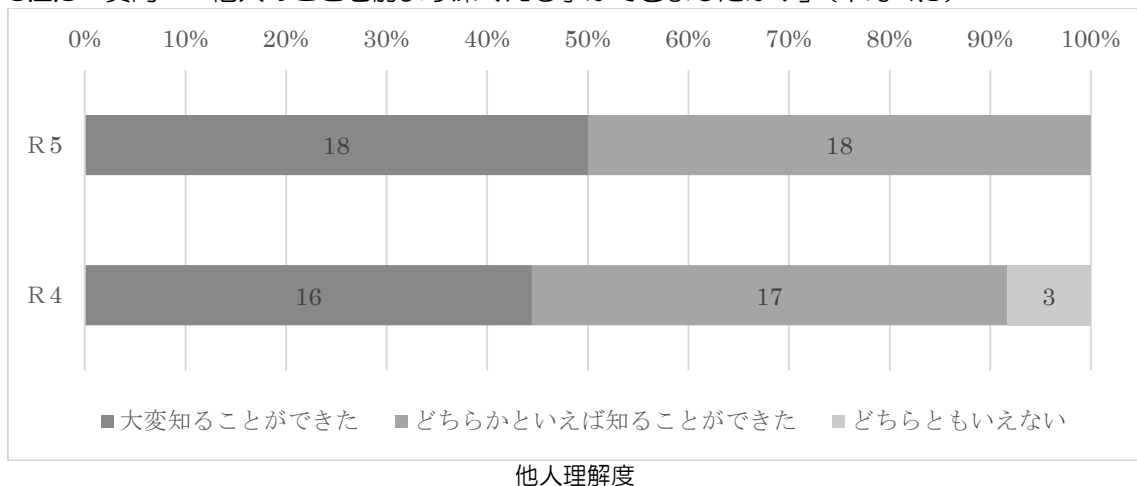
92%の生徒が、「行動できた」「どちらかといえば行動できた」と答えた。

3.2.2 質問 「より深く自身のこと理解できましたか？」(平均 4.4)



94%の生徒が、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」と答えた。

3.2.3 質問 「他人のことを前より深く知る事ができましたか？」(平均 4.5)



100%の生徒が、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」と答えた。

3.2.4 質問 「あなたにとってプラスになりましたか？」(平均 4.7)

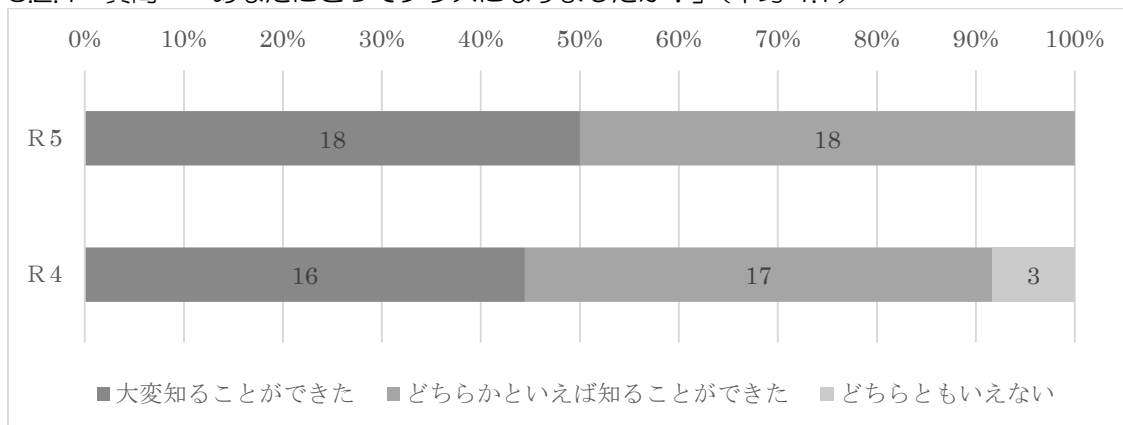


図 2-4 授業効用感

100%の生徒が、「プラスになった」「どちらかといえばプラスになった」と答えた。

### 3.2.5 質問 「特に印象に残ったことや初めて知ったことを、箇条書きで記入してください。」

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、句読点の位置も原文のままにしている。

初めて自分のパターンを知ってどんなことが得意なのかにがてなのかがわかりました！！

--  
謎の宝島というゲームを初めて遊んでみたけどけっこうチームワークなどが大事になってとても楽しかったと思う

--  
自分のエゴグラムがどういうのか分かった。協力して地図をつくることができた。

--  
エゴグラムで自分の事は理解できたんですけど謎の宝島で人と協力するのが苦手だと分かりました。

--  
今日はゲームをいっぱいして人とのコミュニケーション能力や協力性を高め、前よりもみんなのことを知って仲を深めることが出来たと思います。めっちゃ楽しかったし、自分の正確のパターンを知ることができたのでそれを生かして、自分に合うしょくぎょうに向けて勉強を頑張りたいと思いました！

--  
人間関係を深めるために、ごちゃまぜBINGOや宝島の場所をグループで協力するゲームをして、自分のことを知ることができたり、グループで話し合いをすることがあった。

--  
宝島のゲームがなかなか解決できなくて大変だった。コミュニケーションは役に立つことがわかった。宝島のゲームは慎重にやっていかないと難しく育てているフルーツを食べたかった。

--  
他の人の特徴をごちゃまぜBINGOで意外な一面や面白い所などが知りたい、交流したりすることが出来て、印象に残りました。後、自分自身のパターンも知れました。

--  
宝探しの時には話をよく聞くと地図のことが分かってきたのでよく聞いてメモを取ることが大事だとよく印象に残りました。

--  
ごちゃまぜビンゴとか宝島もそうだけど、コミュニケーション能力がとても大切になって、話すことで自分が知らなかった情報を新しく得ることができると初めて知った。

--  
コミュニケーションとは自分のはなしをする、相手のはなしを聴く事だとわかりました。

--  
宝島が自分たちでクリアできなかったのがとてもくやしかったです。自分が以外にリーダーシップがあり分からないことがあるとさいごまでつきとめたくなるせいとかだとわかった。

--  
〇〇さんがとてもいろいろやってくれて、私はさいしょらへんあまりりかいができなかったからすごいなと思いました。

--  
たくさんの人、グループの人と宝の場所をあてるゲームをしてむずかしかったけど、コミュニケーションが大切だなと思いました。

--  
グループで協力しながらゲームをする事が出来ました。自分の性格を知る事ができました。これからの学校生活に活かしていきたいです。

--  
エゴグラムで自分についてする事ができた。人には一人一人役割がある。

--  
ごちゃまぜBINGO・・・自分がどれくらい人とかかわれるか知ることができた。

エゴグラム・・・自分の性格のパターンを理解することができた

謎の宝島・・・自分がどれだけ話を共有する力があるか知る事ができた

--  
特に印象に残ったことは謎の宝島ゲームでみんなで情報を出し合い、どこに何があるのか見つけ出し、最後には宝を無事探し出すことができて嬉しかったことです。初めて知ったことは、エゴグラムで自分は2

の献身パターンだったということです。

--

自分の自我がわかった。自分のエゴグラムは円満だった。印象に残ったことはなぞの宝島です。なぞすぎて数学の問題解くよりも頭つかった気がしました。

--

エゴグラムで自分の性格の特徴などが初めて分かりました。

--

人と関わる仕事がある  
コミュニケーションが大切になってくる  
積極的にとりくむことが大切

--

謎の宝島ゲームが印象に残った。それぞれの情報にぜつみように場が分からない情報とかいらぬ情報とかあって情報整理の能力などが身についたと思った。

--

自分がどのタイプなのか、このクラスにはどのタイプが多いのか知ることができたし、友達がどのタイプなのかも知る事ができた。グループのみんなで情報を共有したりして問題を解いていくのが協力し合う事ができたと思うから印象に残った。

--

改めて自分の事を理解することができたし初めて知る自分の特徴もありました。ピンゴをしている人々と話せたことがとくに印象に残りました。

--

エゴグラムチェックリストを通して、自分はAが高くて大人な私という所が多いんだなということを知って驚きました。

--

謎の宝島ゲームを通してあまりしゃべったことのなかった人とも意見交換したりとコミュニケーションを取るいい機会になったので印象に残った。

--

宝島で宝物の場所を見つけたりすることが印象に残りました。みんなで協力的にゲームに参加することができていたのでとても良かったです。

--

謎の宝島でグループで協力して時間内に問題をとくことができた。自分が献身タイプ（誰かのためになにかをしてあげたい）

--

初めて知ったことは自分が明朗タイプだということです。特に印象に残ったことは宝島のゲームでみんなで協力して正解をみちびきだせたことです。

--

みんなで協力するゲームをやって、みんなと協力して楽しいなと思った。

--

特に印象に残ったことは、あまり話したことがない人でも話せばいいと楽しかったりしました。ゲームを通して誰とでも話せる力がとてもついたと思いました。

--

エゴグラム・チェックリストをして自分のパターンを知る事ができました。自分のパターンの特徴を聞いて当てはまるなと納得しました。周りの人のパターンも知れてよかった。

--

印象に残ったことは、なぞの宝島です。むずかしい内容だったけど、グループの人と話し合っただけで解くことができました。

--

印象に残ったことは、宝さがしです。とても探すのがむずかしかったです。

--

エゴグラムで自分の事をよくしれた。  
クラスの人々がどんなタイプなのかエゴグラムでわかった  
最後のゲームで協力できた

--

話さないと分からないことがわかりました。ごちゃまぜBINGOで自分から話さないとピンゴにならない事が分かった

謎の宝島ゲームを通して協力することやエゴグラムを通して自分の性格パターンがわかったことが印象に残った。



### 3.2.6 質問 「本日の講話を聞いて、感じたことや思ったことを自由に書いてください。」

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、句読点の位置も原文のままにしている。

今日の講話でグループみんなで協力して地図をかんせいすることができました！！次はもっと早くかんせいさせるようにしようと思いました。

--

男子地図読むの得意って言ってたけど少し方向おんちだったらしいから使えなかった。次はもうちょっと早く情報を話せるようにする。

--

感じたことは、ちゃんと情報をいったり協力してみんなでかん成したのがうれしかったけどいろいろな情報があったのは意味が分からなかった。

--

人と協力するのが苦手なので、それをどうにか改善できたらいいなと思いました。

--

今日の講話で、自分のことも、友達のこと前より知ることができてよかったと思います。今日のことをこれからのせんとくに生かしていきたいなと思いました。今日はありがとうございました！

--

今日の宝島の場所のゲームで人とコミュニケーションをとることや、自分の意見を言うことが大事だなと思いました。

--

宝島のゲームが楽しかった。自分について知る事はおもしろい事だということも分かった。最初にやったビンゴは車の免許とか、外国に行ったことがあるとかは絶対ないやんって思った。

--

講話で自分の特徴パターンが知れたり、謎の宝島ではグループでの協力が大切になっていて、とても面白かったです。それぞれ役割があてられていて、責任もありドキドキしました。これをきに、グループでの協力を高めていけたらと思いました。

--

エゴグラム、チェックリストで自分が円満な人なのか頑固な人なのかというのを知れてよかったと思う。自分自身に向きあうのは大切だと思った。

--

コミュニケーションは大切で、コミュニケーションを取ることでいろいろな事を知れると思いました。いろんなゲームをしてみて、頭を使って少しつかれたけどたのしかったです。

--

自分にはまだ自己理解できていなかったことがあったけど、いつもとちがうメンバーである宝島がしんせんでとてもたのしかったですし、自分への自己理解が高まった。

--

性格はどんなタイプの人が多いのかよく分かりました。相手のことを考えて行動したり発言したりすることが大事だなと思いました（ゲームのとき）。

--

たくさんの人とコミュニケーションがとれてとてもたのしかったです。自分の性かくがあまりわからなかったけどエゴグラム・チェックリストをやって明朗（アイドル型）みたいなのがあるとわかりました。

--

エゴグラム、ごちゃませBINGO、ひみつの宝島を通してみんなの協力やリーダーシップ、自分の特性の大切さを知る事ができました。これからの学校生活に活かしていきたいです。

--

謎の宝島であまり関わりのなかった人達と情報を交換しながら地図を完成させることができた。今後の学校生活でコミュニケーションを高めていけるように自分から積極的に自己開示することや相手の話をしっかり聞くことも大切にしていきたいと思った。

--

今回の講話やゲームをして今の自分がどれだけ人とかかれるのかというのを知ることができました。今回のことをふまえてこれからの自分をもっとのばせるようにしたいと思いました。

あまり話さない人と協力して物事を進めるのはきんちょうするし、できるかなと不安になるけど、実際にやってみるとそれぞれの性格を知ることができて楽しかったです。

--

生きて行くためにはコミュニケーションはとても大切だということをあらためて知りました。相手にわかりやすく伝えないといけないし、そこも自分で工夫しないといけないということもしりました。今日の授業はあまり関わらない人とも関わったのでよかったと思いました。

--

などの宝島で、自分は、あまり情報を想像できていなかったので、それぞれの情報に耳をかたむけて次は出来るといいです。

--

自分の知ってる情報をうまく伝えられるかを求められていた。その時に自分から話そうとする力と協力する力がとても大切

--

自己主張がすごい人は周りの人からはウザいと思われるけど、それは長所の一つであって周りの人がその人が能力を発揮する場所作りが大切だと思った。(他の人達にもいえる)それに、人が多ければ多いほど発言する量も変わる方整理する能力と傾聴するいしきも必要だと思った。

--

働くにはコミュニケーションや自分について理解する事が大事と分かったし、今回実際に自分について理解することができたり、あまり普段話さない人ともコミュニケーションをして協力し合う事ができたからすごくプラスになったと思うし良かった。

--

今日、話を聞いてゲームをしてビンゴでは色々な人と話しコミュニケーションをとることができました。エゴグラムでは自分の知らないところを知る事ができて、なぞの宝島を最後にして、みんなと協力できることができたので良かったです。

--

謎の宝島というゲームを通して課題を進めていくことで大切なことは傾聴したり、一つ一つ解決していくことが大切だと思いました。

--

私はコミュニケーション力が少し低かったので、これをきに高められたと思って楽しかったです。

--

私はあまりコミュニケーション能力はないのですが、親しい友達とトレーニングしていくことでコミュニケーション能力を身につけていこうと思いました。

--

自分のことをよく知らなかったので今回のエゴグラムで自分のタイプがわかってよかったなと思った。もっと自分をよく知って将来につなげていきたい。

--

感じたこと、思ったことは自分のことを相手に伝えて自分も相手の情報をしっかりきくことの大切さがわかりました。今後の生活に活かしたい。

--

なぞの宝島というゲームをやって必要な情報を必要な時に出してて、みんなでたくさん話ができとても楽しかった。

--

やっぱり何事も話す、発言する、聞く、などのコミュニケーションなどはとったほうがよいということをよくしりました。この講話を通して人と関わることの大切さがわかりました。

--

とても楽しかった。

--

友達と協力して行うことがとってもすきで、今日のゲームはとてもたのしかったです。

--

性格しんだんで自分の性格についてしることができました。

--

自分のことをよくしることができました。そして他の人のこともしることが出来ました。とても楽しかったです。

--

地図はとけなかったけど、自分の話をいえてあと少しでとけるところまできたので良かったです。



ゲームを通じて、多くの生徒が、自分のことについて見つめるきっかけになったことがわかる。またコミュニケーションの大切さや協力することの大切さにも気づけている。



### 3.3 高校生の職業意識に関する調査（中部農林高校前期）

#### 3.3.1 調査概要

##### 3.3.1.1 調査の目的

令和5年度「沖縄・観光分野における有機的高専連携プログラム開発・実証事業」の教育効果測定をするために、高校生の職業意識がプログラム前後の変化を調査する。また、独立行政法人国立青少年教育振興機構「高校生の進路と職業意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較-」の調査項目を一部取り入れ、全国の高校生と比較する。

##### 3.3.1.2 調査方法等

	中部農林高校	南部商業高校	具志川商業高校	国立青少年教育振興機構
調査時期	2023年7月/2月	2023年7月/2月	2023年7月/2月	2022年9~2023年1月
有効回答数	21/	23/	36/	4822
調査方法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法	集団質問紙法
調査対象	-	-	-	全国21地域28校

##### 3.3.1.3 調査対象基本属性

	中部農林高校	南部商業高校	具志川商業高校	国立青少年教育振興機構
男女比	男14% 女86%	男4% 女96%	男0% 女100%	男47% 女50%
学年	1年:0% 2年:100% 3年:0%	1年:0% 2年:100% 3年:0%	1年:0% 2年:100% 3年:0%	1年:38.8% 2年:31.4% 3年:29.5%

##### 3.3.1.4 南部商業・具志川商業・中部農林高校プログラム前調査

###### 中部農林高校

日時 7月20日~9月1日  
対象 熱帯資源科動物コース 2年生  
人数 21名(男3女18)

###### 南部商業高校

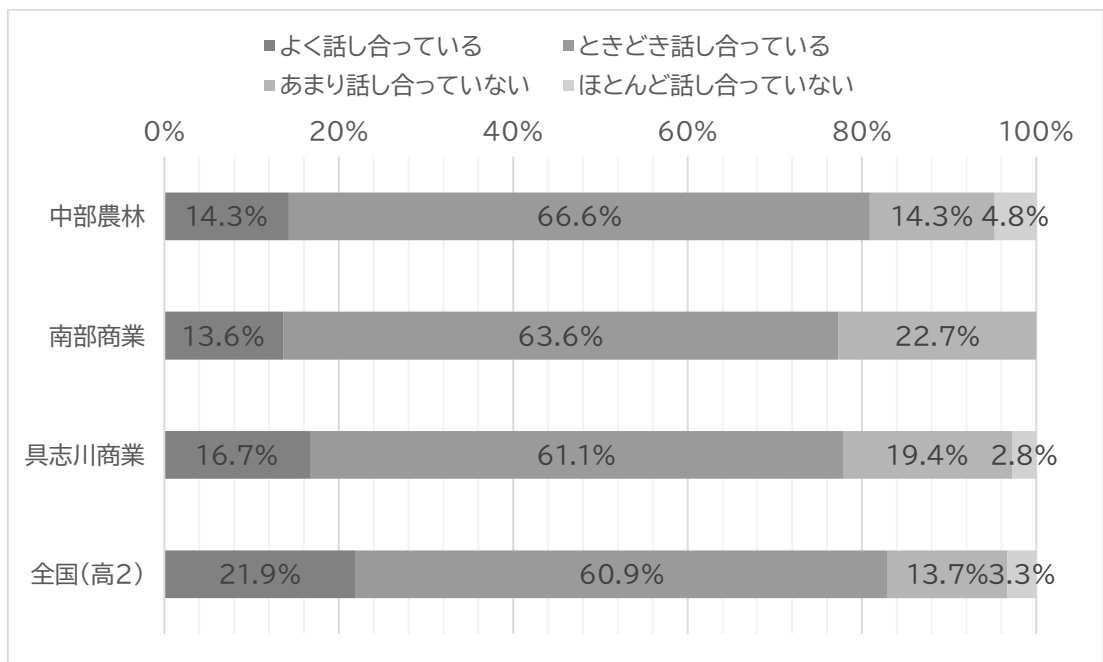
日時 7月10日  
対象 観光コース 2年生  
人数 23名(男1女22)

###### 具志川商業高校

日時 7月20日  
対象 リゾート観光科 2年生  
人数 36名(男0女36)

3.3.2 将来の生き方や進路についての保護者との会話

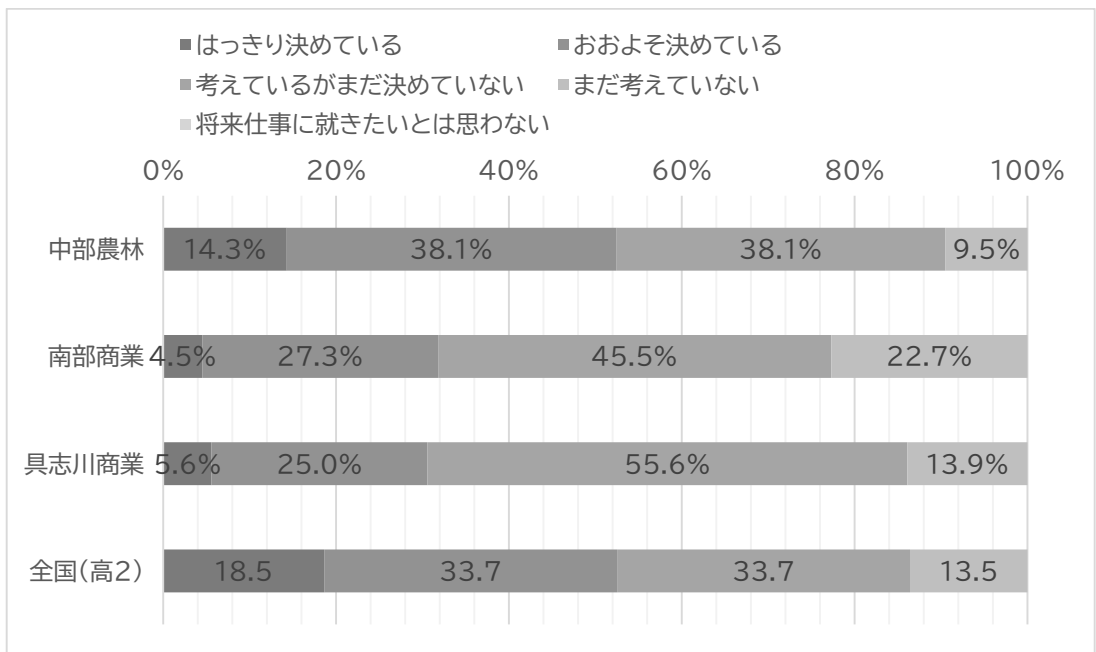
将来の生き方や進路について保護者と「よく話し合っている」「ときどき話し合っている」と回答した割合は約8割だった。また、全国と比較すると「よく話し合っている」が低かった。  
※全国データは、高校2年生のデータ



将来の生き方や進路についての保護者との会話

3.3.3 将来希望する職業を決めているか

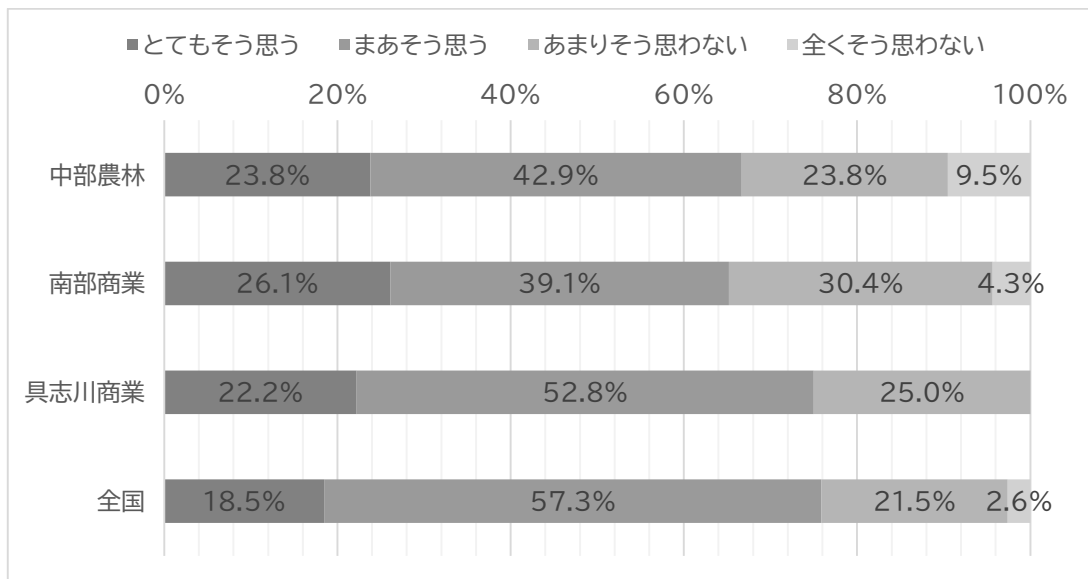
商業系高校は、将来希望する職業を、「はっきり決めている」「おおよそ決めている」と回答した割合は約3割で全国の半数以上（52.2%）に対し低かった。  
 中部農林高校は、52.4%で全国とほぼ同じだった。  
 ※全国データは、高校2年生のデータ



将来希望する職業を決めているか

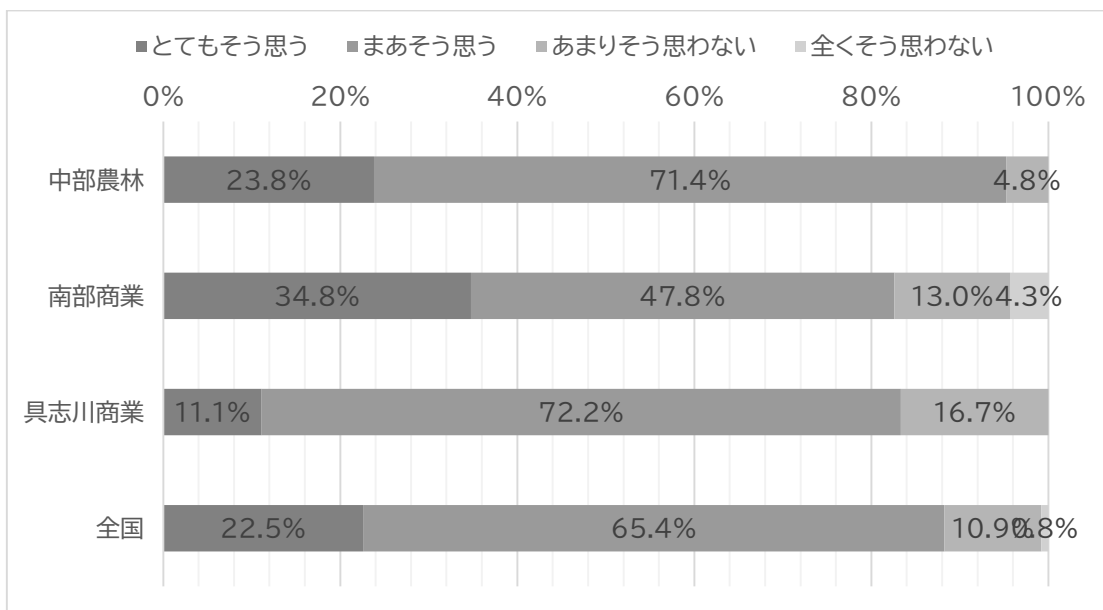
3.3.4 「仕事」「働くこと」のイメージ

3校とも「楽しい」について、「とてもそう思う」が全国と比較すると多い。南部商業は、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が34.7%、中部農林が33.3%で、全国（24.1%）より多かった。  
※全国データは、男女比調整データ



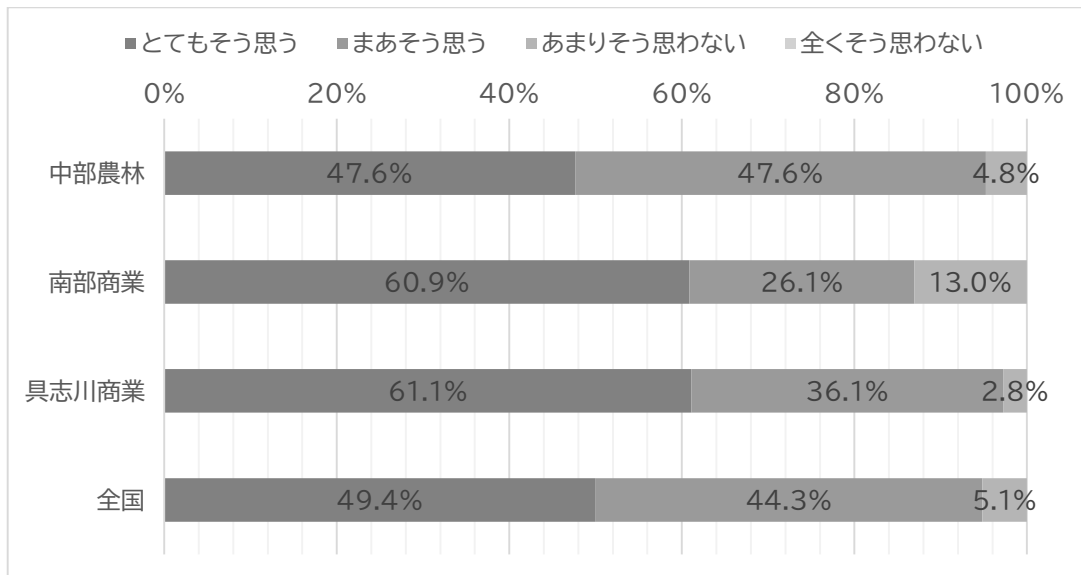
「仕事」「働くこと」のイメージ：「楽しい」

「苦しい」について、南部商業は「とてもそう思う」が多く、具志川商業は「とてもそう思う」が全国と比べて少なかった。中部農林は、95.2%が「とてもそう思う」「まあそう思う」と答えた。  
※全国データは、男女比調整データ



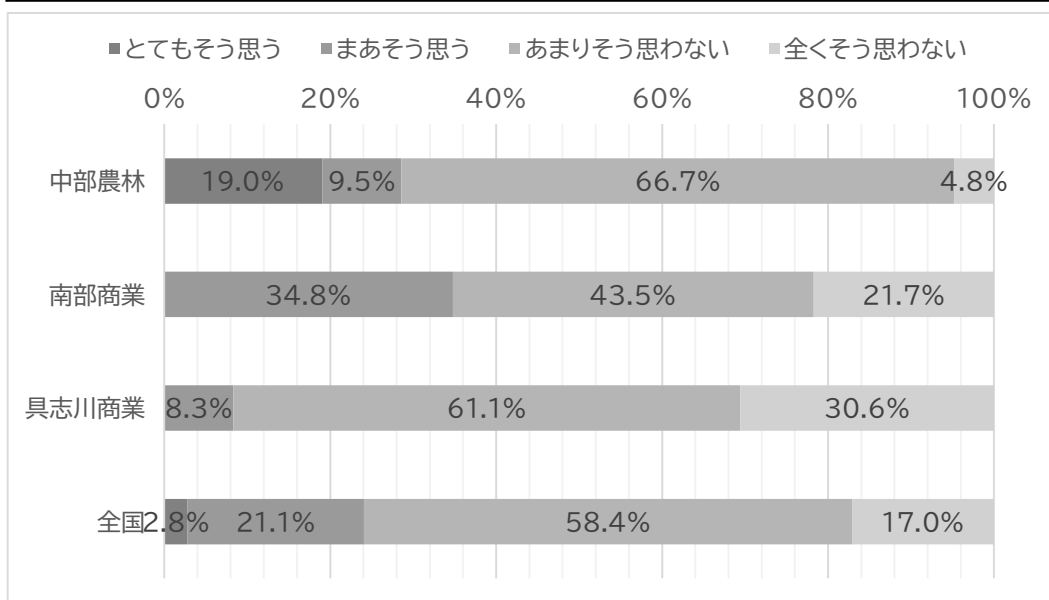
「仕事」「働くこと」のイメージ：「苦しい」

商業系高校は、「やりがいがある」について、「とてもそう思う」が全国と比較すると多かった。南部商業は、「あまりそう思わない」が13.0%だった。  
※全国データは、男女比調整データ



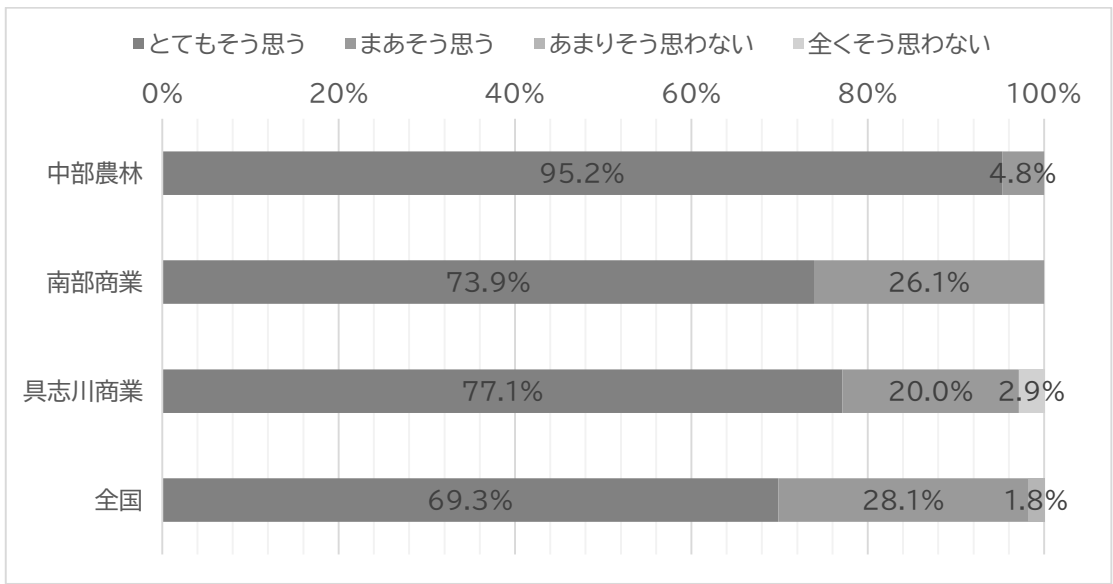
「仕事」「働くこと」のイメージ：「やりがいがある」

「つまらない」について中部農林は、「とてもそう思う」が19%だった。南部商業は、「まあそう思う」が3分の1（34.8%）だった。具志川商業は「まあそう思う」が8.3%で少なく、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」が9割を超えた。  
※全国データは、男女比調整データ



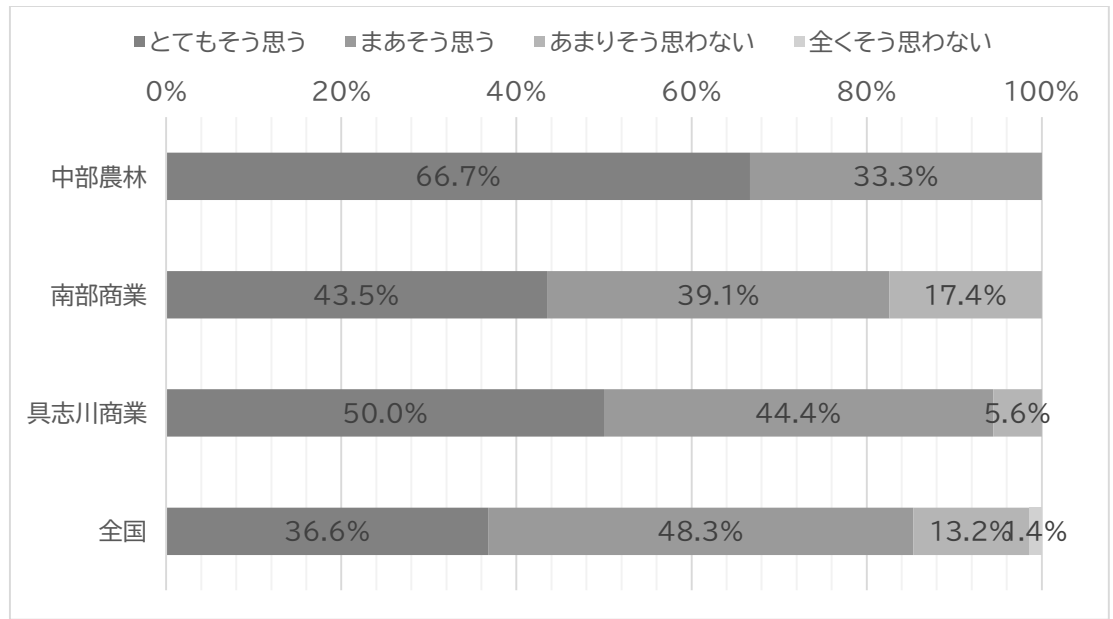
「仕事」「働くこと」のイメージ：「つまらない」

「生活のため」について、「とてもそう思う」が全国より多かった。特に中部農林は95.2%だった。  
※全国データは、男女比調整データ



「仕事」「働くこと」のイメージ：「生活のため」

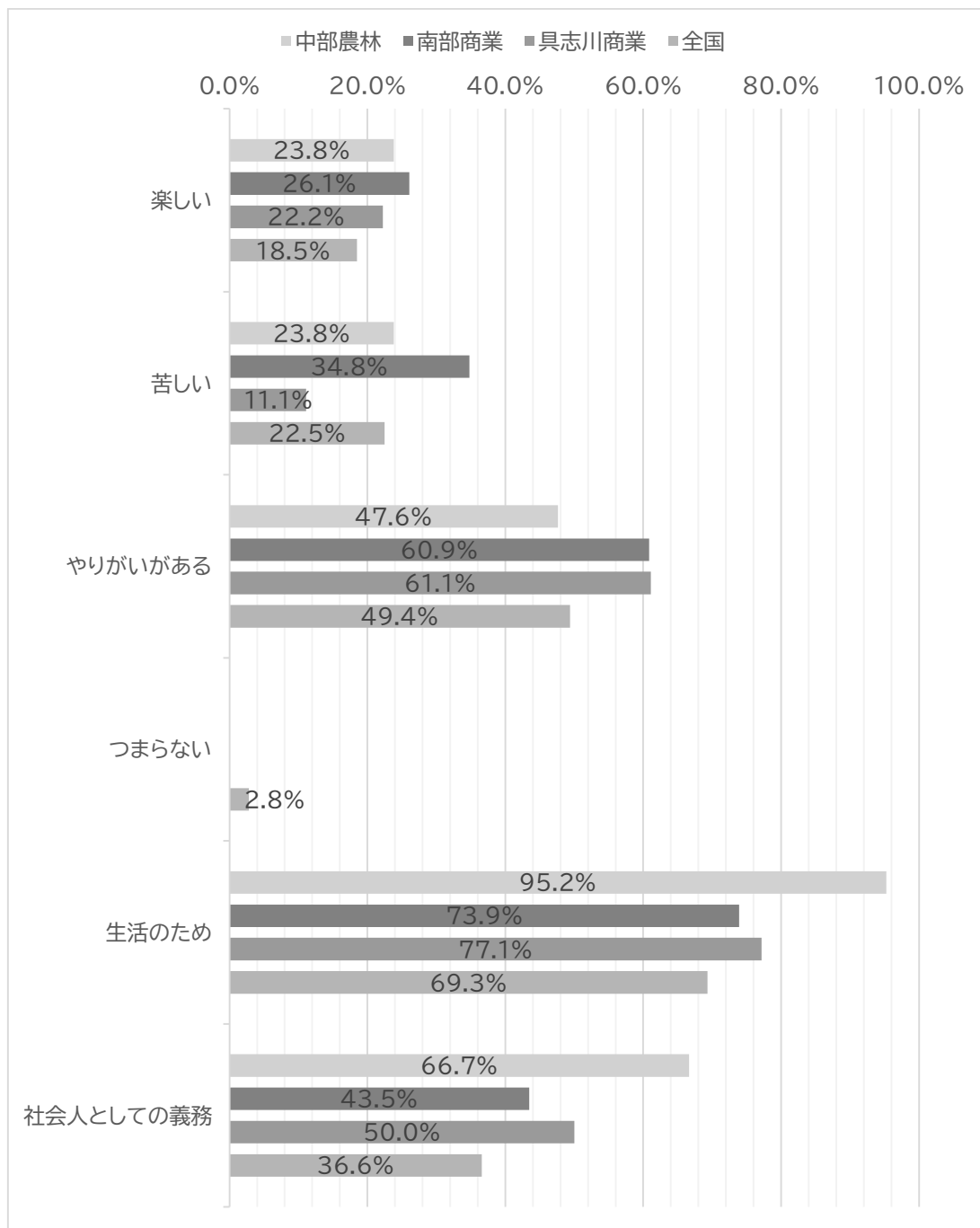
「社会人としての義務」について、「とてもそう思う」が全国と比較して多く、中部農林は3分の2、具志川商業は半数だった。  
※全国データは、男女比調整データ



「仕事」「働くこと」のイメージ：「社会人としての義務」

3.3.5 働くことのイメージの6項目について、「とてもそう思う」と回答した割合をまとめた。

中部農林は、「生活のため」「社会人としての義務」が非常に高かった。  
 南部商業は、「苦しい」「楽しい」が共に高かった。  
 具志川商業は、「苦しい」が最も少なかった。  
 ※全国データは、男女比調整データ

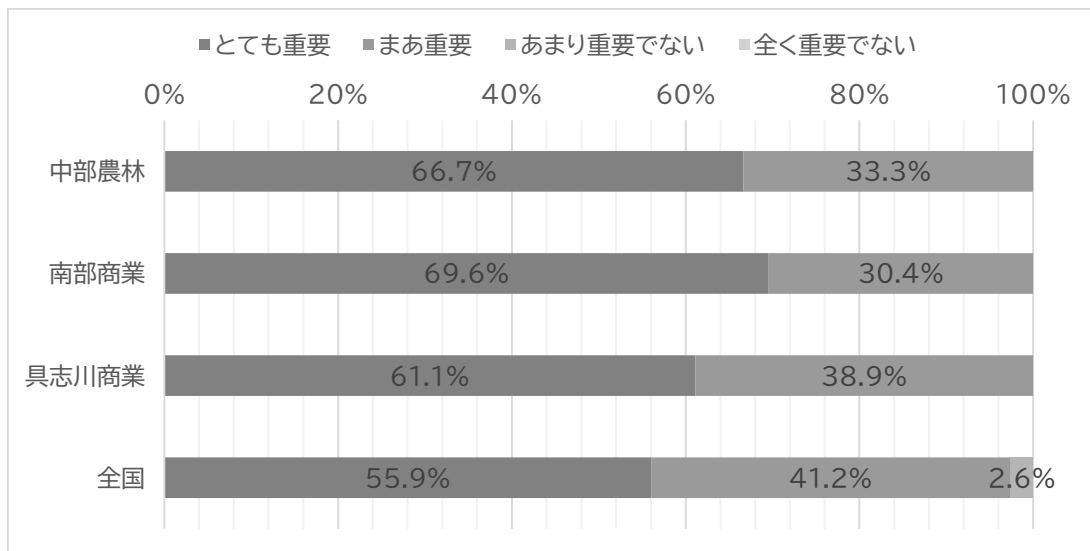


「仕事」「働くこと」のイメージで「とてもそう思う」と回答した割合



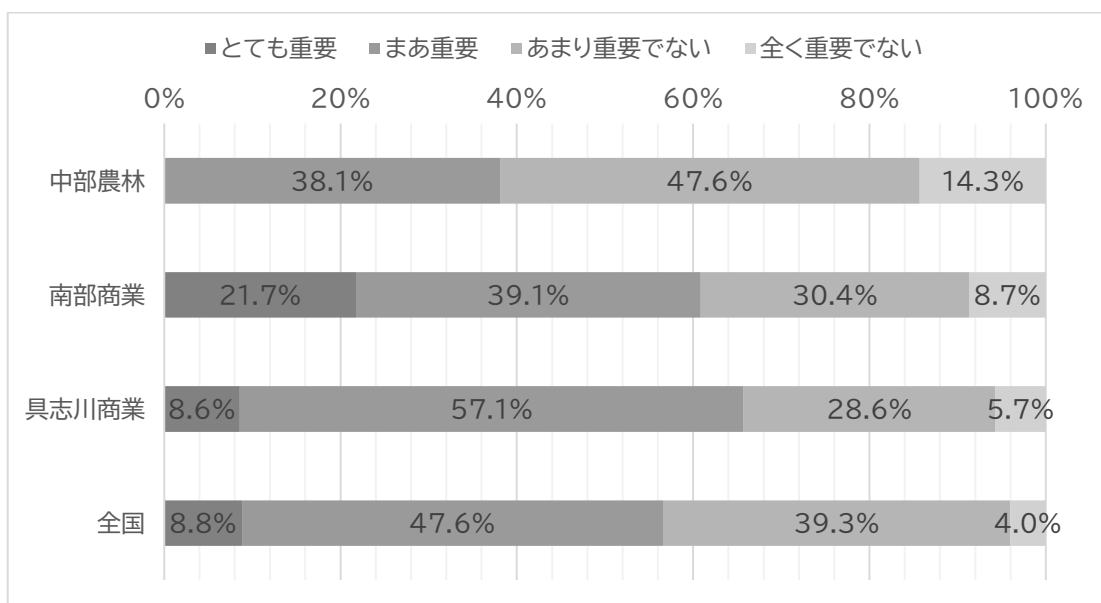
### 3.3.6 職業を選ぶにあたって重視すること

「収入」について、「とても重要」が全国（55.9%）と比較すると多かった。  
※全国データは、男女比調整データ



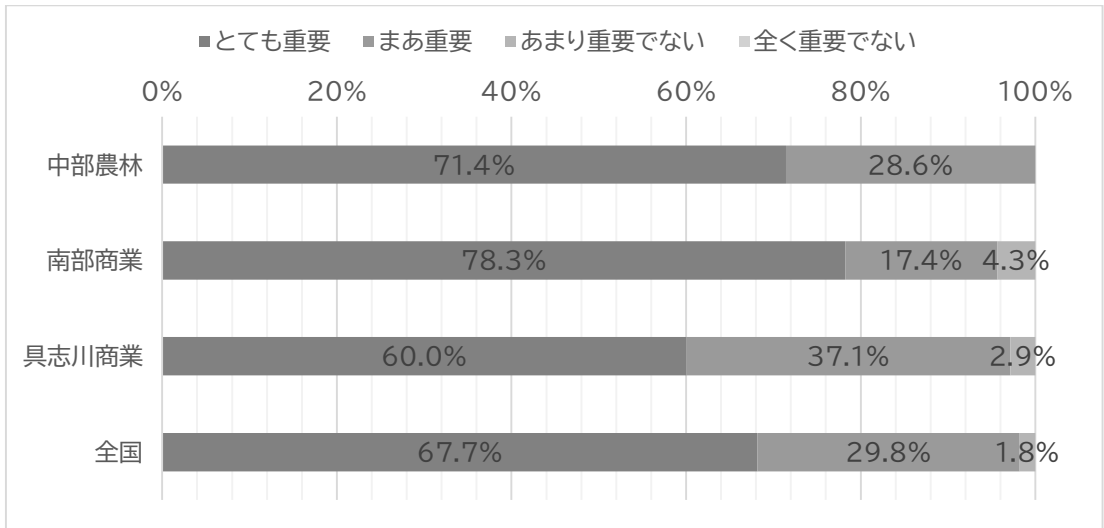
職業を選ぶにあたって重視すること：「収入」

「社会的地位」について、南部商業は「とても重要」が21.7%で全国（8.8%）と比較すると2.4倍多かった。中部農林は、「とても重要」は0%で、「重要でない」が5割を超えた。  
※全国データは、男女比調整データ



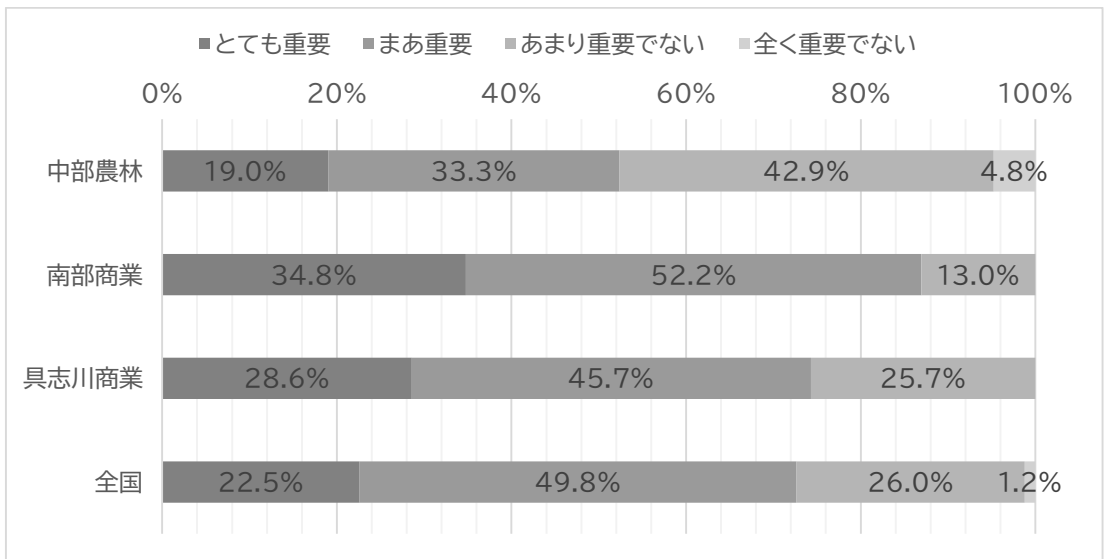
職業を選ぶにあたって重視すること：「社会的地位」

「安定性」について、中部農林と南部商業は、全国（67.7%）と比較すると多かった。  
※全国データは、男女比調整データ



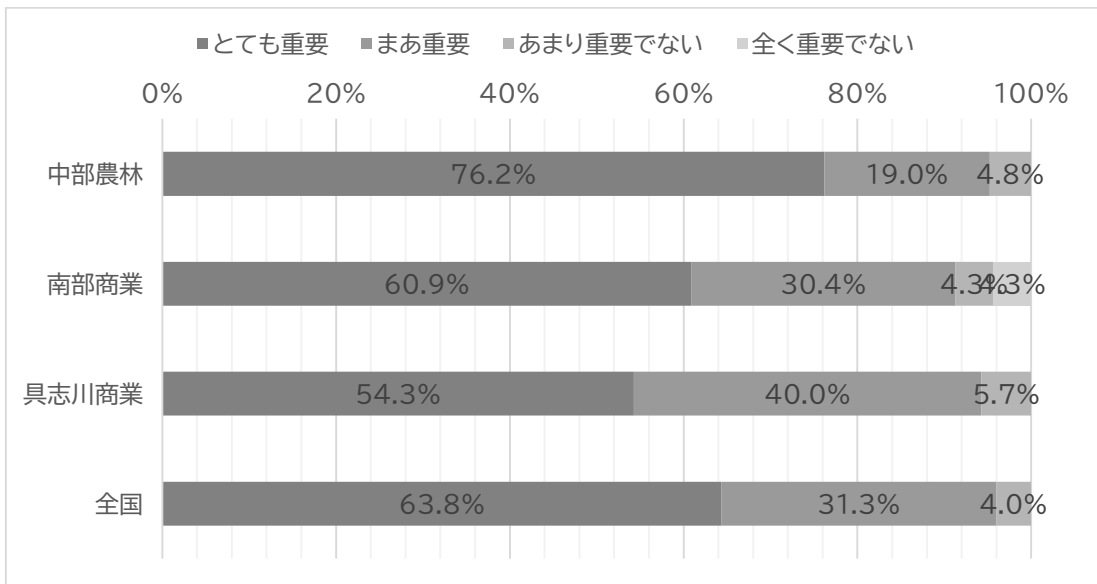
職業を選ぶにあたって重視すること：「安定性」

「仕事の内容ややり方を自分で決められる」について、商業系高校は、「とても重要」が全国（22.5%）と比較すると多かった。南部商業は、「やや重要」と合わせると87.0%になり、全国（72.3%）と比較して多かった。中部農林は、約5割が重要でないとした。  
※全国データは、男女比調整データ



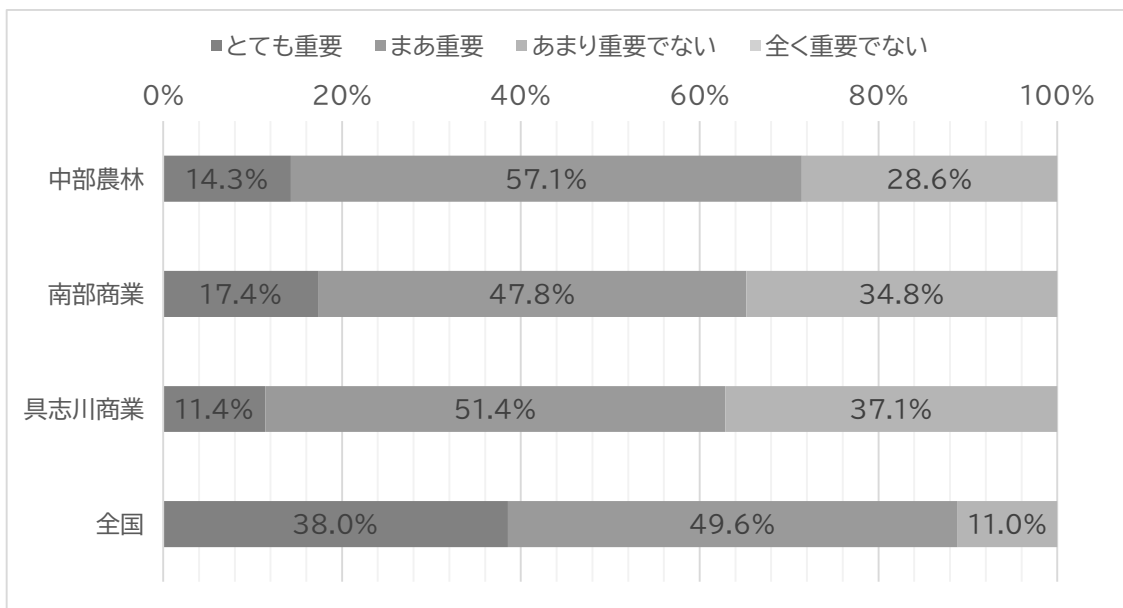
職業を選ぶにあたって重視すること：「仕事の内容ややり方を自分で決められる」

「自分の興味や好みに合っていること」について、商業系は、「とても重要」は全国と比べ低かった。中部農林は76.2%が「とても重要」と答えた。  
※全国データは、男女比調整データ



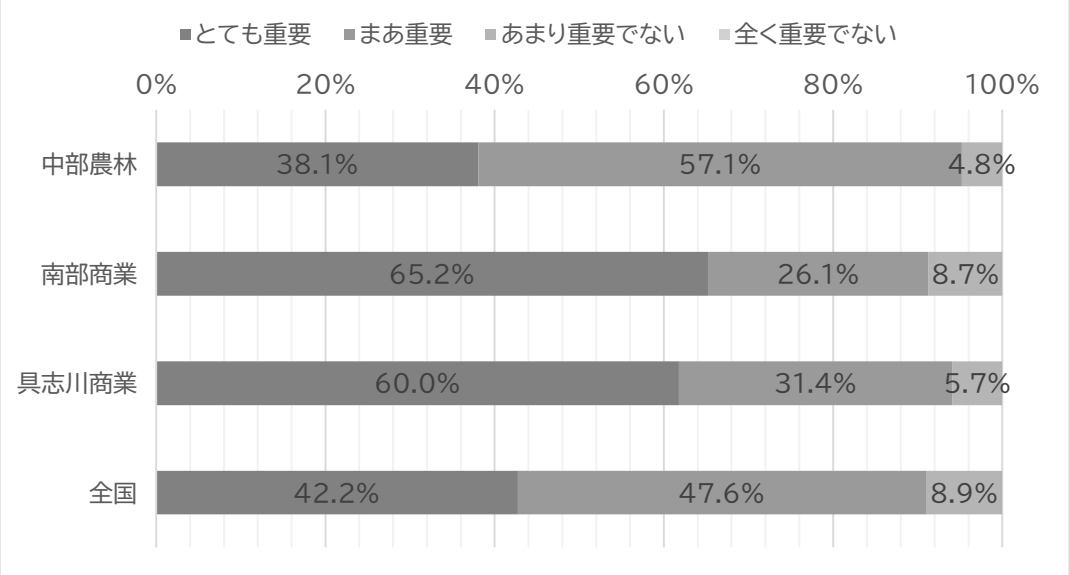
職業を選ぶにあたって重視すること：「自分の興味や好みに合っていること」

「働く時間を自由に決めること」について、「とても重要」が全国（38.0%）と比較して半分以下だった。また、「あまり重要でない」が、全国と比較すると多かった。  
※全国データは、男女比調整データ



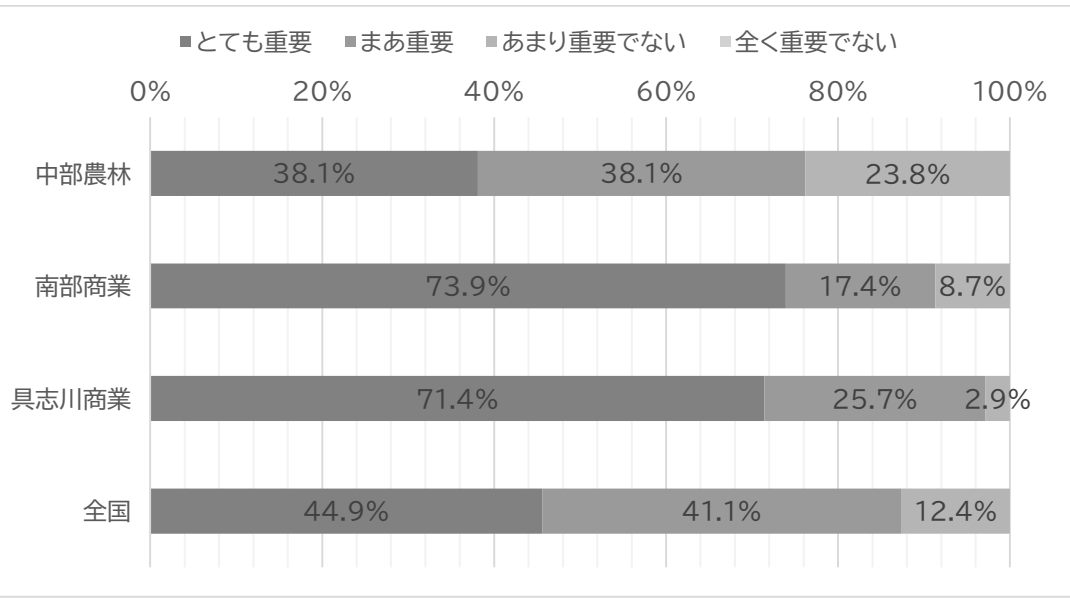
職業を選ぶにあたって重視すること：「働く時間を自由に決めること」

「能力を発揮できること」について、商業系は、「とても重要」が6割を超え、全国（42.2%）と比較して1.5倍だった。  
※全国データは、男女比調整データ



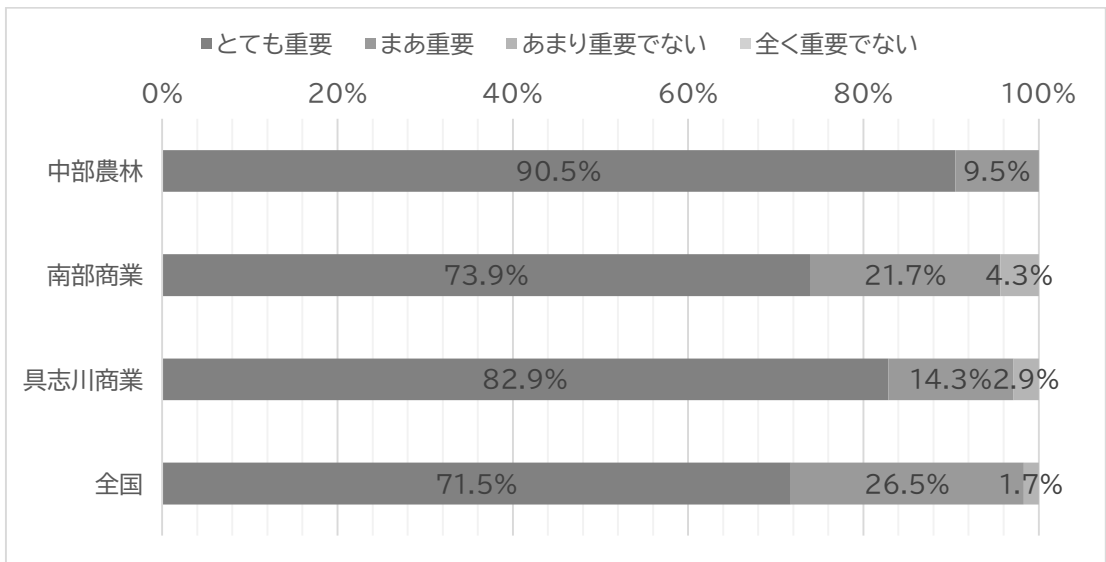
職業を選ぶにあたって重視すること：「能力を発揮できること」

「社会や人のために役立ち貢献できること」について、商業系は、「とても重要」が7割を超え、全国（44.9%）と比較して1.5倍を超えた。  
※全国データは、男女比調整データ



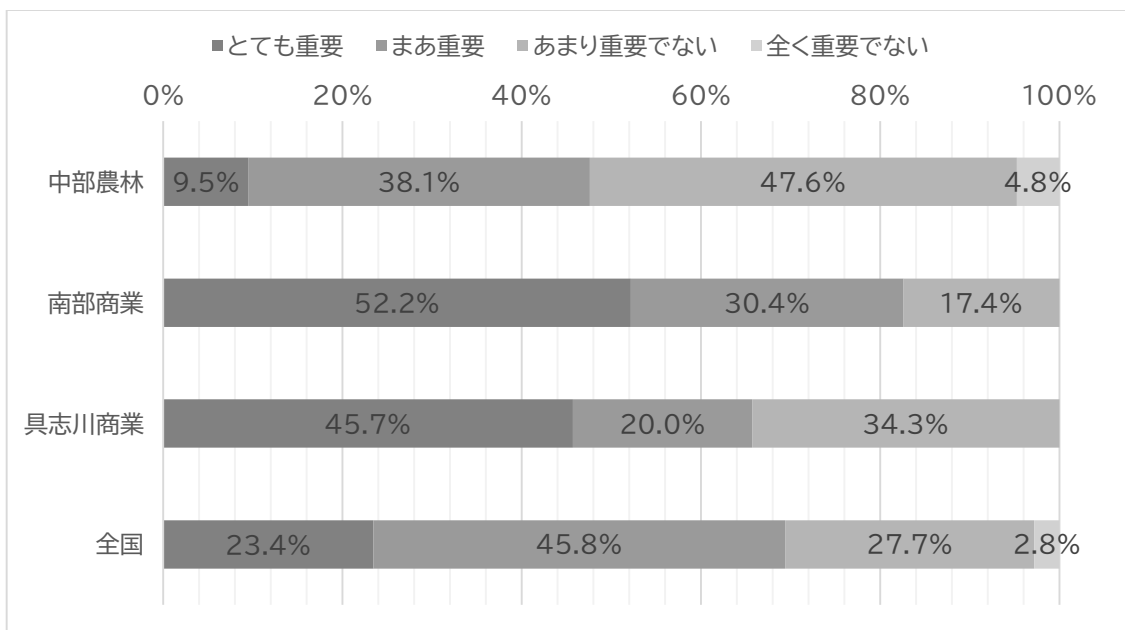
職業を選ぶにあたって重視すること：「社会や人のために役立ち貢献できること」

「働きやすいこと（仕事の環境）」について、「とても重要」が全国より高かった。特に中部農林は、90%を超えた。  
※全国データは、男女比調整データ



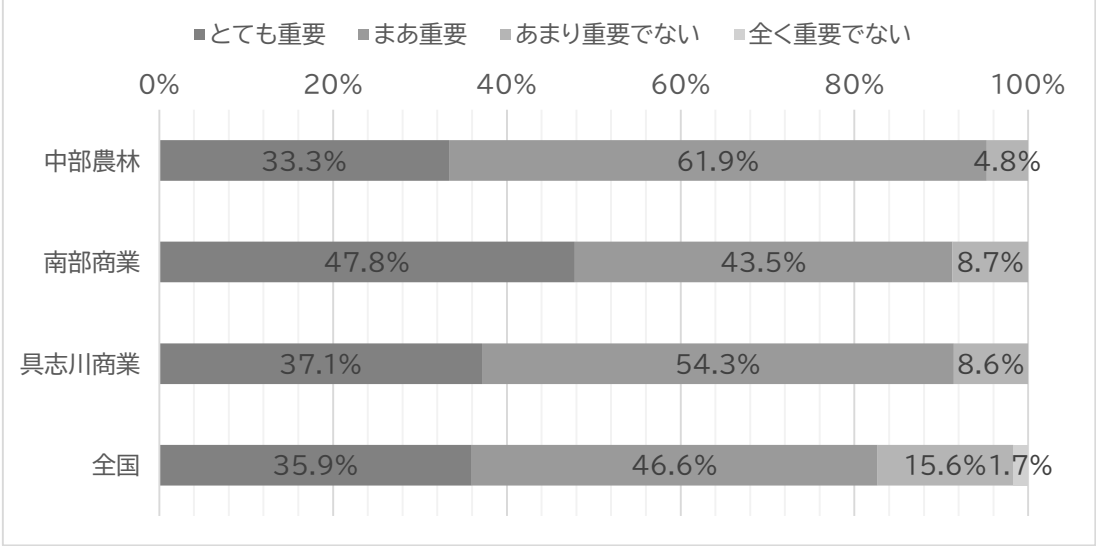
職業を選ぶにあたって重視すること：「働きやすいこと（仕事の環境）」

「新しいことにチャレンジできること」について、商業系は、「とても重要」が全国（23.4%）の2倍以上だった。中部農林は、「とても重要」が9.5%で1割に満たなかった。また「全く重要でない」「あまり重要でない」は半数を超えた。  
※全国データは、男女比調整データ



職業を選ぶにあたって重視すること：「新しいことにチャレンジできること」

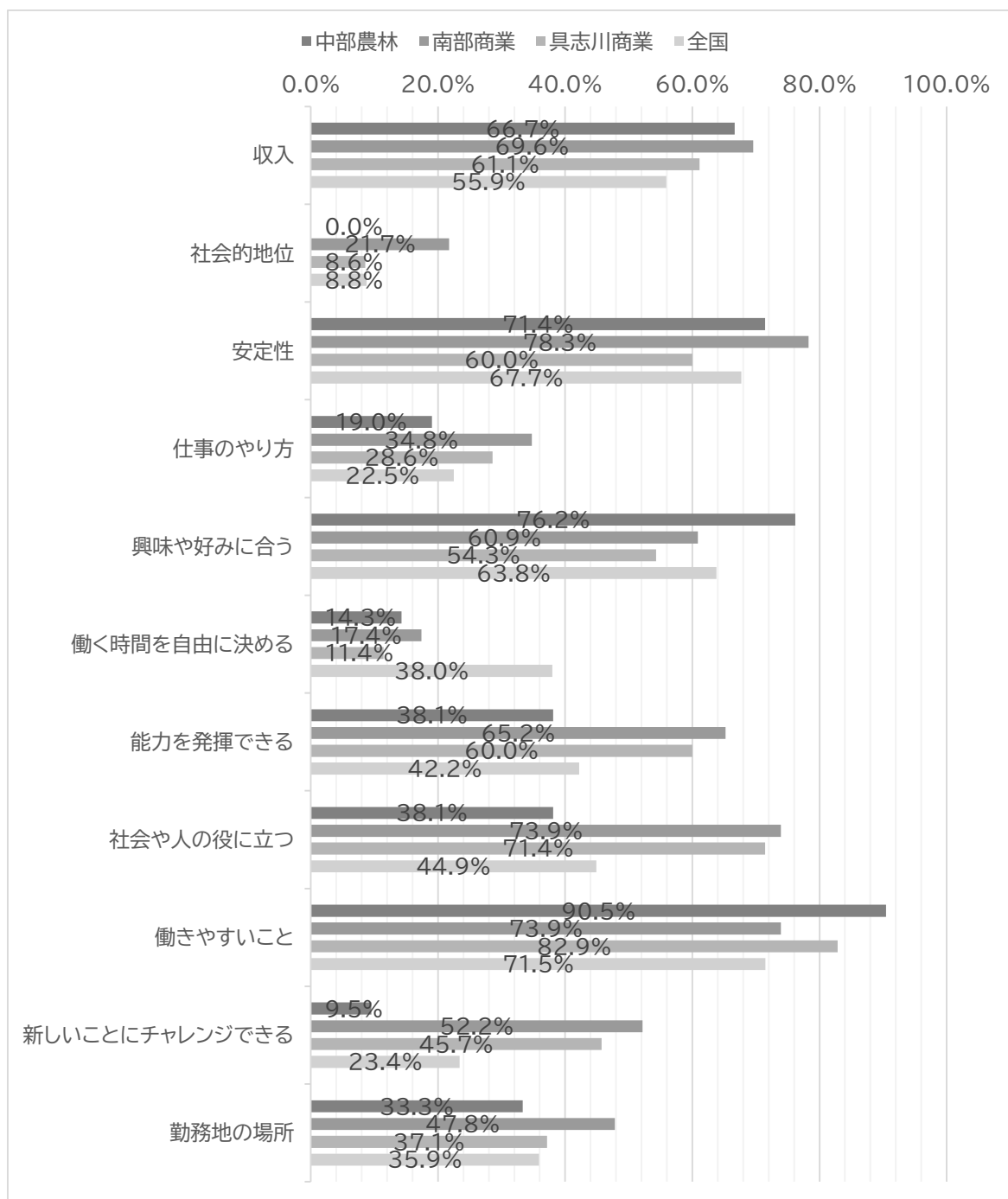
「勤務地の場所」について、「とても重要」「まあ重要」が9割を超えた。  
※全国データは、男女比調整データ



職業を選ぶにあたって重視すること：「勤務地の場所」

3.3.7 職業を選ぶ際に重視することの11項目について、「とても重要」と回答した割合をまとめた。

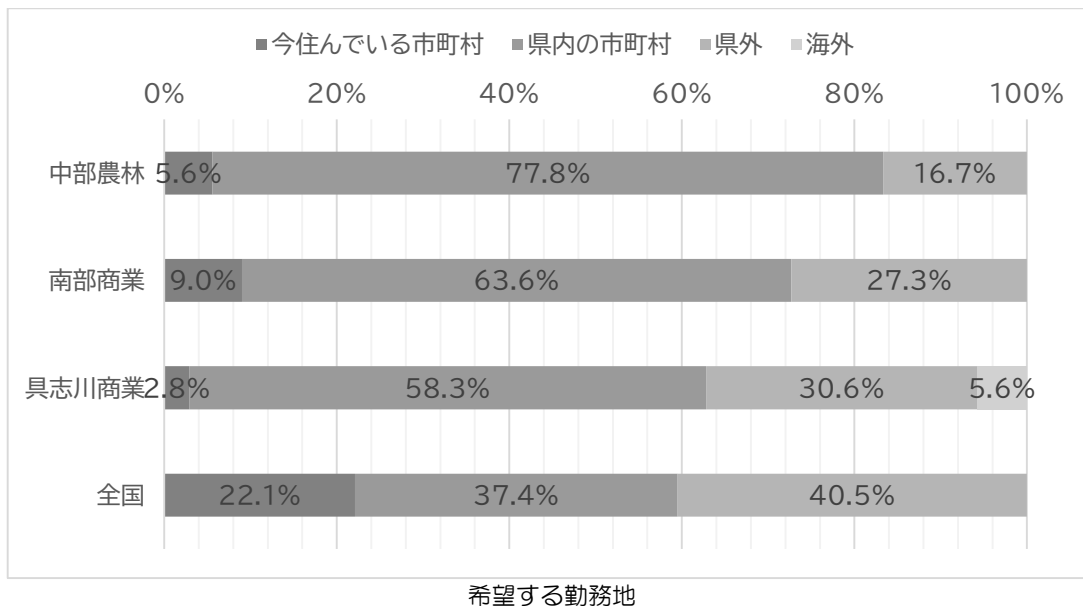
南部商業は「安定性」が一位、具志川商業と中部農林は「働きやすいこと」が一位だった。商業系高校は、「社会や人の役に立つ」「能力を發揮できる」項目が全国の1.5倍高かった。  
「働く時間を自由に決める」は3校とも全国を大きく下回った。  
※全国データは、男女比調整データ



職業を選ぶにあたって重視することで「とても重要」と回答した割合

### 3.3.8 希望する勤務地

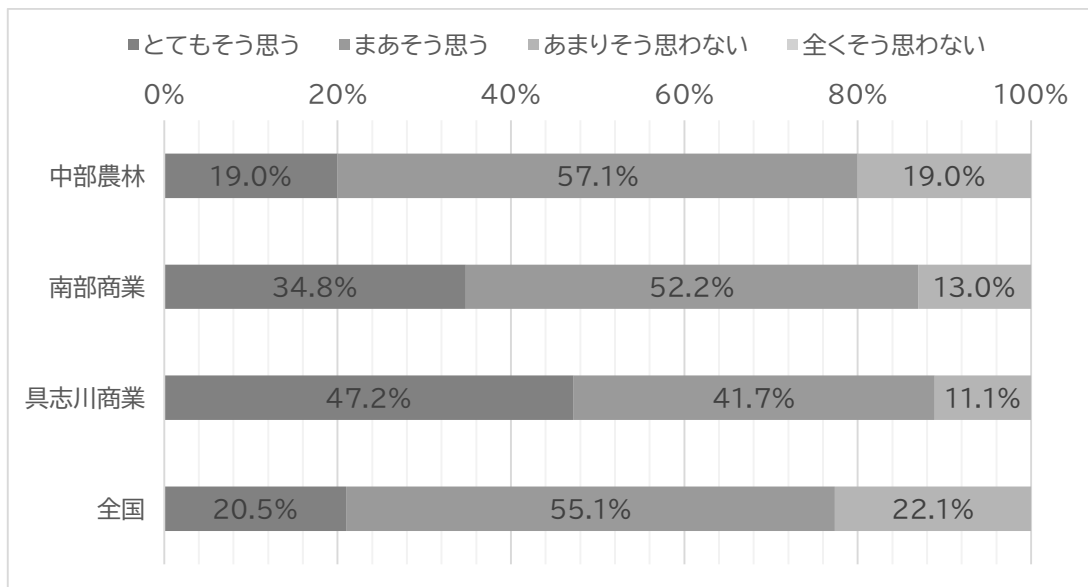
「希望する勤務地」について、「今住んでいる市町村」は低く、「県内の市町村」が高かった。県内就職希望者が多く全国と比較して県内志向が強い。  
※全国データは、男女比調整データ





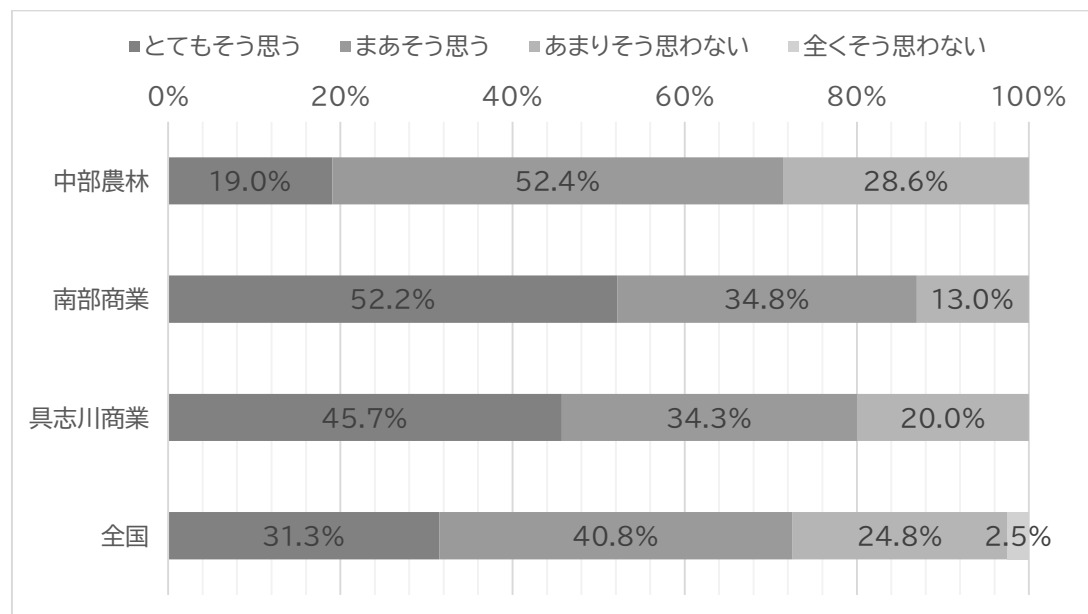
### 3.3.9 仕事に関する意識・考え

「やりたいことに困難があっても挑戦したい」について、商業系高校は「とてもそう思う」が具志川商業 47.2%、南部商業 34.8%で、全国（20.5%）と比較して多い。  
※全国データは、男女比調整データ



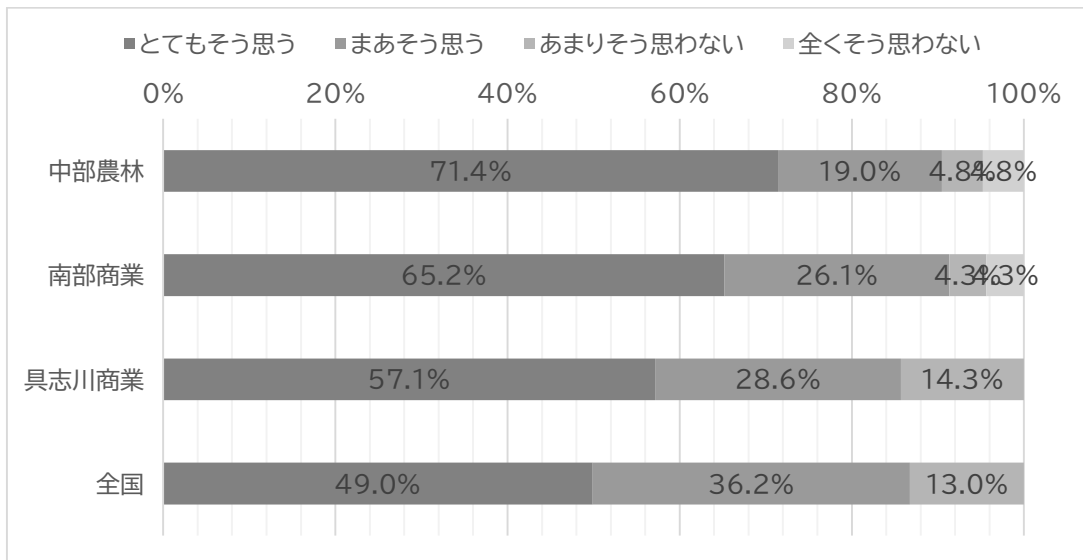
やりたいことに困難があっても挑戦したい

「若いうちはいろいろな仕事を体験したい」について、商業系は「とてもそう思う」が南部商業 52.2%、具志川商業 45.7%で、全国（31.3%）と比較して多い。中部農林は「とてもそう思う」が 19.0%で全国の3分の2だった。  
※全国データは、男女比調整データ



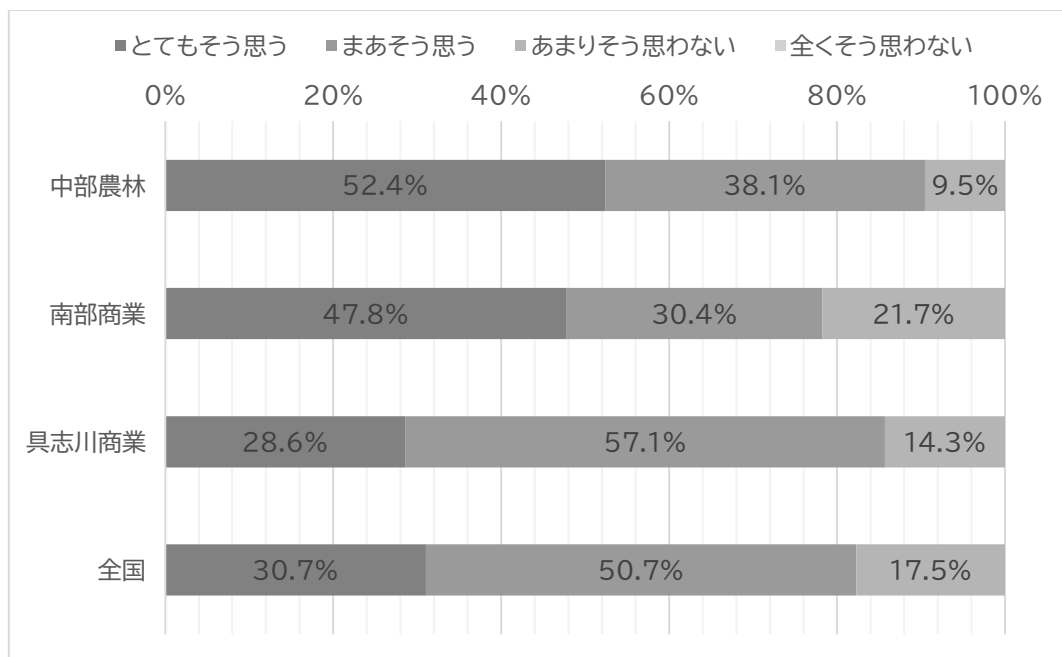
若いうちはいろいろな仕事を体験したい

「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」について、「とてもそう思う」が南部商業 65.2%、具志川商業 57.1%、中部農林 71.4%で、全国（49.0%）より多かった。  
※全国データは、男女比調整データ



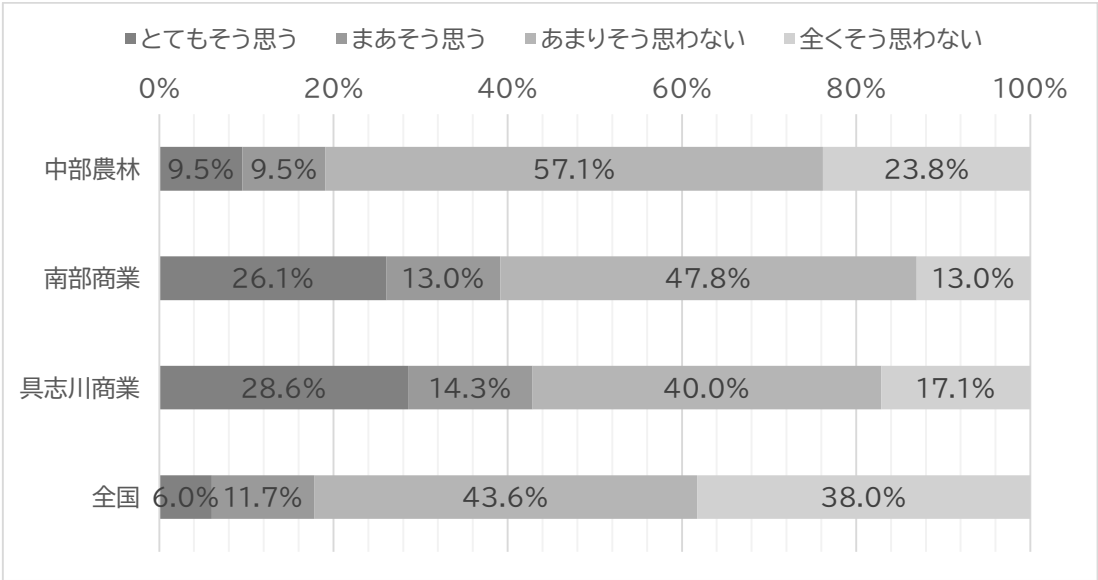
暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい

「仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい」について、「とてもそう思う」が南部商業 47.8%、中部農林 52.4%で、全国（30.7%）の1.5倍を超えた。  
※全国データは、男女比調整データ



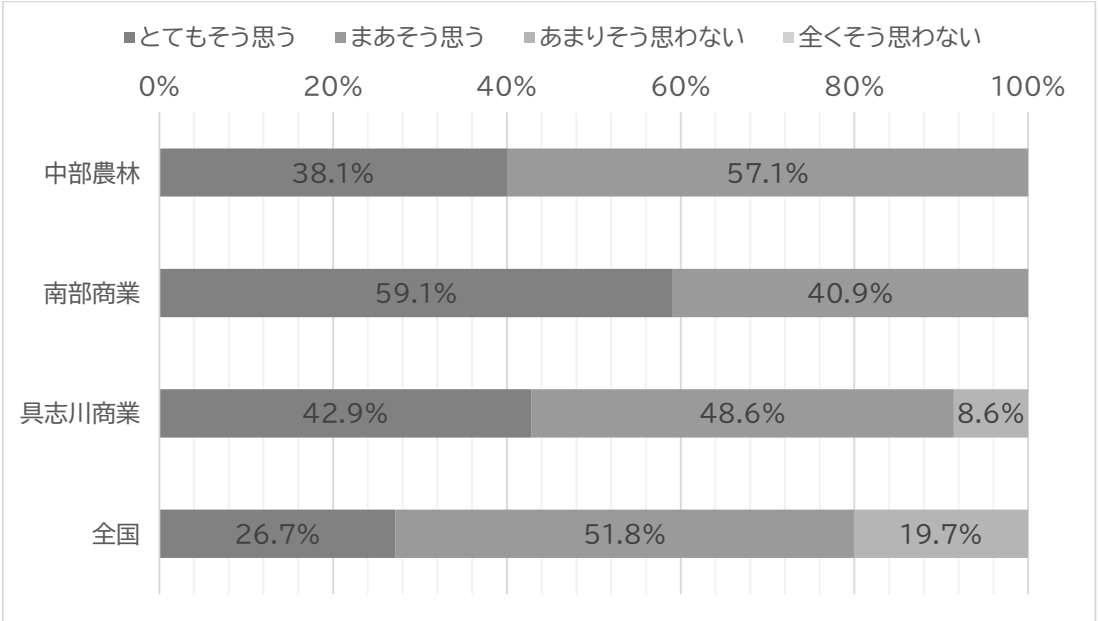
仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい

「自分の会社や店を作りたい」について、「とてもそう思う」が南部商業 26.1%、具志川商業 28.6%だった。「まあそう思う」を合わせると両校約 40%で、全国（17.7%）の2倍以上だった。中部農林は「全くそう思わない」が 23.8%で全国（38.0%）より少なかった。  
※全国データは、男女比調整データ



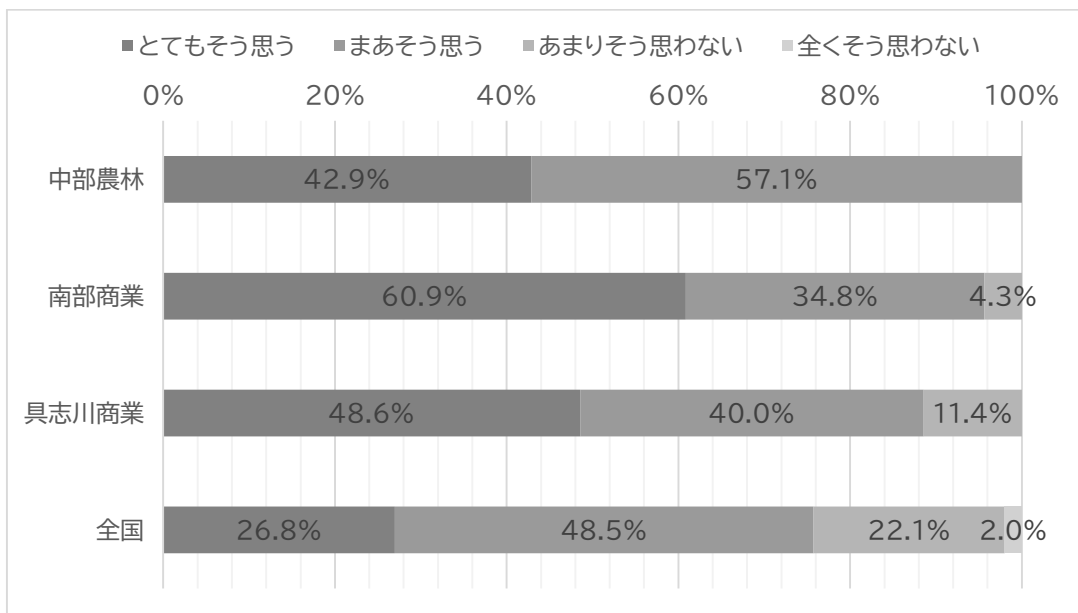
自分の会社や店を作りたい

「学歴より技術や技能を身につけることが大事だ」について、「とてもそう思う」が南部商業 59.1%、具志川商業 42.9%、中部農林 38.1%で、全国（26.7%）を上回った。  
※全国データは、男女比調整データ



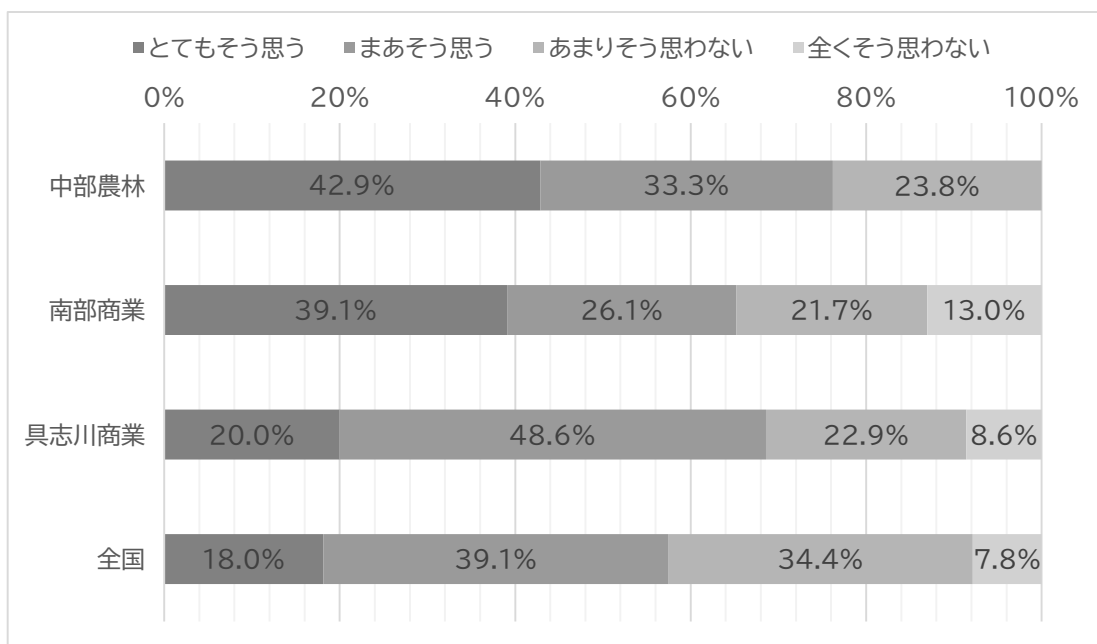
学歴より技術や技能を身につけることが大事だ

「周りに反対されても自分がやりたいことをしたい」について、「とてもそう思う」が南部商業 60.9%、具志川商業 48.6%、中部農林 42.9%で、全国（26.8%）を大きく上回った。  
※全国データは、男女比調整データ



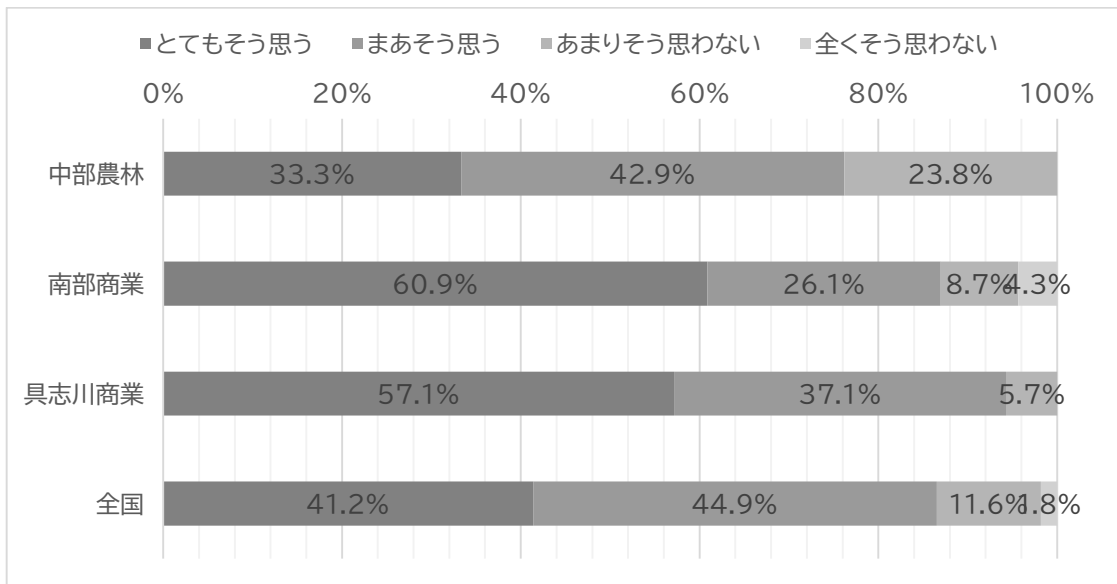
周りに反対されても自分がやりたいことをしたい

「地元で仕事や生活をしたい」について、「とてもそう思う」が中部農林 42.9%、南部商業 39.1%で、全国（18.0%）の2倍を超えた。  
※全国データは、男女比調整データ



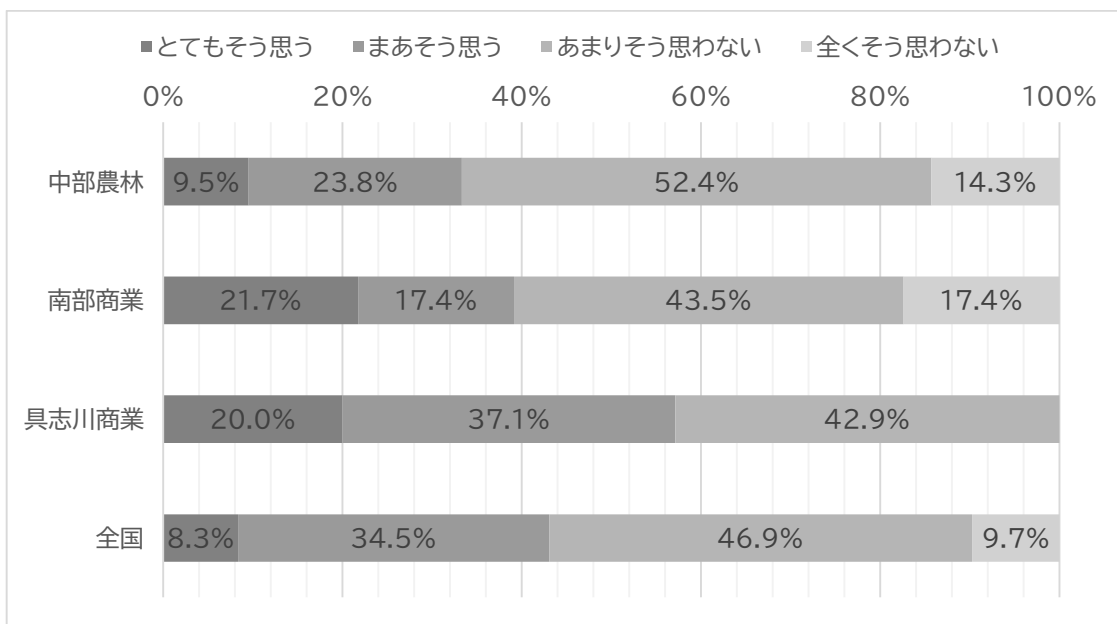
地元で仕事や生活をしたい

「社会に役立つ仕事をしたい」について、商業系高校は、「とてもそう思う」が約60%で、全国（41.2%）の1.5倍だった。  
※全国データは、男女比調整データ



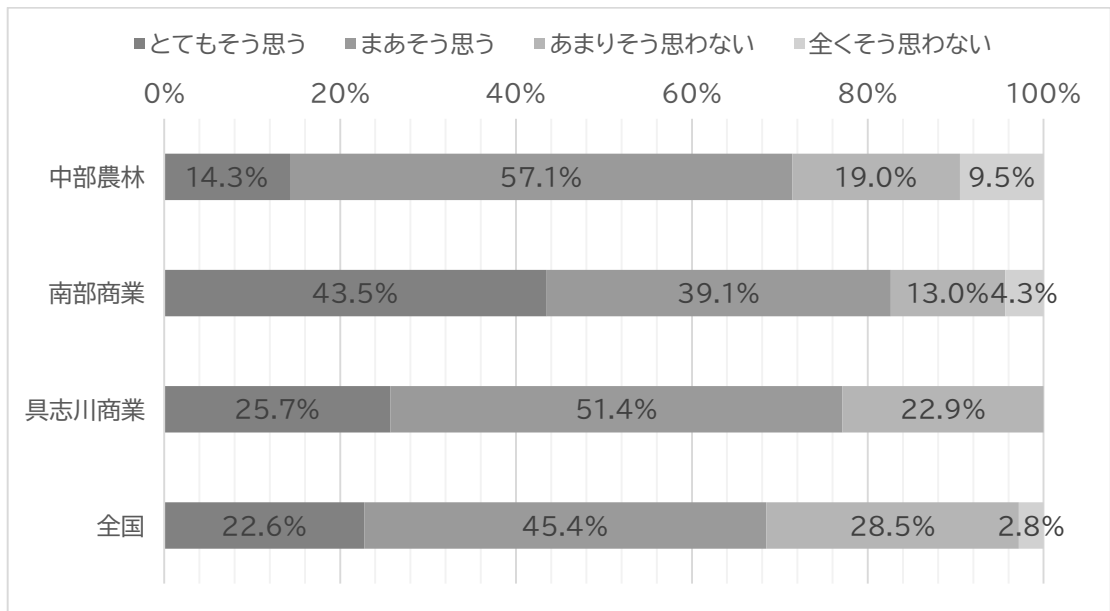
社会に役立つ仕事をしたい

「できるだけ高い地位につきたい」について、商業系高校は、「とてもそう思う」が約20%で、全国（8.3%）の2.5倍だった。「まあそう思う」を含めると具志川商業で6割近かった。  
※全国データは、男女比調整データ



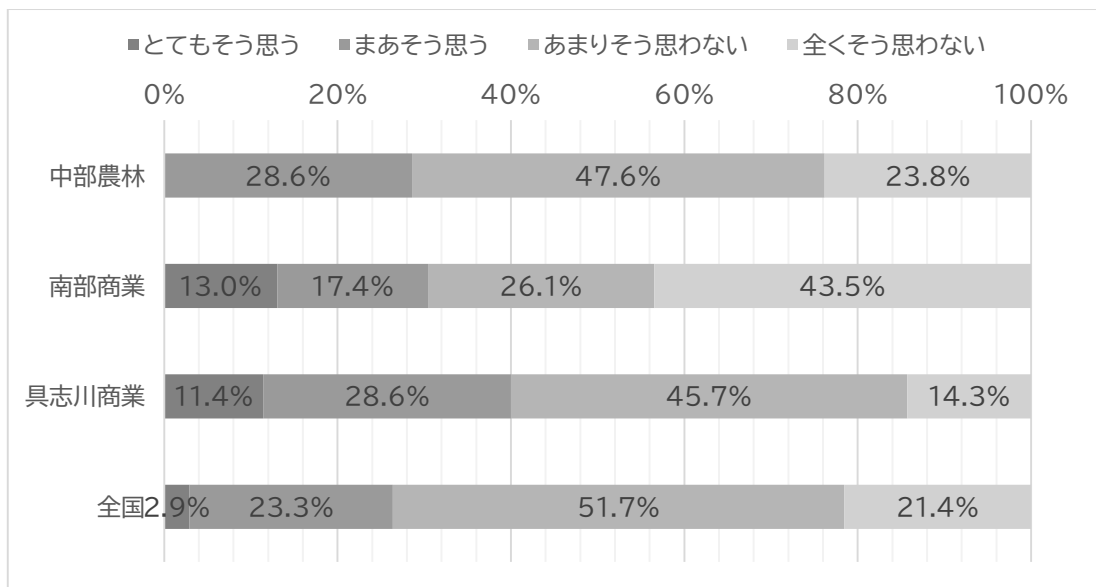
できるだけ高い地位につきたい

「よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい」について、「とてもそう思う」が南部商業43.5%で、全国（22.6%）の2倍だった。  
※全国データは、男女比調整データ



よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい

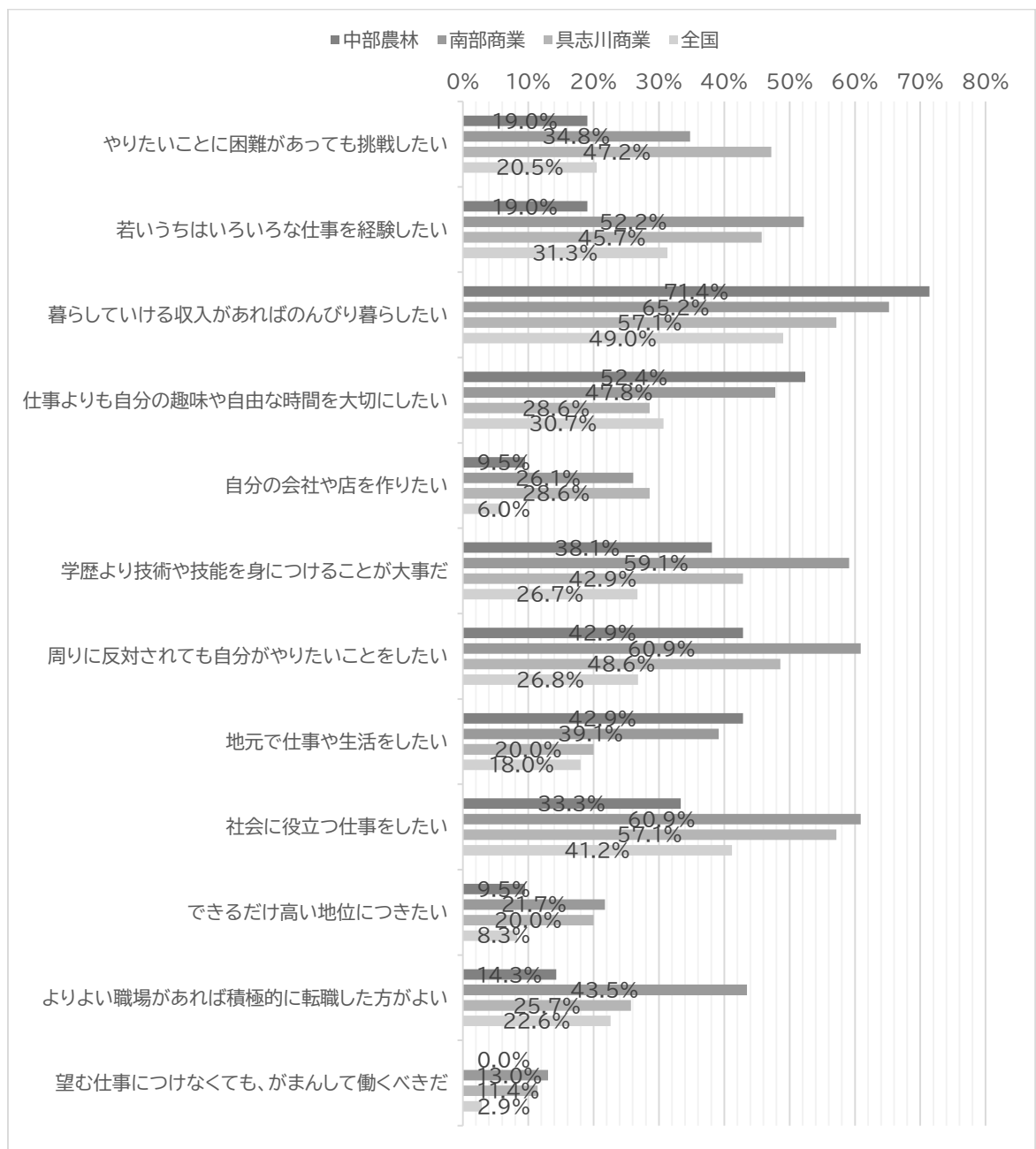
「望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ」について、「全くそう思わない」が南部商業43.5%で、全国（21.4%）の2倍だった。一方、「とてもそう思う」が13.0%で全国（2.9%）と比較して4倍だった。  
※全国データは、男女比調整データ



望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ

3.3.10 仕事に関する意識・考えの12項目について、「とてもそう思う」と回答した割合をまとめた。

中部農林は、「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」「仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい」が高かった。  
 南部商業は、「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」「周りに反対されても自分がやりたいことをしたい」「社会に役立つ仕事をしたい」が高かった。  
 具志川商業は、「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」「社会に役立つ仕事をしたい」が高かった。  
 商業系高校は、特に「やりたいことに困難があっても挑戦したい」「若いうちはいろいろな仕事を体験したい」「自分の会社や店を作りたい」が高かった。  
 ※全国データは、男女比調整データ



仕事に関する意識・考えで「とてもそう思う」と回答した割合

### 3.4 実証授業、令和6年度の取組みについての意見交換

#### <実証授業について>

中部農林高校の生徒はどの分野に進学、就職するのか分からないので専門的部分は抑えつつ、まずは教科書に載っている部分を最大に教え資格取得の意味や重要性を伝えるようにすることを1級では意識した。自身の課題としては「なぜ資格を取るのか」「取ることでどうなるか」といった部分が対策の授業に行きがちとなり、生徒たちに届いていなかったと感じた。

私たちの伝えたいことは授業の専門的な内容もちろんであるが、その部分は教科書を読めば終わる。その部分をどれだけ膨らませ、興味を持ってもらうかというところに注力したかという思いである。それがどれだけ高校生に伝わったか。もちろん愛玩動物飼養管理士の実習内容はコンテンツとして入れたが、儀間委員と同様に今から動物を対象として仕事をするということと一緒に大事なものは何かということが1つひとつ話の中で伝わればと思う。高校生からの評価は聞いてみたい。

専門学校で教える内容がよりプロフェッショナルな教材で、実証授業後は質問内容の質が圧倒的に違う。これまで以上に中身を突いてくる質問がくるので、我々ももっと勉強しないと伝えきれない。生徒たちが限られた時間の中で教材を自分で開き勉強する際の集中力がとても高くなった。

動物に関わらず「働く」ということがどういうことなのかを投げかけて働く意義、目的は人それぞれあるがどれも間違いなく、正解だという話をした後に動物に関わる仕事の紹介をした。最後にすべての動物に関わる仕事として共通して大切なことは観察すること、動物の状況に合わせて仕事を行っていく必要があるという点を話した。

#### <令和6年度の取組みについて>

学生たちは私たちのような大人と話をコミュニケーションとなると、いきなりは難しいと思うが子どもであれば知らなくても話がしやすいだろうし、これが動物園の「ふれあいコーナー」などでいきてくるのかと思う。

やはり先生や学校主体でやるより、成長して次のステップに行くということで学生に考えさせる活動の方が良いかと。例えば地域の課題を考えさせ、その課題を解決するために何か活動ができないかという地域お助け隊や、老人ホームを回ってのセラピーなど。小中学校などでもよいが動物の学校に入ってきた子どもたちが地域に還元して、それをお礼というか喜ばれる取り組みで行えると学生たちも喜ぶと思う。

動物愛護週間に合わせ、沖縄こどもの国でも関連のイベントを実施している。沖縄ペットワールド専門学校の学生にも参加してもらっている。コロナ禍で中止もあったが、ああいってイベントをもう少し推し進めても良いかもしれない。私たちも学生たちに参加してもらいたいし、学生たちが何かしていると来てくれる子どもたちも食いつきが違う。大人より学生たちから受け取るものは、また違う効果を生む。

例えば、以前の「ふれあい広場」が「どうぶつ広場」にリニューアルした。モルモットやうさぎなど小動物とふれあえる場所で、リニューアル前は子どもたちがワッと集まって自由に触っていた。現在は完全予約として人数を制限し、飼育員が動物の触り方や接し方など15分のプログラムを組んで教えている。このプログラムを学生たちにやってもらい、子どもたちに動物を通じてどのようなメッセージを伝えていくかなどを考えてもらうのも良い。学生たちが活躍する場、活動するフィールドの場として、沖縄こどもの国をぜひ活用してもらえればと思う。



## 4 第三回連携プログラム開発検討委員会

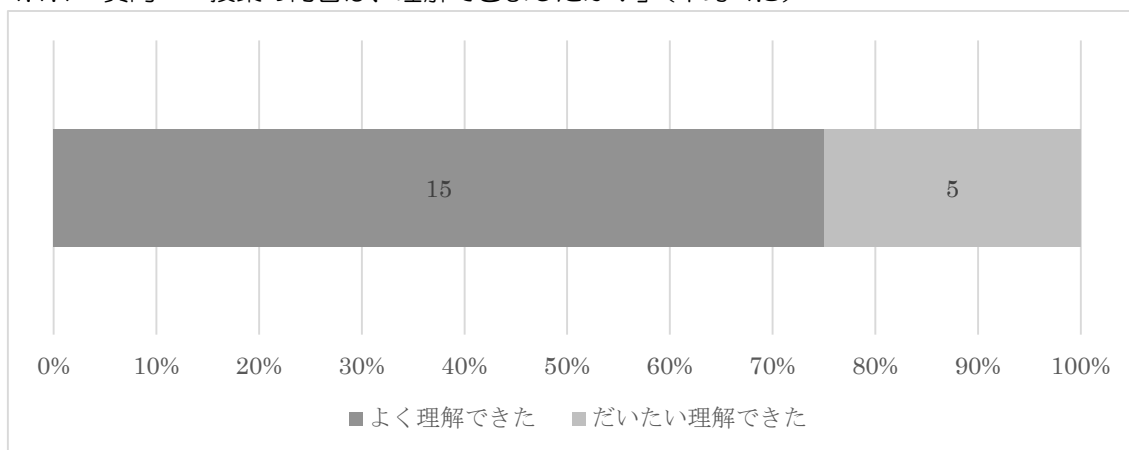
実証授業報告と検討、令和5年度事業の振り返りと令和6年度の事業計画に関する意見交換を行った。

### 4.1 中部農林高等学校 職業講話（職業図鑑）プログラム評価

#### 実施概要

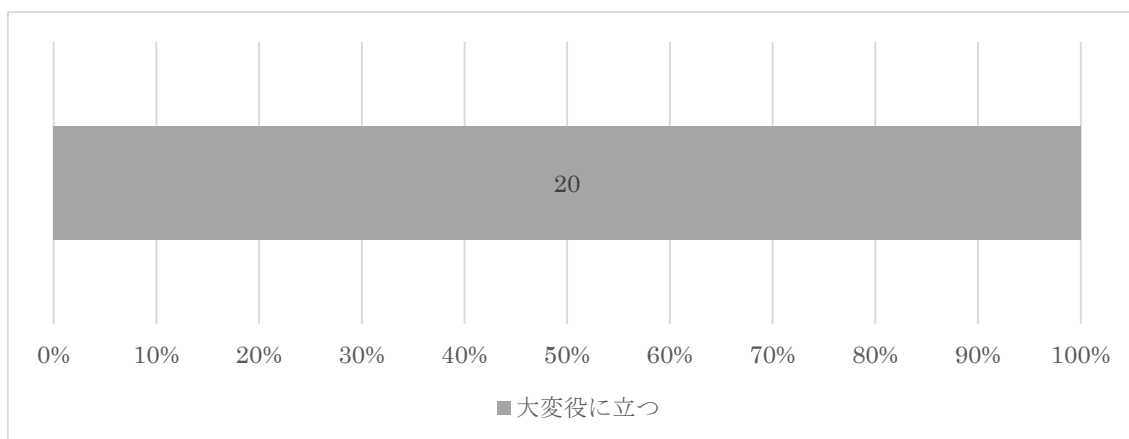
日時 令和5年12月8日 11:20~13:10  
対象 沖縄県立中部農林高等学校 熱帯資源科 2年生  
人数 20名  
講師 株式会社 穴吹カレッジサービス 広原 敬幸  
内容 「情報の取り方、まとめ方 ~職業図鑑~」

#### 4.1.1 質問 「授業の内容は、理解できましたか？」（平均 4.8）



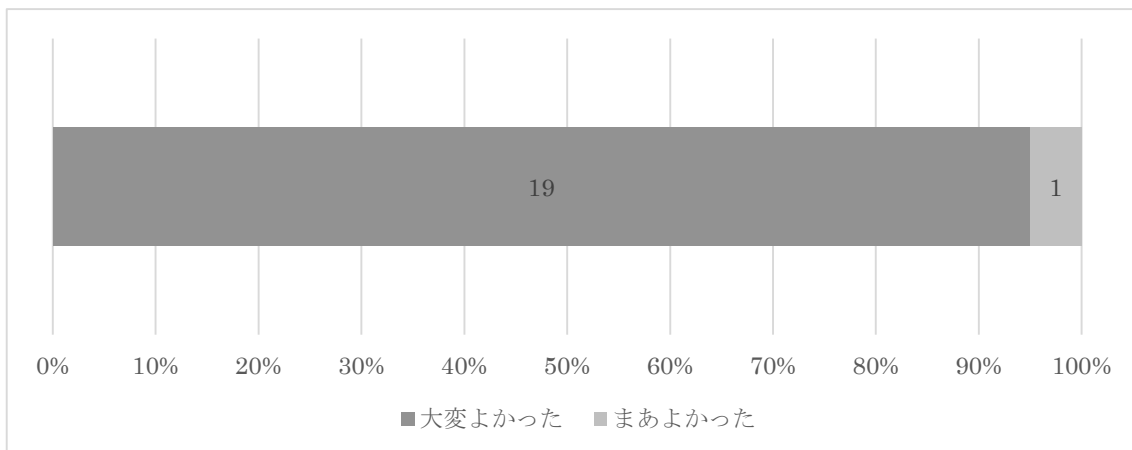
100%の生徒が「よく理解できた」「だいたい理解できた」と答えた。

#### 4.1.2 質問 「授業の内容は、これから役に立つと思いますか？」（平均 5.0）



100%の生徒が「大変役に立つ」と答えた。

4.1.3 質問 「授業の全体的な感想を教えてください。」(平均 5.0)



100%の生徒が「大変よかった」「まあよかった」と答えた。

4.1.4 質問 「授業を受けて、『はじめて知ったこと、はじめて聞いたこと』を記入してください。

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、句読点の位置も原文のままにしている。

話をするとき言葉の間に間を開けることが大切になる。

--  
メモをとる

--  
メモをとるコツが知りたかったので大事なことをメモすると聞いてよかった。

--  
伝言ゲームを通して、人がたくさんいてどっかでミスがおきたらだれもせめきれないこと

--  
メモはとったらいいくらいだと思っていたけど、メモの大切さやとることでも自分のためになることがわかった

--  
メモは全部とるんじゃなくて、重要なとこ、思い出すように取った方がいいこと

--  
話すときは間が大事なことがわかった。メモをとる前からイメージをすることでメモがとりやすくなることとメモをとるときは自分の知っていることは書かず、重要なことだけかく。

--  
メモを取る時のコツで自分が初めて聞いたことが知らなかったことをメモする方がいいのと、相手が何を話すかあらかじめ予想した方が書きやすいことなどを初めて知りました。

--  
テスト勉強などのさいに、あんきをするんじゃなくて夜ねるまえに思い出すとかのほうがいいんだとわかりました。

--  
メモをとるときは、全部かくのではなく重要なところだけをメモすること。

--  
はじめて知ったことは、伝言ゲームで、メモをとらないでやると時間や場所がききとりづらいことと、メモをとっても、カタカナや数字などわ少しわかりにくいことをしりました。

--  
メモをとることは、自分がおもっていたよりも大切だとわかりました。

--  
話し方やかつげつ、メモを取ることによって、人から人への伝わり方がちがう。

--  
伝言ゲームをした時、メモがあるのとないのでは進み具合がちがうということを感じたし、メモだけではなくハキハキしゃべることも大切だと思った。

--  
メモするとききとうにかくと思っていたけど、まちがいがないように、かん字とかでかくことがわかった。

--  
特にありません

--  
メモのとり方

--  
動物のときは異常じゃなくて異状とかかくこと。

--  
メモを取ることは大切だと知り、必要なことを書く。コミュニケーションを取るときは、目を見た方が伝わる。ハキハキしゃべることやスピード・トーンも大事だと思った。

--  
間をあけてしゃべることで聞き手が「お？」ってなるから、話をきいてくれるって事を初めて知りました。

多くの生徒が「話を聞くときは「メモ」を取る」「話をするときは「間」をあける」「相手に伝えるためには、話し方が大切」なことを、伝言ゲームや職業図鑑の「振り返り」を通じた「気づき」で自覚したことが伺える。



4.1.5 質問 「授業を受けて『特に印象に残ったこと』を記入してください。

動物との仕事だけでなく、話し方のことは大切になるので、今日学んだことを生かしたい。

--

伝言ゲーム うわさとかも伝わり方でちがう言葉になるから信じない方がいい

--

メモの仕方や話すときの大事なことが印象に残った。

--

シッターがツイッタになったこと メモがどれだけ大事なのか。あとしゃべり方。

--

伝言ゲームがあまりつたわらない ききとりやすく話すのが大切

--

伝言ゲームでメモを取る大切さを学びました。

--

伝言ゲームで初めの人と最後の人で内容が変わるからおもしろいと思った。人の話をちゃんときくことは大事だと改めて知った。

--

メモは全部集中して書かず、大事な所、知らなかった所だけ取ること

--

伝言ゲームです。伝えることの大変さや覚える大変さがよくわかった。

--

インタビューをみているときに質問で「この仕事をするようになったきっかけ」をきいていて高校から大切だと思った。

--

伝言ゲームは、すこしでもせかさされたりすると、頭がまっ白になって、伝えるのが難しいということが印象に残りました。

--

インタビューにこたえている人全員が、ハキハキとわかりやすくしゃべっていた。

--

インタビューする前からこんなことやってるはず、ってことを考えてメモをすることもできる。

--

ドルフィントレーナーのインタビュー風景であいづちや言葉に間をあけてしゃべることなどが心に残った。

--

話するときに「はい」とかしゃべるときに間をつけることが印象に残った。

--

メモの重要性に「後から思い出す為の記録」とあって、言われてみればそうだな、、、と改めて考えるきっかけになったことが印象に残っています

--

伝言ゲーム

--

質問に答えるときの態度が大切 メモをとるだけで、より正確に伝わる

--

コミュニケーションの大切さ。

--

メモって大事なんだなって事が印象に残った。

多くの生徒が「伝言ゲーム」が印象に残っている。「伝言ゲーム」や職業図鑑の「インタビュー」を通じてメモの取り方・重要性、話し方によって相手へ与える印象が変わること、コミュニケーション能力の必要性に「気づいた」。



4.1.6 質問 「今後、授業で取り上げて欲しい仕事内容や職業に必要なことなどがあれば自由に書いてください。」

電話しながらのメモ対応が苦手です。

--  
電話が苦手。初対面の人との話しかた

--  
とりまー

--  
声をハキハキだす

--  
アニマルカフェの仕事が知りたいです

--  
接客の正しい言葉使いを知りたい

--  
電話や人前で話す時のコツ

--  
仕事をするさいの最低限のマナーをしりたい。世の中の仕事をしりたい。

--  
電話のとりかた。動物理学療法師の仕事内容について知りたい。

--  
電話が苦手

--  
図書館司書について知りたい。

--  
ドッグトレーナー

--  
ハキハキとしゃべれるようになる方法をしりたい

--  
お客さんとの話し方が知りたい。

--  
動物系の仕事のしゅるい

--  
ドッグトレーナーについて知りたいです。資格や仕事内容を知りたいです。

--  
ペットシッターや、猫カフェの経営、トリマーなどの仕事内容や、その職に就くまでの過程を知りたいです。

半数の生徒が「電話の取り方」「接客の方法」「社会人のマナー」といったコミュニケーションに関することを挙げた。授業を通じて「今の自分に足りない部分」に気づいたことがわかる。

#### 4.1.7 質問 「授業を受けて、感じたことや思ったこと、など、自由に書いてください。」

難しい話だけでなくゲームも通じていて楽しく学ぶことができた。

--

伝言ゲーム楽しかった。

--

将来働くときに必要なコミュニケーション能力やメモの取り方を知れたし、とても勉強になった。

--

これからメモは大事なところだけじゃなくてしゃべりかたコミュニケーション能が必要 メモだけじどこかでミスる。

--

職しゅややることよりもコミュニケーションが大切だと思いました 知識も大切だけどコミュカも同じくらい大切だと思いました

--

動物のことだけではなく人とのコミュニケーションも必要で話し方からメモを取ったりなども重要ということが今日の授業で実感できました。

--

インタビューのときみんな「はい」を言ったり、はきはきしていたり、明るく話しているのが良かったから参考にしようと思う。

--

メモがどれだけ大事なのか、メモを取る時のコツが分かった

--

メモをしっかりとすることは大切なんだとわかりました。今後は、忘れそうなときとかのために、メモをもち歩こうかなと思いました。

--

メモのとり方がわかったのでこれからバイトするときもメモをとって忘れていないようにしたいなと思いました。そして動物に関わる仕事はたくさんあるのでその中から自分にあっている仕事を探していきたいなと思いました。

--

今日は、人に何かを伝えることは、自分が思っているよりとても難しいことと、メモは、大事なところをメモすることが大切だとわかりました。

--

自分がつきたい仕事についてもつらいことや苦しいことがあるとわかりました。でもつらいことをのりこえたら、たりがいやほこりになるとわかりました。

--

しょく業によって、話し方がかわる。

--

気づいたことはすぐじっせんすることが大切だとおもった

--

自分もかつげつがわるかったりききにくかったりするの、ハキハキしゃべりたいと思いました。

--

メモのとり方や話し方など、将来どこに行っても使えるようなことが分かって良かったなと思いました。自分では中々意識してないところもあったので、これを機に少しでも身につけられた良いなと思いました。

--

動画をみて、なかなかきくことのできない仕事の内容や辛いこと、やりがいをきけたのがよかったと感じました。

--

話すスピードとか答え方を変えるだけで相手への伝わり方が変わることを感じました。授業をうけるときに先生が言ったことをメモしようと思いました。

--

これからバイトとかでも、職業についたときでもメモを取ることを忘れず、不必要なことは聞き流そうと思う。コミュニケーションは、思いやりが必要だと思いました。

--

ドルフィントレーナーやペットショップの人のしゃべり方をマネしようと思いました あと、授業とかでもメモをいっぱいとりようと思いました。



多くがメモを挙げている。また、職業図鑑の「インタビュー」の視聴を通じて職業を知るだけでなく、情報を正確に相手へ伝える必要性和その方法、誰かと話をする際にはあいづちや言葉の間を意識することで円滑なコミュニケーションが構築できる大切さも学んでいることを裏付ける結果となった。

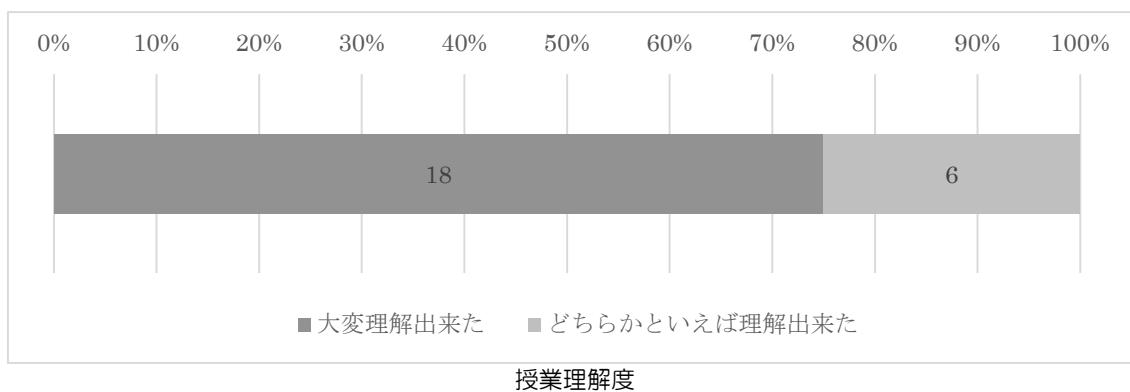


## 4.2 北部農林高等学校 職業講話

### 実施概要

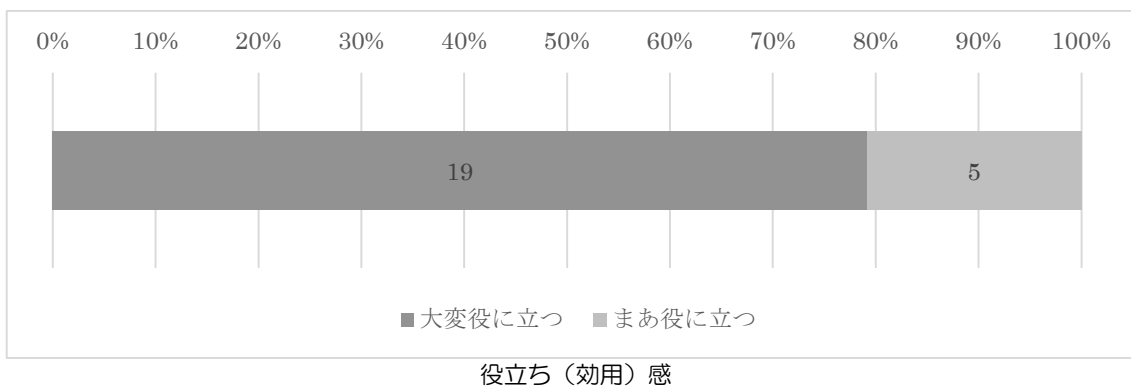
日時 令和5年12月13日 3~4校時  
対象 沖縄県立北部農林高等学校 熱帯農業科 1年生  
人数 25名  
講師 KBC学園地域創生室 花城奈美子先生  
内容 マナー研修

#### 4.2.1 質問「本日の授業の内容は、理解できましたか？」（平均4.8）



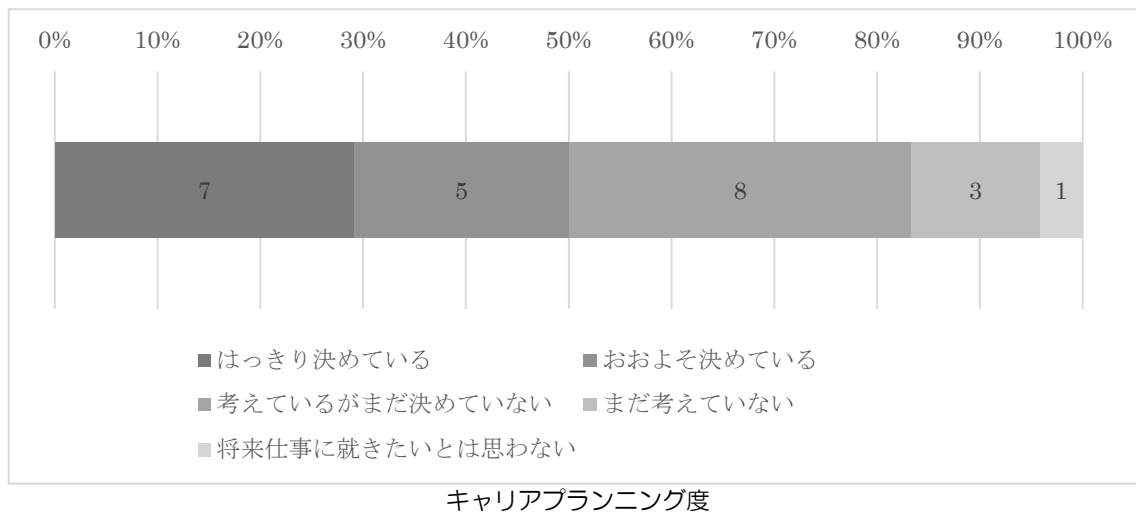
100%の生徒が、「理解できた」「どちらかといえば理解できた」と答えた。

#### 4.2.2 質問「今日の授業の内容は、これから役に立つと思いますか？」（平均4.8）



100%の生徒が、「大変役に立つ」「まあ役に立つ」と答えた。

#### 4.2.3 質問 「あなたは将来希望する職業を決めていますか？」(平均 3.6)



50%の生徒が、「はっきり決めている」「おおよそ決めている」と答えた。まだ考えていない生徒は17%だった。

#### 4.2.4 質問 「授業を受けて初めて知ったこと、初めて聞いたことを記入してください。」

※生徒の書いた原文を忠実に表現するため、誤字や文章の訂正・修正を行っていない。また、ひらがな表記や句読点の位置も原文のままにしている。

- めいしいれにいれることです。  
--
- 働くことはすべての仕事が人の役に立っていて、チームワークと周りの人への配慮が大切だとわかりました。敬語や礼儀だけでなく、相手に対しての思いやりと気づかいを行動にすることが大切だとわかりました。  
--
- はじめて知ったことは、めいしをわたすのとうけとるのを同時にやるということと、めいしは、訪問してきた人から先に自己紹介するということを知りました。  
--
- うしろで手をくんでおじぎしてはいけない  
--
- あいさつの声の大きさやおじぎの角度の大切さを学ぶことができた。また、第一印象も大切ということを知れた。  
--
- おじぎの角度が決まっていることが授業を受けてはじめて知りました。  
--
- めいしのわたすたかさや、すこしからだをまえかがみにしないといけないということがわかった。  
--
- おじぎするときは、ことばをさきにいっておじぎをすることをはじめてしることができてよかったです。  
--
- 2人でのめいしのわたし方とうけとり方を初めてした。語先後礼ということばもはじめてした。  
--
- めいしのわたすかくどやわたすときあいての右がわにわたすのがわかった。  
--
- ノックは2回でも3回でもどちらでもいい。  
--
- 名紙のうけとり方は名紙入れの上におく。  
--
- 身だしなみチェックをしないと清潔感がないと、第一印象できめられることが知った。  
--
- 今後、社会に出る上で、必ず必要になってくる名刺の取り扱い方、交換の仕方について知った。  
--
- 入退室の流れと姿勢について学んだこと。  
--
- 面接でのたいどやすわり方などをくわしく知ることができた。  
--
- 人は3秒から5秒で印象がつくということをはじめてしりました。  
--
- キャリア講座を受けて、印象の良い挨拶をするには、相手の目をしっかり見て、笑顔で挨拶をしてお辞儀をすると良い印象になることがわかった。  
--
- おじぎやあいさつ、基本中のことがこんなにむずかしいんだとはじめて知りました。  
--
- 人は第一印象は3秒～5秒できまることがはじめてしりました。  
--
- めいしこうかんのときにあいてのめいしはうえにおくということをはじめてしたのでこれからめいしこうかんとかあるときはこの学んだ事をしっかりやりたいです。  
--
- 人の印象は、初めの3秒～5秒で決まる。  
--

今回、授業を受けて思いやりや気くばりが大切だと学びました。目に見えない心や気持ちが形となって、あらわされる事ができると知りました。

あいさつのかくどは3しゅるいもあるのははじめてでした。ごせんごれいもとても大事だと思ったし、れいのしせいや、ことばづかい、目せんなども大事だと分かった。

名刺の受け渡し、お辞儀、挨拶、姿勢などマナーの基本を多くの生徒が挙げている。また、人の印象は3~5秒で決まることも挙げている。実習を通じて、社会のマナーの大切さが体感できている。



4.2.5 質問 「授業を受けて特に印象に残ったこと、授業を受けてよかったことを記入してください。」

きもちのいいあいさつとおじぎのかくどが大事だと分かった。

--

授業を受け面接の時に役に立つ事が多くくれたので良かったです。特にマスクをしていても、目やまゆげをあげることによって、印象がかわるとわかりました。

--

みんなとめいしこうかんです。

--

めいし交換のやり方をしれて良かったです。おじぎのやり方など将来にやくだつことをいっぱいしれて良かったです。

--

あいさつのしかたや姿せいのしかた、おじぎのしかたなどがまなべて良かったです。

--

この授業を受けて、将来、働いたときになどに、今日習ったことを生かして、印象よく挨拶、また思いやりをもって相手と接することを頑張っていきたい。

--

あいさつした後のおじぎなどを学べてよかった。あいさつはとしをとってもずーと使うので学べてよかった。

--

名氏交換のやり方を改めて学べたから良かったです。

--

日々の習慣でおもいやりや気くぱりなどをいしきしようと思った。

--

面接の基本のやり方とか、お辞儀とかを教えてもらったことです。自分がたりなかったところを教えてくださいました。

--

就職や進学の際行う面接での態度、礼儀、マナーについて知れた事が自分にとって大きな知しきだった。

--

あいさつのしかたをしっかりならったので、毎日こころがけたい。

--

歩き方が相手から見るとよくないということがわかった。すわり方や、印象の良い挨拶、お辞儀が受けてよかったなと思った。

--

めいしのわたしかた。

--

あいさつれいぎ、めいしこうかんなどは、しょうらいやくにたつので授業をうけてよかったなと思った。

--

授業をうけてよかったことはめんせつなどをするときには語先後礼をすることで相手に礼儀をしめすことができることを知れた。

--

イスにすわるときは、しすかにちゃくせきすることをすることができました。

--

おじぎのかくどとめいしのたかさなどがしれて良かった。

--

授業を受けて特に語先・後礼が残っています。

--

めいしの受け取り方やわたし方、また、あいさつのしかた、印象よくする方法を学べてよかったと思う。将来に役立つようにしたい。

--

めんせつとかでつかうことを今からならえてよかった。

--

授業を受けて特に印象に残ったことは、めいしをわたすのとうけとる練習です。体験のしたことのない経験だからとっても印象に残った。この授業でこれからの役に立つことを学べてよかった。

--  
名刺交換するときに、名刺を相手にわたすときは、相手が名刺入れに乗せてあげる、少しおじぎすることがわかりました。

--  
ぼくが、特に印象に残ったことは、ドレミファソラシドのファのことです。

あいさつやおじぎ、めいしの渡し方など相手の印象が変わることを挙げている。自分目線ではなく、相手目線で自分を見つめる必要があることに気づけている。



4.2.6 質問 「今後、授業で取り上げて欲しい仕事内容や職業に必要なことなどがあれば自由に書いてください。」

-- 政治活動についてくわしく知りたいです。

-- パティシエの仕事を知りたい。どのような道に進んだらいいのか。

-- これからの学校生活で授業でなかったことをいかしたいです。

-- 世界のひんこんの人を助ける仕事。

-- 電話の時どうしたらいいか、少し苦手。

-- 自分がどんな仕事に向いているのかを知りたい。

-- リモートでの対面の際、気をつける事ややってはいけない事を知りたい。

-- 農業のことについて話してほしいです。

-- しゅうしょくするためにはどのようにしていけばいいのかを知りたいです。

-- 美容師などの仕事内容をあげてほしい。

-- しゅじゅつ

-- のうぎょうの仕事について

-- 調理の仕事について知りたい

アンケートにも出ている通り、将来の職業を意識している生徒がいる反面、まだ考えられていない生徒がいることがわかる。



### 4.3 高校生の職業意識に関する調査（中部農林高校前後期）

#### 4.3.1 調査概要

前調査

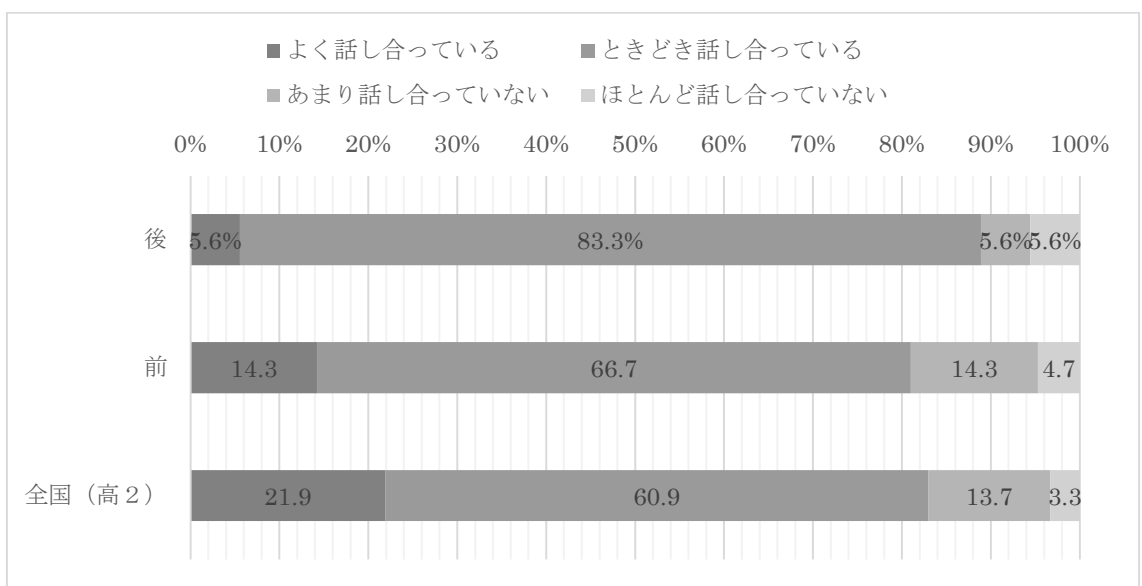
日時 2023年9月1日  
対象 熱帯資源科 動物コース2年生  
人数 21名（男3女18）

後調査

日時 2024年1月21日  
対象 熱帯資源科 動物コース2年生  
人数 18名（男2女16）

#### 4.3.2 将来の生き方や進路についての保護者との会話

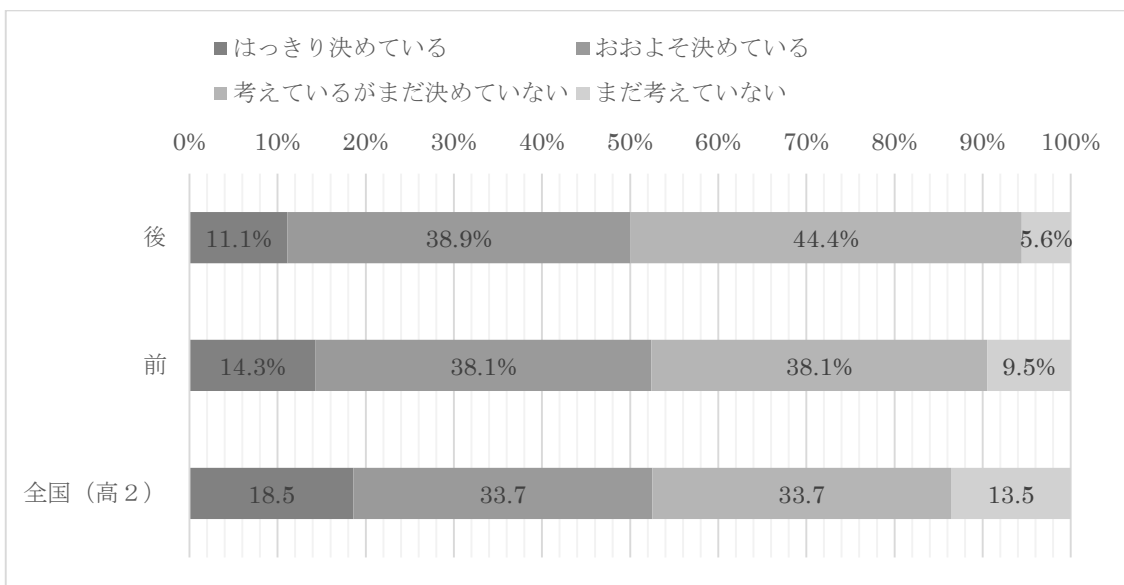
将来の生き方や進路について保護者と「よく話し合っている」「ときどき話し合っている」と回答した割合は88.9%で、前回と比較すると7.9ポイント増加した。全国（82.8%）と比較すると6.1ポイント上回った。  
保護者との会話は全国と比較してできていることがわかる。ただし、女性比率が高いので、性差による保護者とのコミュニケーション差も考慮する必要がある。



将来の生き方や進路についての保護者との会話

### 4.3.3 将来希望する職業を決めているか

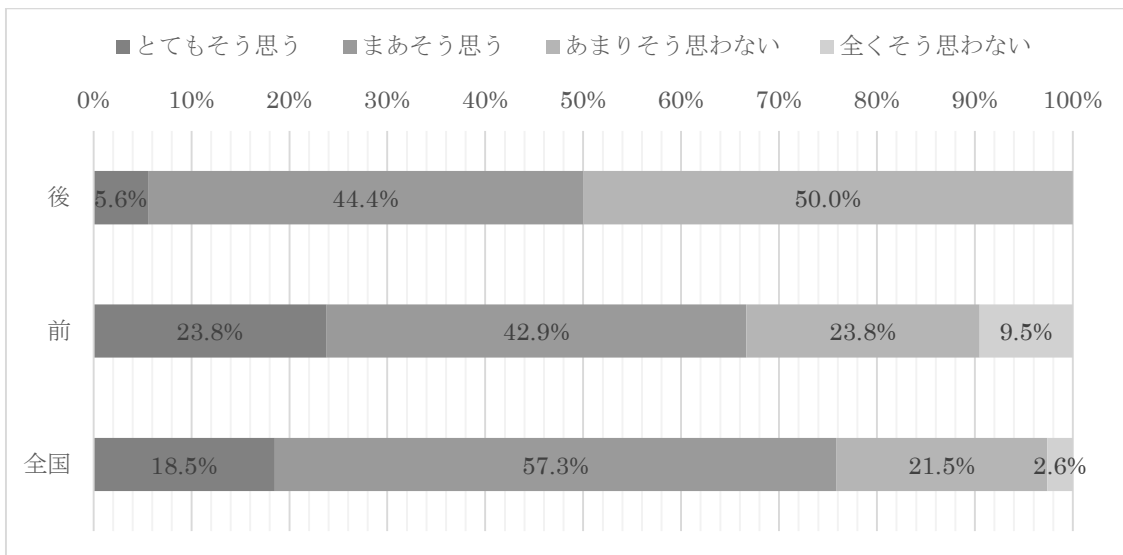
将来希望する職業を、「はっきり決めている」「おおよそ決めている」と回答した割合は50.0%で、前回と比較すると2.4ポイント減少した。  
 全国（52.2%）と比較すると2.2ポイント下回った。  
 まだ考えていない生徒は9.5%（2人）から5.6%（1人）に減少した。



将来希望する職業を決めているか

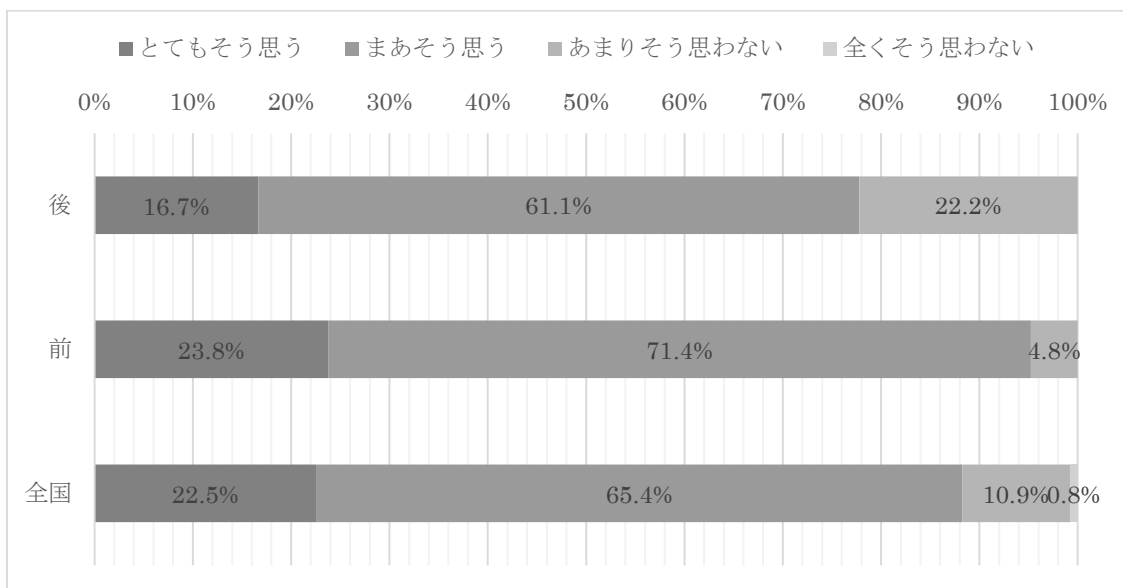
#### 4.3.4 「仕事」「働くこと」のイメージ

「楽しい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した割合は50.0%で、前回と比較すると、16.7ポイント減少した。  
 全国（75.8%）と比較しても25.8ポイント低く、半数の生徒に働くことに対してネガティブな感情が見られた。



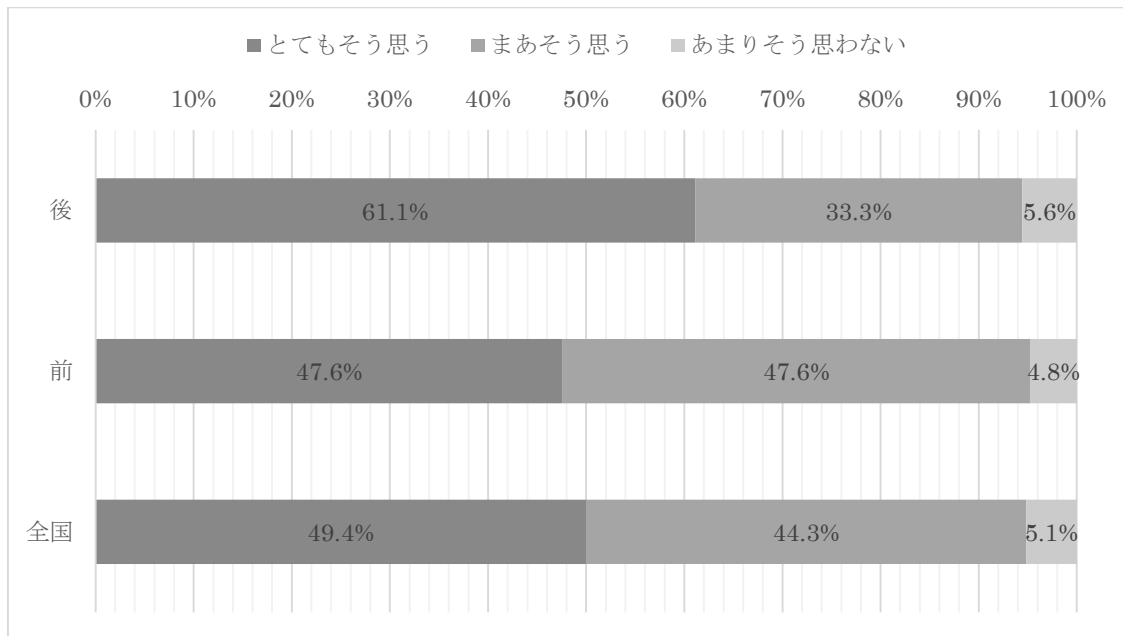
「仕事」「働くこと」のイメージ：「楽しい」

「苦しい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した割合は、77.8%で、前回と比較すると17.4ポイント減少した。  
 全国（87.9%）と比較すると、10.1ポイント低かった。



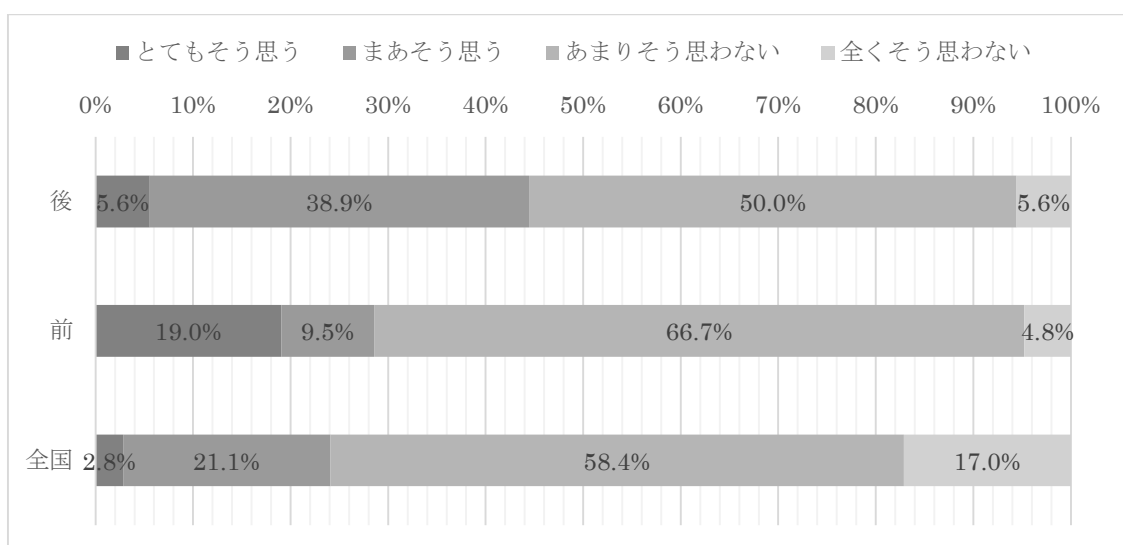
「仕事」「働くこと」のイメージ：「苦しい」

「やりがいがある」について、「とてもそう思う」と回答した割合は61.1%で、前回と比較すると、13.5ポイント増加した。  
全国（49.4%）と比較しても、11.7ポイント高かった。



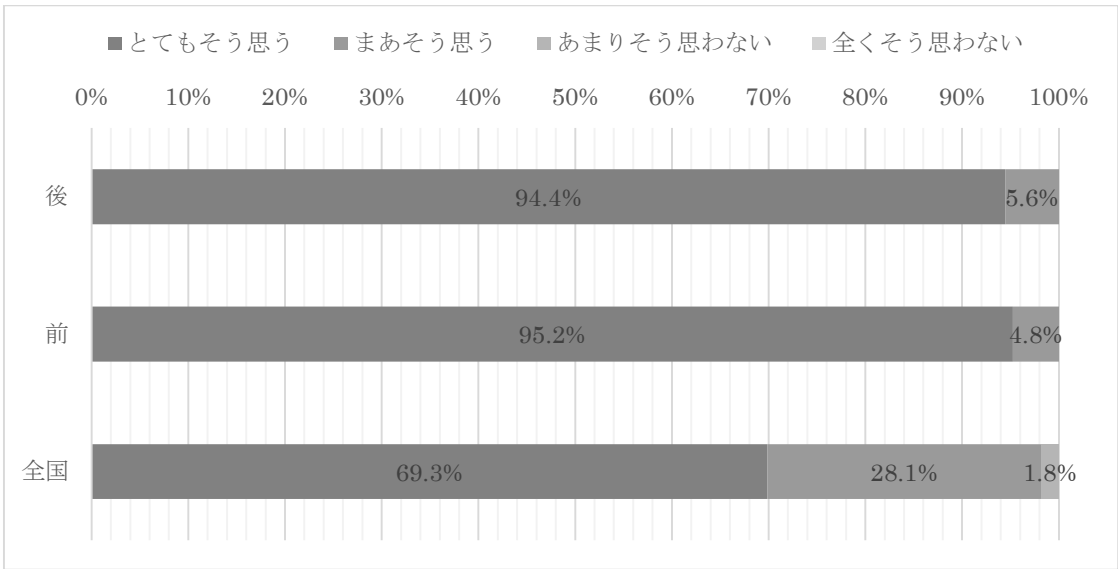
「仕事」「働くこと」のイメージ：「やりがいがある」

「つまらない」について、「とてもそう思う」が5.6%で、前回19.0%から大きく減少した。ただし、「まあそう思う」を合わせると44.5%で、前回と比較すると16.0ポイント増加した。  
「とてもそう思う」「まあそう思う」のネガティブな感情を全国（23.9%）と比較すると、20.6ポイント高かった。



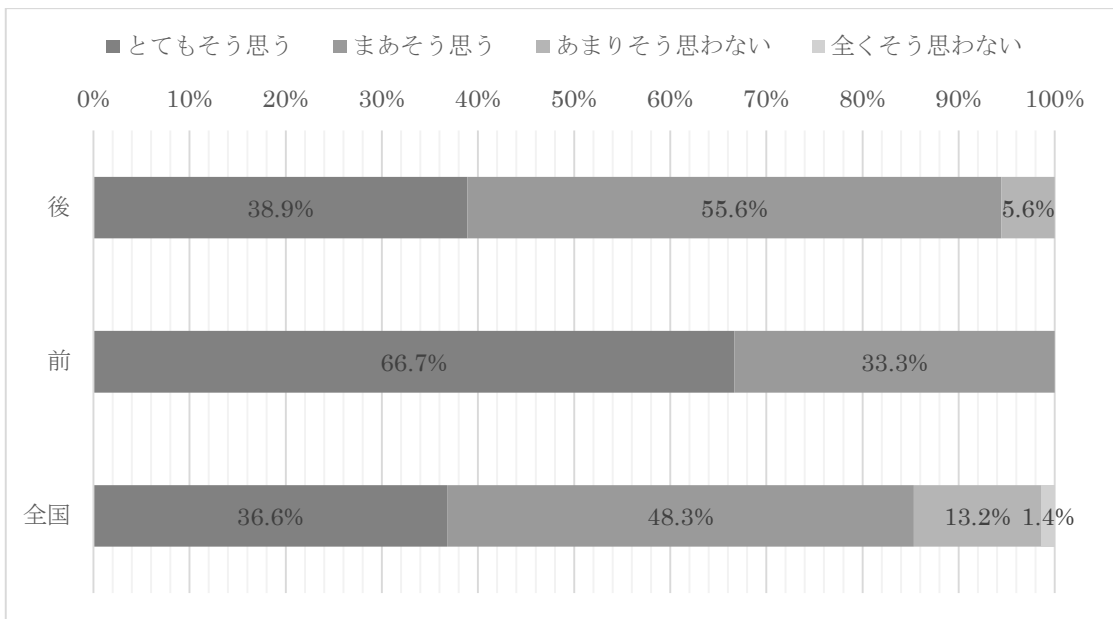
「仕事」「働くこと」のイメージ：「つまらない」

「生活のため」について、前回と同様に1人を除いて全員が「とてもそう思う」とした。  
全国（69.3%）と比較すると、25.1ポイント高かった。



「仕事」「働くこと」のイメージ：「生活のため」

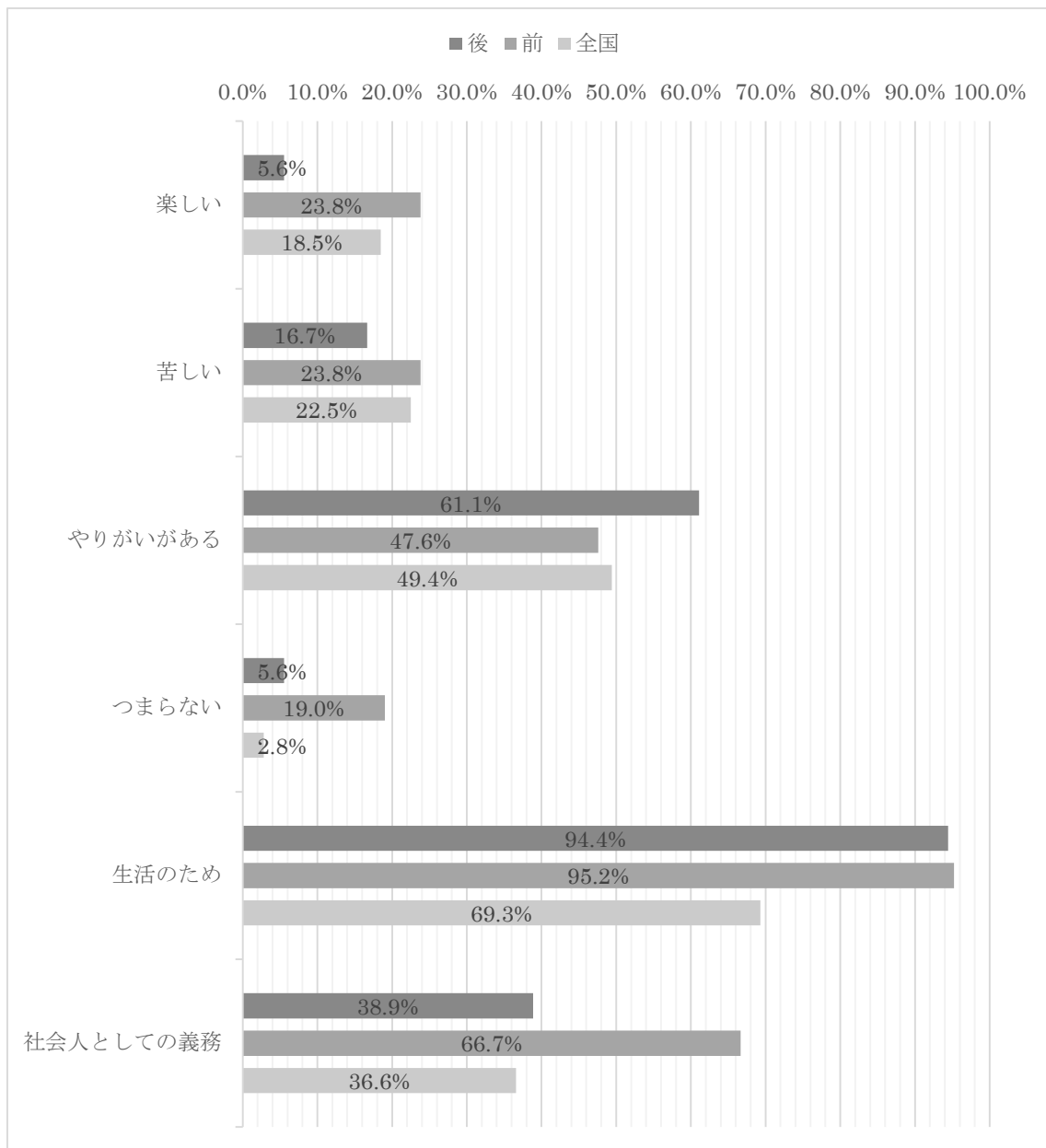
「社会人としての義務」について、「とてもそう思う」が38.9%で、前回と比較して27.8  
ポイント減少した。  
全国（36.6%）と比較すると、ほぼ同値になった。



「仕事」「働くこと」のイメージ：「社会人としての義務」

4.3.5 働くことのイメージの6項目について、「とてもそう思う」と回答した割合をまとめた。

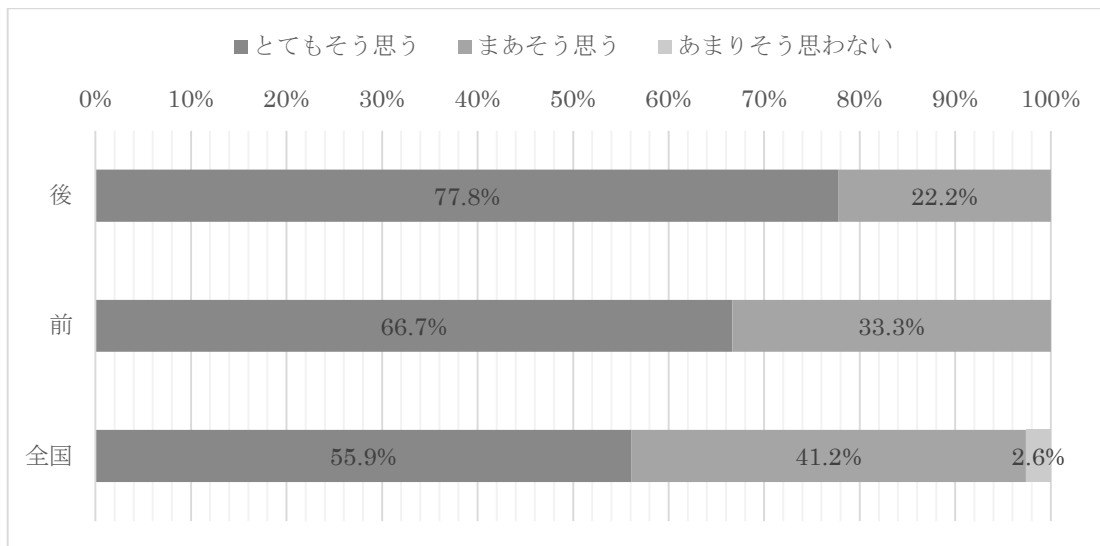
前回と比較して増加の割合（変化率）が高かったのは、「やりがいがある」で1.28倍だった。  
 前回と比較して減少の割合（変化率）が高かったのは、「楽しい」で0.23倍だった。次いで、「つまらない」が0.29倍だった。  
 全国との比較で大きく差があったのは、「つまらない」で1.98倍。次いで、「生活のため」1.36倍だった。2分の1を下回ったのは、「楽しい」で0.30倍だった。



「仕事」「働くこと」のイメージで「とてもそう思う」と回答した割合

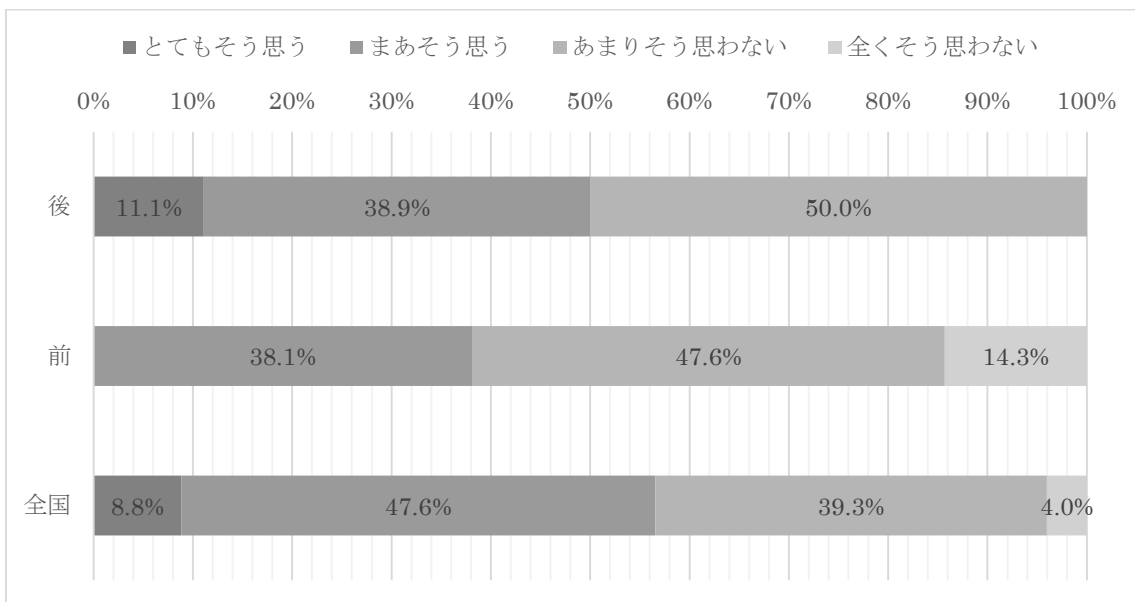
#### 4.3.6 職業を選ぶにあたって重視すること

「収入」について、「とても重要」と回答した割合が77.8%で、前回と比較すると11.1ポイント増加した。  
全国と比較すると、21.9ポイント高かった。



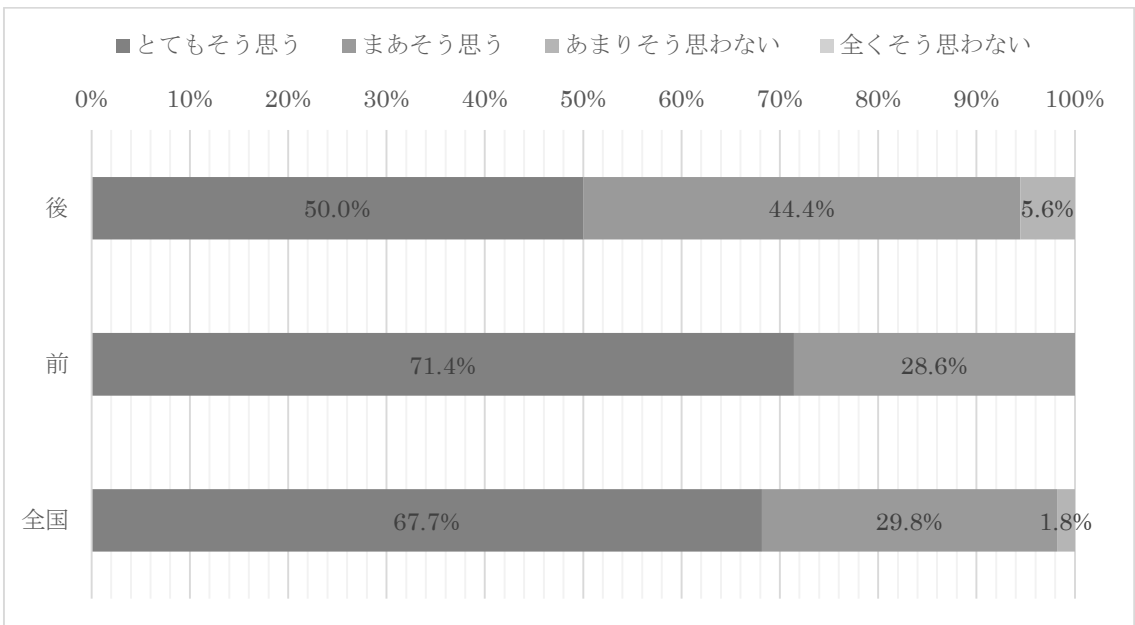
職業を選ぶにあたって重視すること：「収入」

「社会的地位」について、「とてもそう思う」が11.8%で、前回ゼロから増加した。「まあそう思う」を合わせると50.0%で、全国（56.4%）と比較すると6.4ポイント低かった。



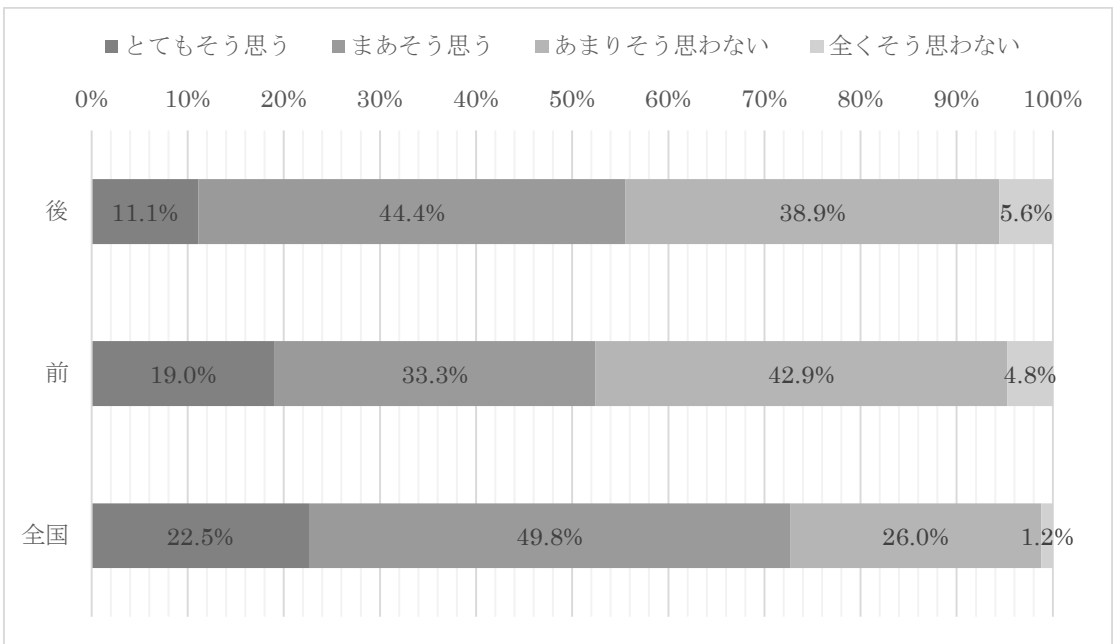
職業を選ぶにあたって重視すること：「社会的地位」

「安定性」について、「とてもそう思う」が50.0%で、前回より21.4ポイント減少した。  
全国と比較すると、17.7ポイント低かった。



職業を選ぶにあたって重視すること：「安定性」

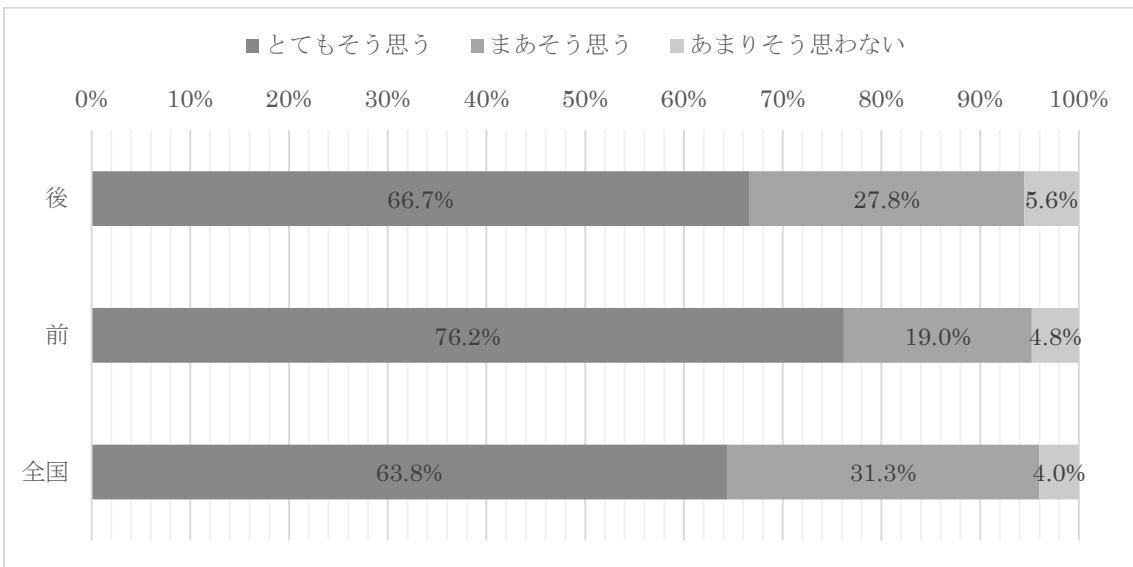
「仕事の内容ややり方を自分で決められる」について、「とてもそう思う」が11.1%で、前回と比較して7.9ポイント減少した。  
全国（22.5%）と比較すると、11.4ポイント低くかった。



職業を選ぶにあたって重視すること：「仕事の内容ややり方を自分で決められる」

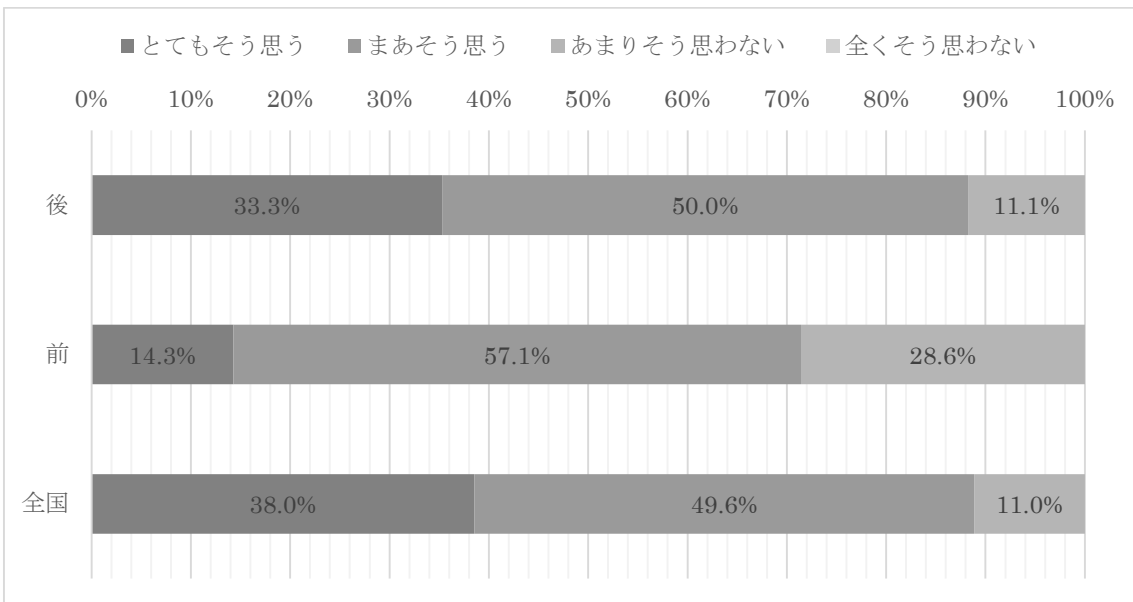


「自分の興味や好みに合っていること」について、「とてもそう思う」が66.7%で、前回と比較して9.5ポイント減少した。  
全国と比較すると、ほぼ同値になった。



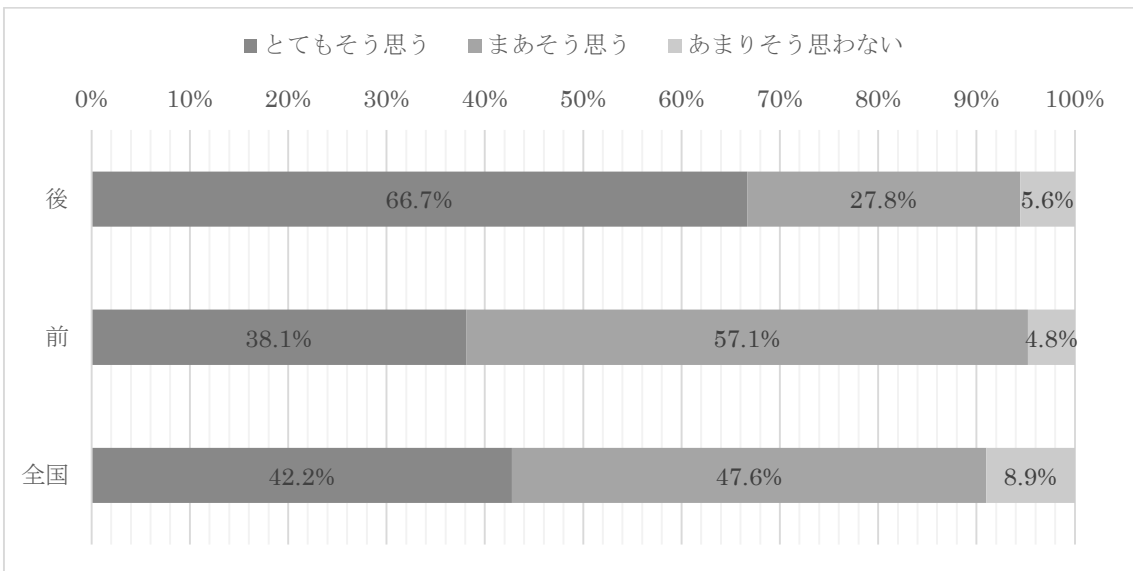
職業を選ぶにあたって重視すること：「自分の興味や好みに合っていること」

「働く時間を自由に決めること」について、「とてもそう思う」が33.3%で、前回と比較すると19.0ポイント増加した。  
全国（38.0%）と比較すると、ほぼ同値となった。



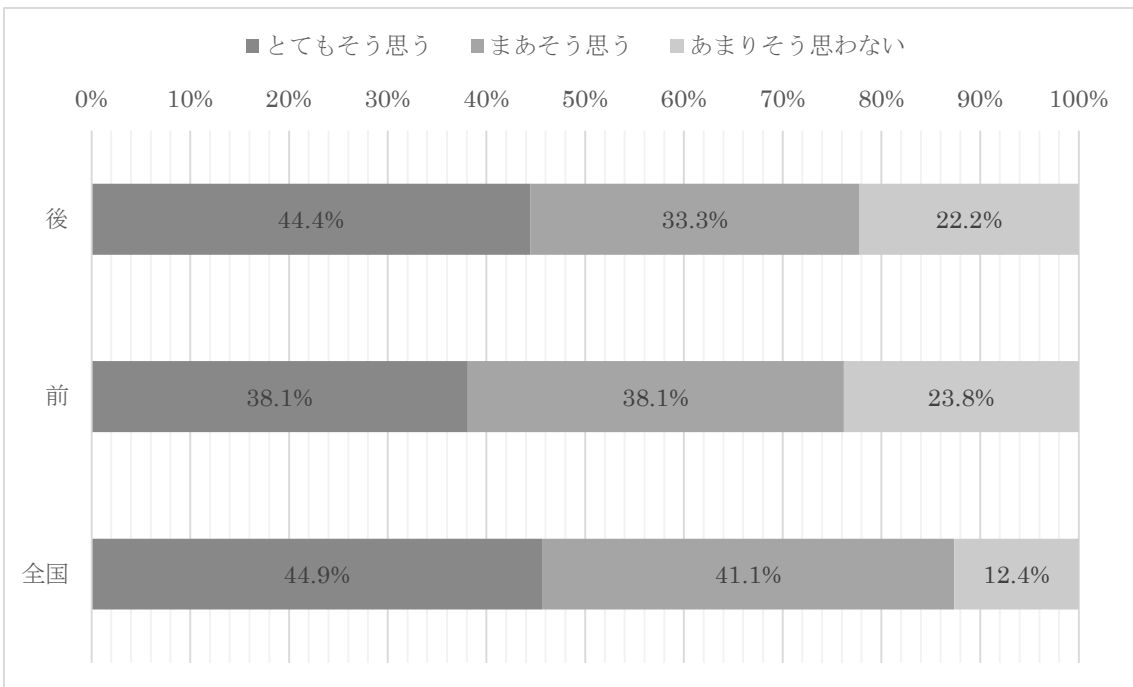
職業を選ぶにあたって重視すること：「働く時間を自由に決めること」

「能力を發揮できること」について、「とてもそう思う」が66.7%で、前回より28.6ポイント増加した。  
全国（42.2%）と比較すると、24.5ポイント高かった。



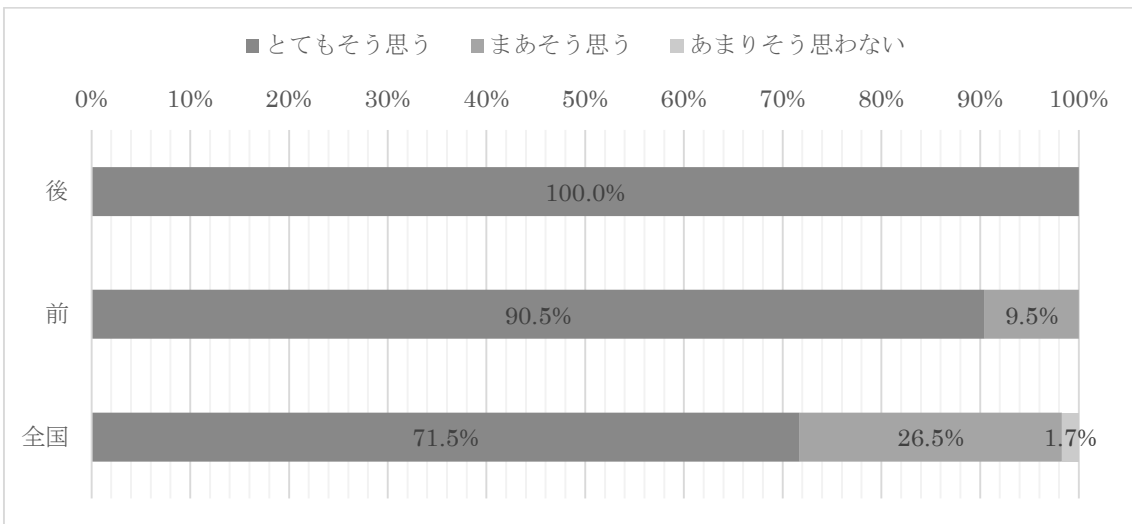
職業を選ぶにあたって重視すること：「能力を發揮できること」

「社会や人のために役立ち貢献できること」について、「とてもそう思う」が44.4%で、前回と比較すると6.3ポイント増加した。  
全国（44.9%）と比較すると、ほぼ同値になった。  
「まあそう思う」と合わせると、77.7%で、全国と比較すると8.3ポイント低かった。



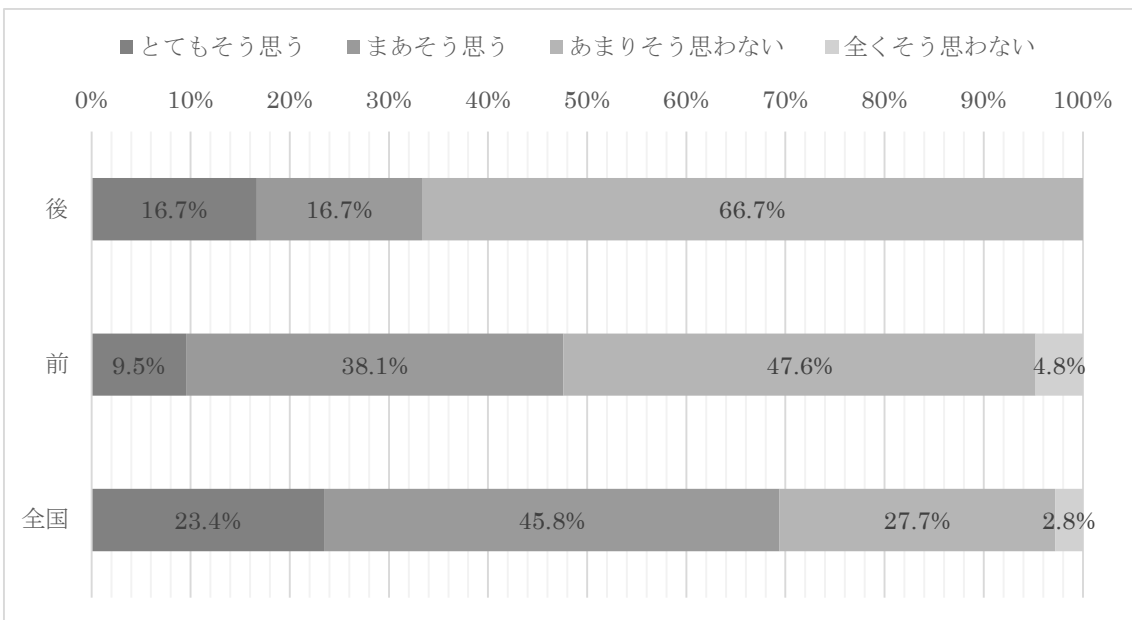
職業を選ぶにあたって重視すること：「社会や人のために役立ち貢献できること」

「働きやすいこと（仕事の環境）」について、「とてもそう思う」が100.0%で、前回と比較すると9.5ポイント増加した。  
全国と比較すると28.5ポイント高かった。



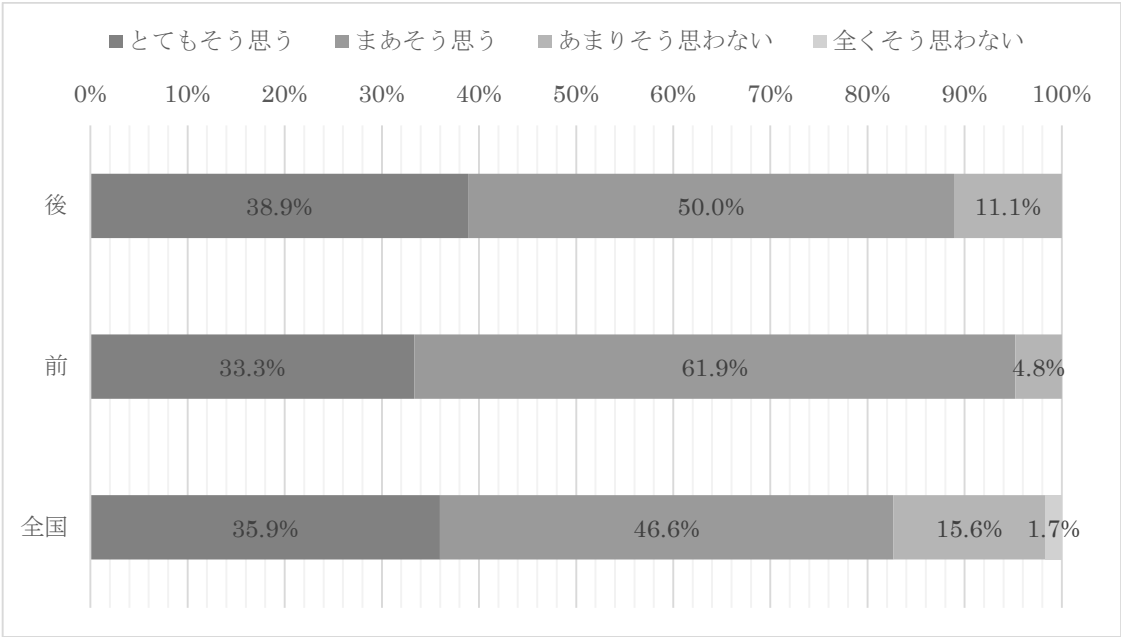
職業を選ぶにあたって重視すること：「働きやすいこと（仕事の環境）」

「新しいことにチャレンジできること」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が33.4%で、前回と比較して14.2ポイント減少した。  
全国と比較すると、35.8ポイント低く、大きく差が開いた。



職業を選ぶにあたって重視すること：「新しいことにチャレンジできること」

「勤務地の場所」について、「とてもそう思う」が38.9%だった。前回と比較すると5.6ポイント増加した。  
全国と比較すると、ほぼ同値になった。  
「まあそう思う」を合わせると88.9%で、全国と比較すると6.4ポイント低かった。



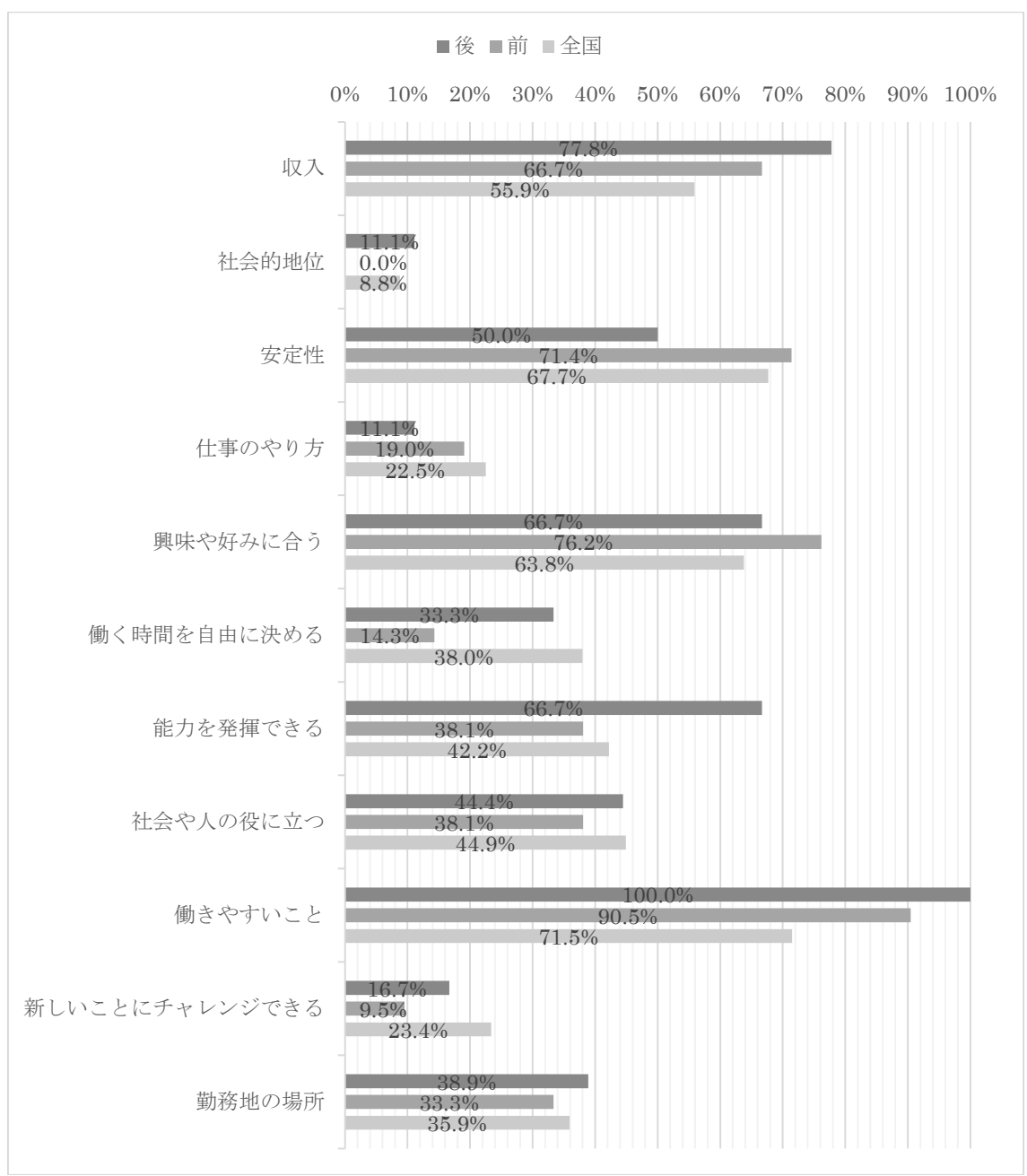
職業を選ぶにあたって重視すること：「勤務地の場所」

4.3.6 職業を選ぶ際に重視することの11項目について、「とてもそう思う」と回答した割合をまとめた。

前回と比較して増加の割合（変化率）が高かったのは、「社会的地位」でゼロから11.1%になった。次いで、「働く時間を自由に決める」2.33倍、「能力を発揮できる」1.75倍、「新しいことにチャレンジできる」1.75倍だった。

前回と比較して減少の割合（変化率）が高かったのは、「仕事のやり方を自由に決めることができる」で0.58倍だった。

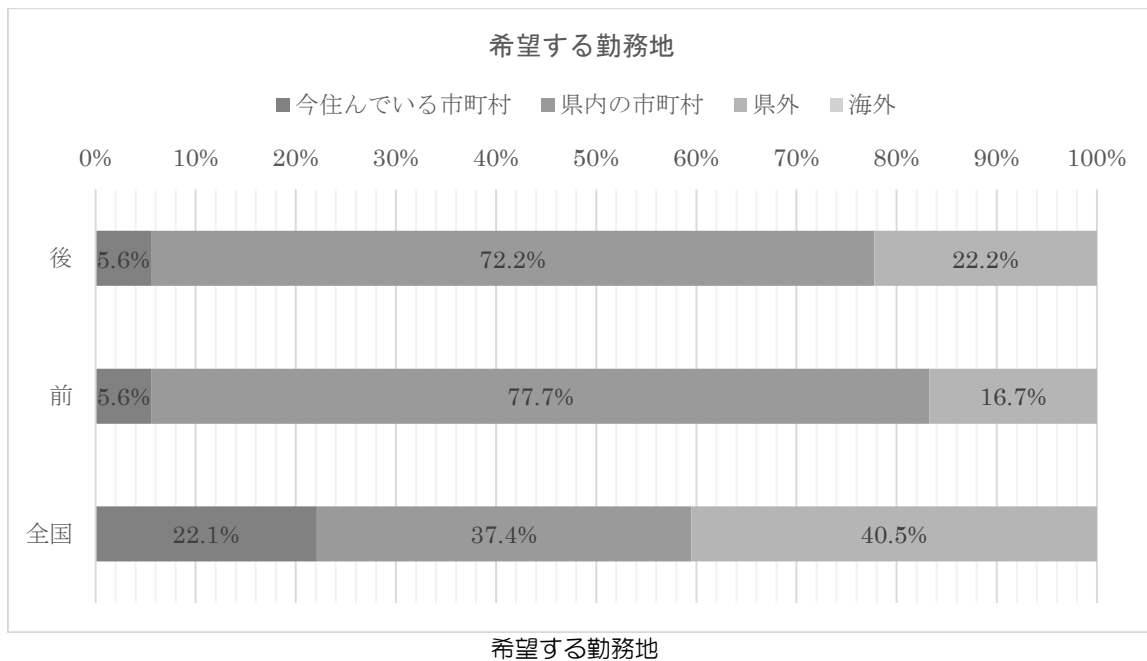
全国との比較で大きく差があったのは、「能力を発揮できる」で1.58倍、「働きやすいこと」1.40倍、「収入」が1.39倍だった。2分の1を下回ったのは、「仕事のやり方を自由に決めることができる」で0.49倍だった。



職業を選ぶにあたって重視することで「とても重要（そう思う）」と回答した割合

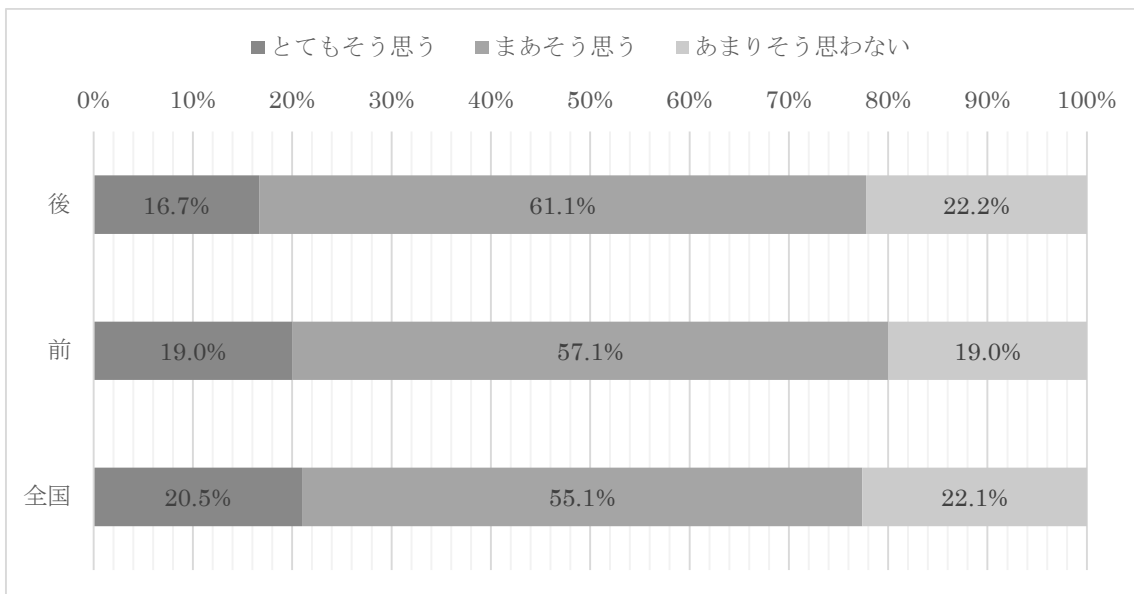
#### 4.3.7 希望する勤務地

「希望する勤務地」について、「県内の市町村」が72.1%で前回と比較すると5.5ポイント減少し、「県外」が5.5ポイント増加した。  
全国と比較すると、「県内志向」は、18.3ポイント高い。



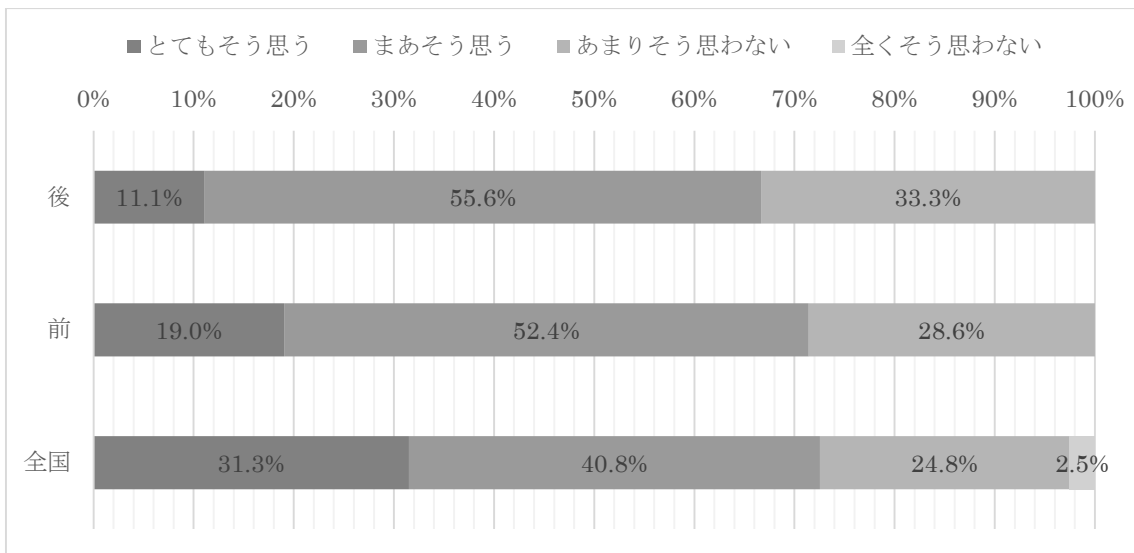
### 4.3.9 仕事に関する意識・考え

「やりたいことに困難があっても挑戦したい」について、「とてもそう思う」が16.7%で、前回と比較して2.3ポイント減少した。  
全国（20.5%）と比較すると3.8ポイント低い。



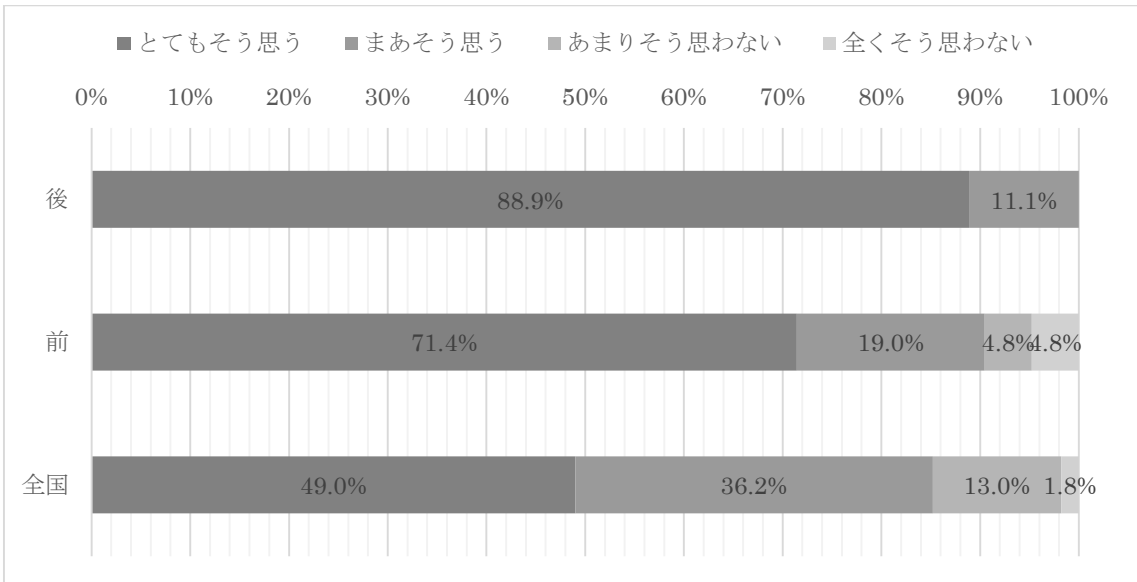
やりたいことに困難があっても挑戦したい

「若いうちはいろいろな仕事を体験したい」について、「とてもそう思う」が11.1%で、前回と比較して7.9ポイント減少した。  
全国（31.3%）と比較すると20.2ポイント低い。



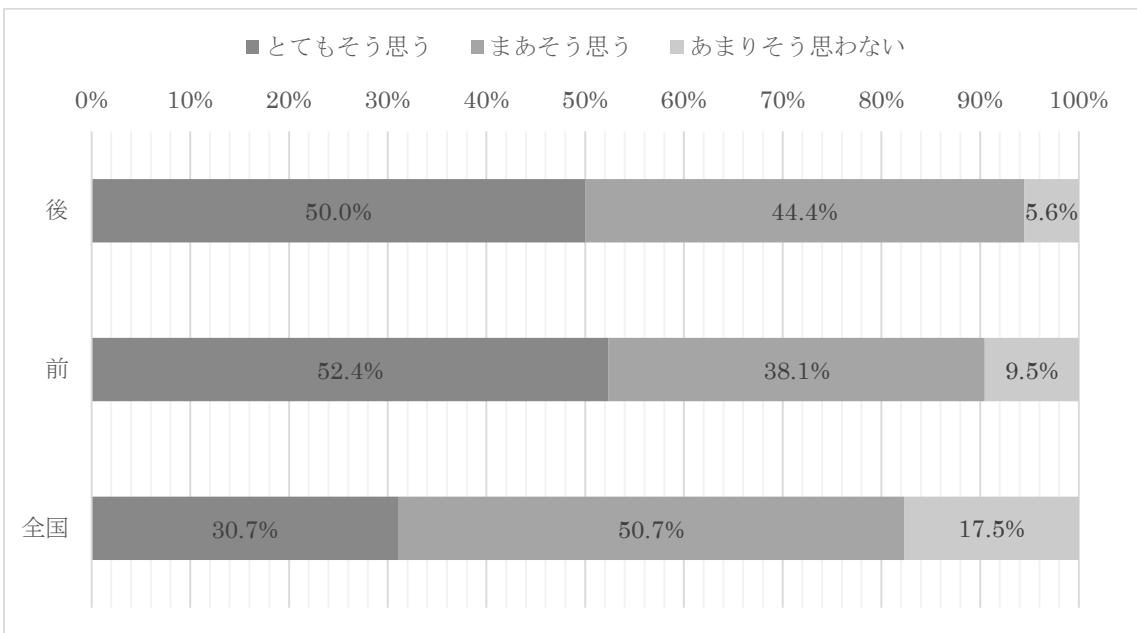
若いうちはいろいろな仕事を体験したい

「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が100.0%になった。前回と比較すると9.6ポイント増加した。  
全国（85.2%）より14.8ポイント高かった。



暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい

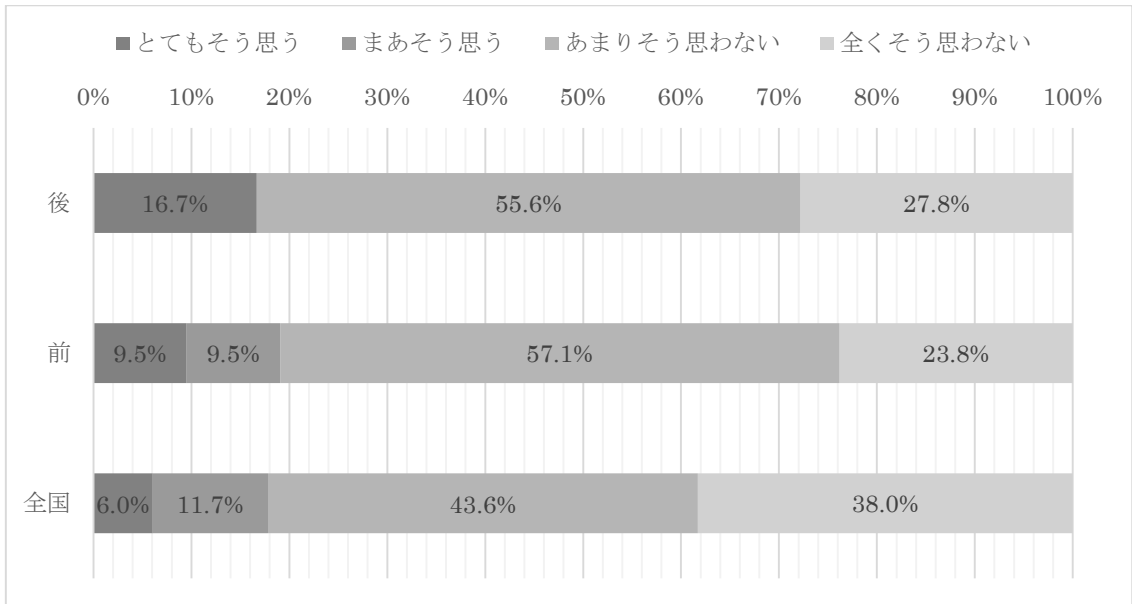
「仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が94.4%で、前回と比較すると3.9ポイント増加した。  
全国（81.4%）と比較すると、13.0ポイント高かった。



仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい

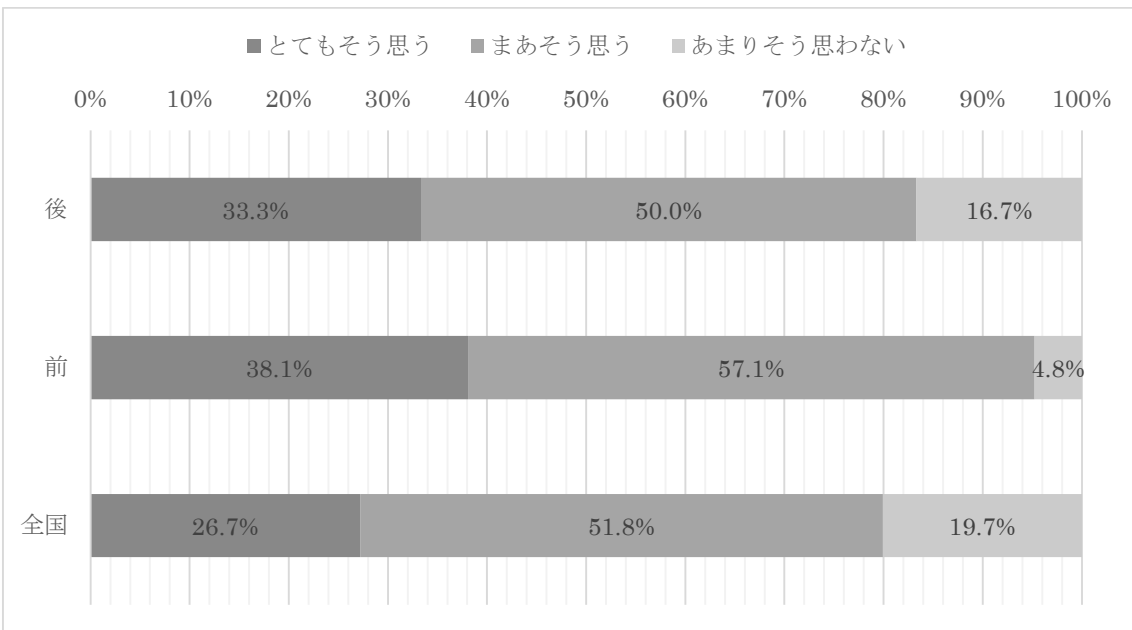


「自分の会社や店を作りたい」について、「とてもそう思う」が16.7%で、前回と比較すると7.2ポイント増加した。  
全国（6.0%）と比較すると10.7ポイント高かった。



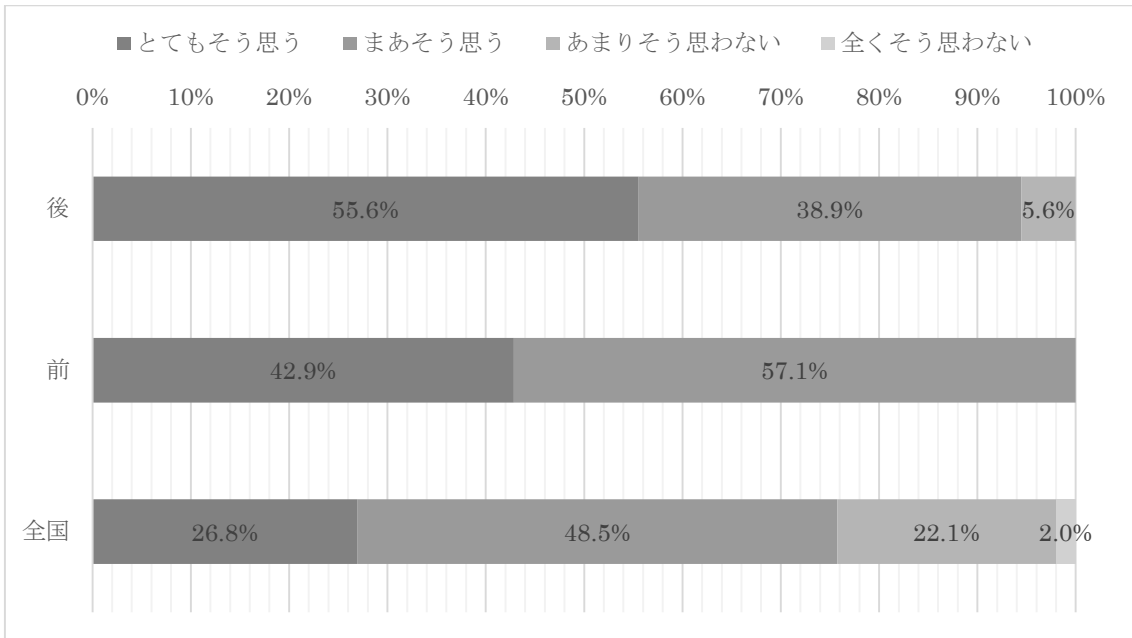
自分の会社や店を作りたい

「学歴より技術や技能を身につけることが大事だ」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が83.3%だった。前回と比較すると11.9ポイント減少した。  
全国（78.5%）と比較して4.8ポイント高かった。



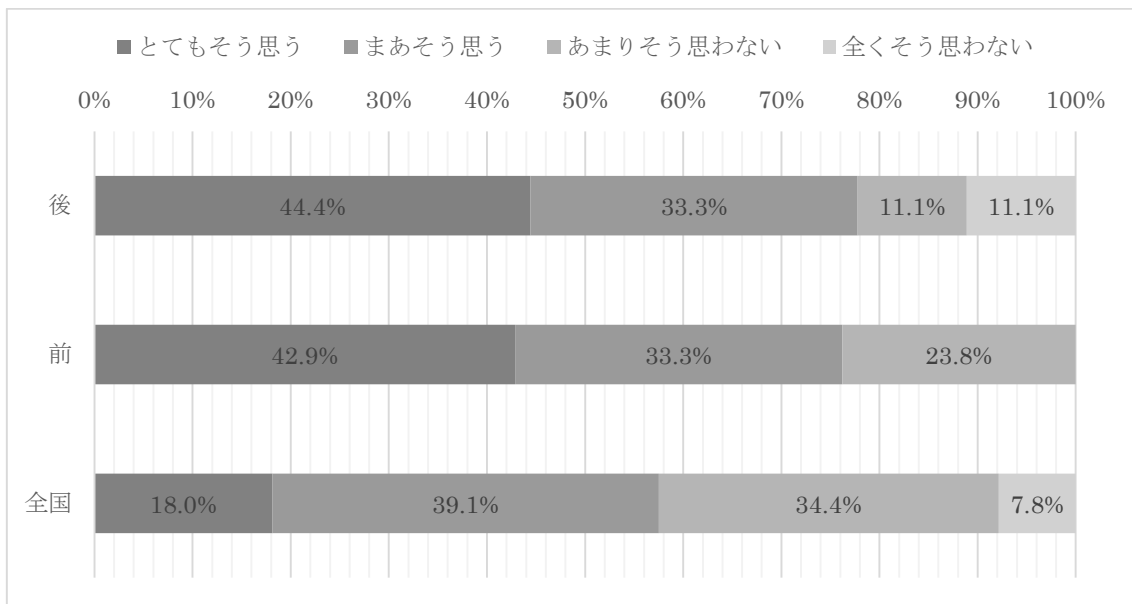
学歴より技術や技能を身につけることが大事だ

「周りに反対されても自分がやりたいことをしたい」について、「とてもそう思う」が55.6%で、前回と比較すると12.7ポイント増加した。  
全国（26.8%）と比較すると、28.8ポイント高かった。



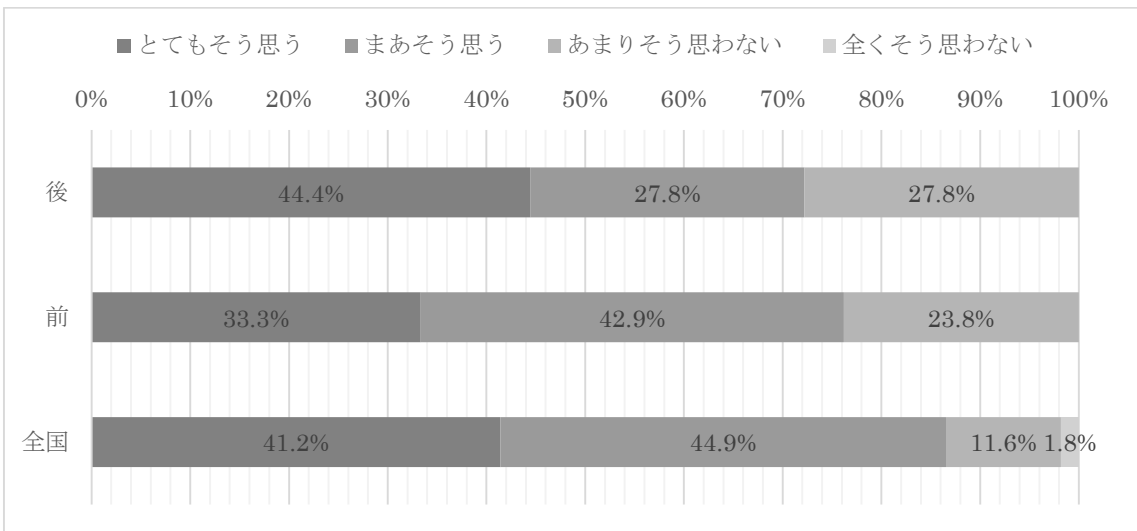
周りに反対されても自分がやりたいことをしたい

「地元で仕事や生活をしたい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が77.7%で、前回とほぼ同値だった。  
全国（57.1%）と比較すると、20.6ポイント高かった。



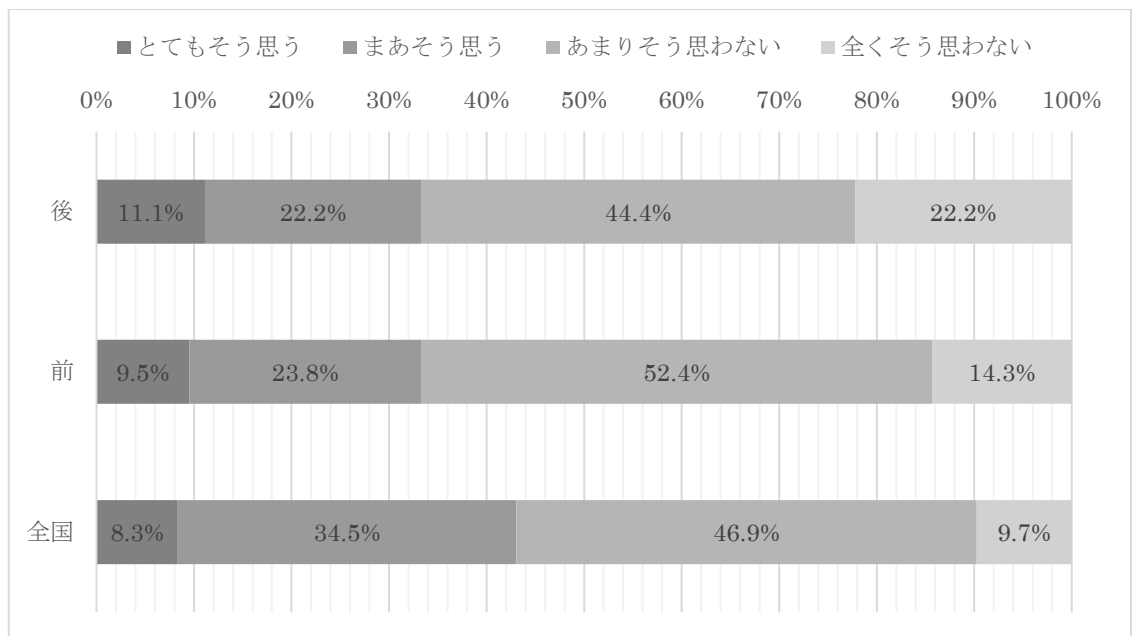
地元で仕事や生活をしたい

「社会に役立つ仕事をしたい」について、「とてもそう思う」が44.4%で、前回と比較すると11.1ポイント増加した。「まあそう思う」と合わせると、72.2%で、前回より4.0ポイント減少した。  
全国（86.1%）と比較すると、13.9ポイント低かった。



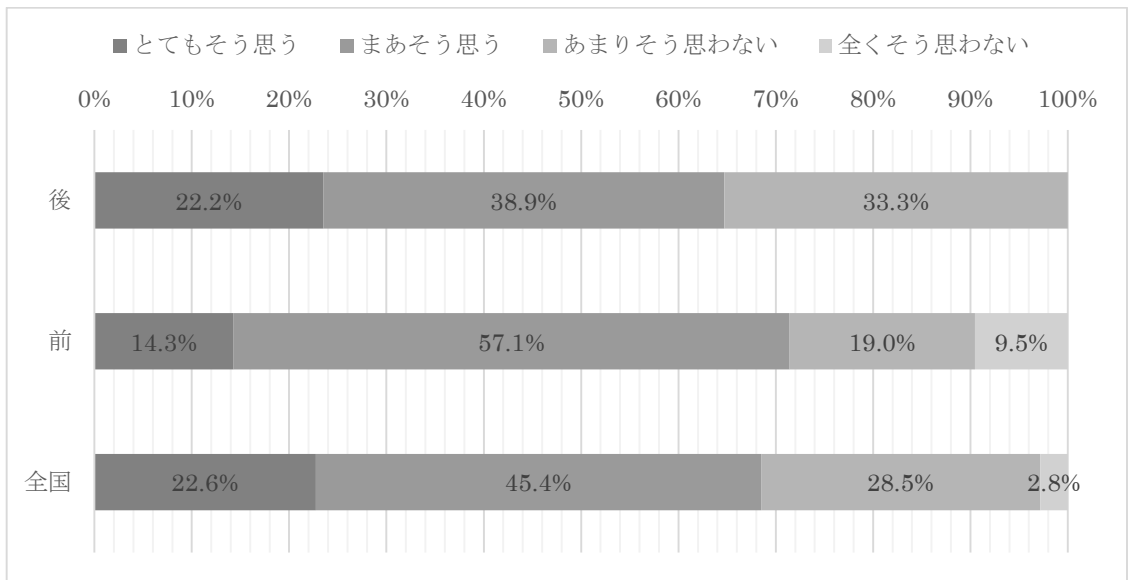
社会に役立つ仕事をしたい

「できるだけ高い地位につきたい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が33.3%で、前回と同値だった。「全くそう思わない」が22.2%で前回と比較すると7.9ポイント増加した。  
全国の「とてもそう思う」「まあそう思う」（42.8%）と比較すると9.5ポイント低かった。



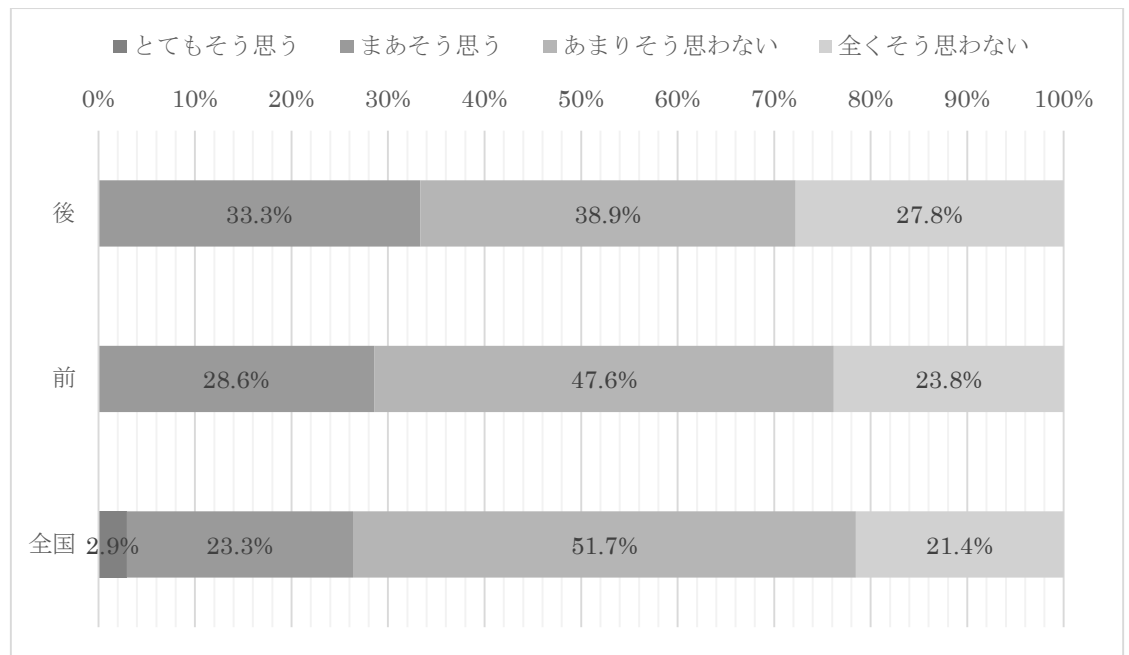
できるだけ高い地位につきたい

「よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい」について、「とてもそう思う」が22.2%で、前回と比較すると7.9ポイント増加した。  
全国（22.6%）と比較すると、ほぼ同値になった。



よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい

「望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ」について、「とてもそう思う」が33.3%で、前回と比較して4.7ポイント増加した。  
「とてもそう思う」「まあそう思う」の全国（26.2%）と比較して、7.1ポイント高かった。  
また、「全くそう思わない」の全国（21.4%）と比較して、6.4ポイント高かった。



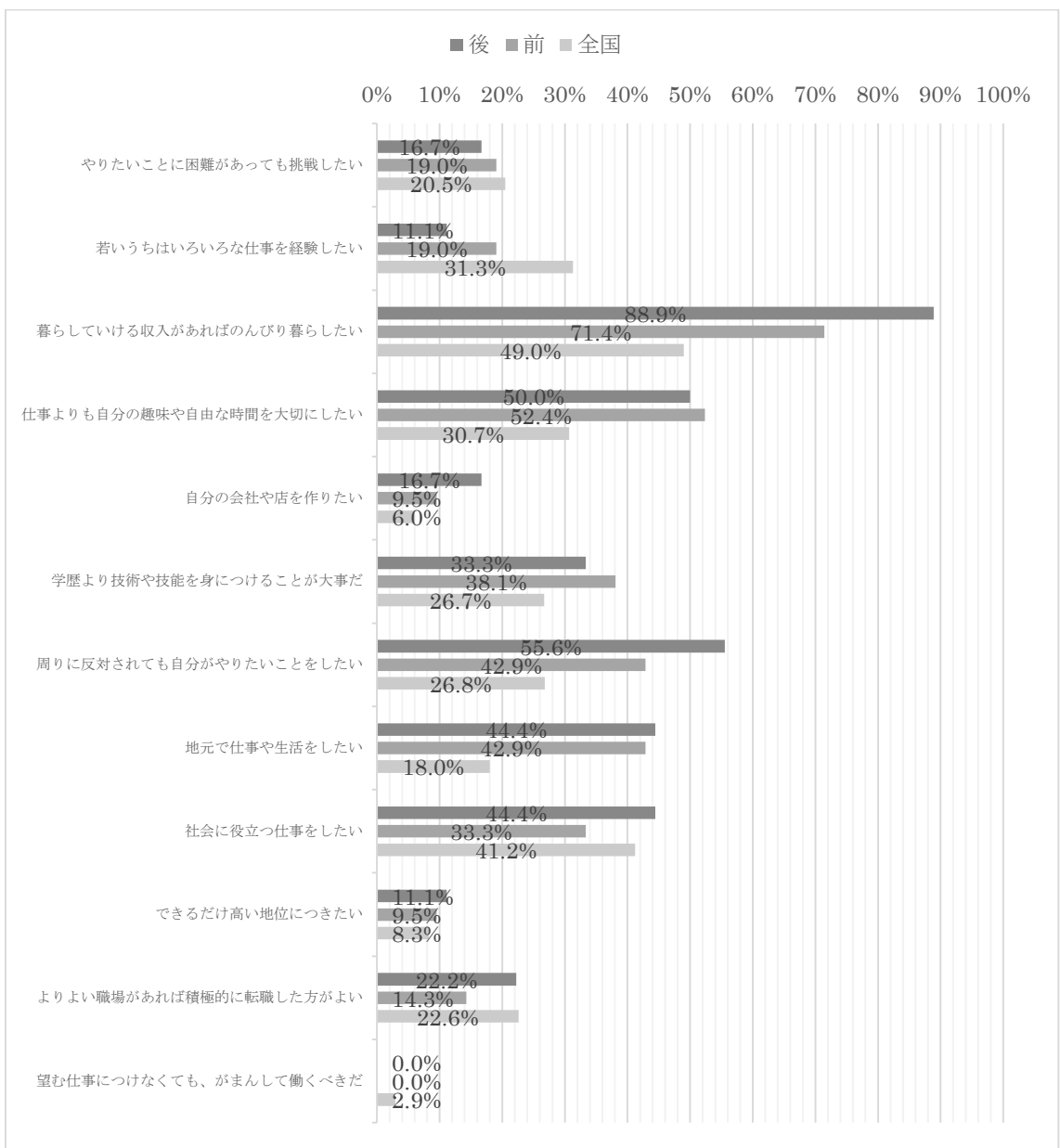
望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ

4.3.10 仕事に関する意識・考えの12項目について、「とてもそう思う」と回答した割合をまとめた。

前回と比較して増加の割合（変化率）が高かったのは、「自分の会社や店を作りたい」で1.75倍。次いで「よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい」1.56倍、「社会に役立つ仕事がしたい」1.33倍だった。

前回と比較して減少の割合（変化率）が高かったのは、「若いうちはいろいろな仕事を経験したい」で0.58倍、次いで「やりたいことに困難があっても挑戦したい」0.88倍、「学歴より技術や技能を身につけることが大事だ」0.88倍だった。

全国との比較で2倍以上の差があったのは、「自分の会社や店を作りたい」で2.78倍、「地元で仕事や生活をしたい」が2.47倍、「周りに反対されても自分がやりたいことをしたい」が2.07倍だった。2分の1を下回ったのは、「若いうちはいろいろな仕事を経験したい」で0.36倍だった。



仕事に関する意識・考えで「とてもそう思う」と回答した割合

## 4.4 実証授業評価検討と令和6年度事業の意見交換

### <実証授業と職業意識調査結果の検討>

「内地で仕事をしたい」という意識が少し高くなっているのを見て、少し視野が広がっているのかと思ったら「地元で働きたい」がダントツに高いものもあって、どちらの気持ちなのかよくわからない。

職業を選ぶ際に重視する点で「能力を発揮できる」項目が商業高校でもの凄く高く、農林高校は低かった。商業高校では在学中に簿記やPCなど多くの資格を取得する。これらを活かした職業が認知、実感しやすいのではないかと考えた。

中部農林高校でも「自分の能力を発揮できる仕事」と「自分の興味や好みに合っている仕事」という項目に相関関係があった。自分の進路をはっきり決める際、自分の能力がどのくらいか分かることが大事なのではという結果が出ている。

中部農林高校の授業で行った「伝言ゲーム」は、10人ずつ縦に列をつくり先頭の人にある文章を読ませ、後ろの人へ伝えていく。当然、後ろの人の答えはデタラメになる。なぜそのような結果になったか1人ひとり問いかけて気づかせる。次年度も高校で実施したい。

### <令和6年度事業計画の検討>

看護専攻では、ボランティアを通じフィールドワークという方法で地域に貢献することをこれまで行ってきた。ブースを設置させてもらい、犬の耳掃除や爪切りといった日常でできるケアの指導や手入れを行っている。また、寄生虫の知識やワクチン啓発を実施した。

飼育専攻では、沖縄子どもの国に協力してもらい動物愛護週間の期間に動物の生態や飼養の「スタンプラリー」を実施した。学生にとって、来園者に責任をもって情報を伝える責任感、子どもたちに対する言葉づかいや接し方などすごく勉強になる。

トータルペットケア専攻では、浦添市の公園で「ドックラン」「爪切り」「耳掃除」といったボランティア活動を学生たちが企画。全ての売り上げを募金にあてた。また、老人ホームで動物とのふれあいボランティアを学生たちと相談して実施したこともあった。

動物園としても、学生が来てくれると盛り上がる。学生たちにとって、より良い学びの場になるようにこれからも一緒にやっていきたい。また、インターンシップにもぜひ来てほしい。飼育員も増え、45名ほどいる。6つの班に分かれて中部農林高校の卒業生が班長を務める班もあり、中核を担ってくれている。中部農林高校の現役生にも見に来てもらえればと思う。

中部農林高校から動物愛玩の1級対策を受けた生徒が何人か入学してくる予定。各専攻にいたので、そのメンバーが中心となるのがプログラムの理想だと思っている。ボランティア活動でどの部分まで入っていけるかは分からないが、内部でも検討しながら進められればと思っている。

卒業生を対象とした看護とトリマー関係のセミナーも考えている。

看護専攻では、卒業生と現場で働くスタッフを対象に年2～3回セミナーを実施する。

トータルペットケア専攻では、ハサミを使ったカットの練習ができる場と、いろんな犬種のシザーリング研修を考えている。

このプログラムを通じて、私自身が生徒の成長を1番に感じている。3年目でとても良い結

果が出たと思う。愛玩動物試験の結果以前に生徒たちの動物に触れあう意識が着実に上がっている。連携プログラムを受けた生徒が沖縄ペットワールド専門学校に入学する。この子たちの成長がとても楽しみ。入学後の活躍が期待されるなか、残った後輩たちは先輩らの活躍を見ているのもっと意識が高くなると期待される。

卒業生向けのセミナーは、小さく生んで大きく育てるように取り組んでいるので、参加者が少ない場合でもマンツーマンで実施していこうと現場の職員が頑張ってくれている。一番大事なのは「告知」である。

アンケートから「電話対応」や「話し方」をさらに学びたいという結果が出ていた。最近では携帯電話により個々人で友達としか会話をしない。固定電話が無い家庭もあり、友達の両親など目上の人とやりとりをする経験が一切ないという前提がある。

最近、当然知っている前提で「ここまで伝えなければいけないのか」「こういった認識がないのか」という経験があった。人材の育成という点で時代が変容していくなか、大変であると思うが良い事業なのでできることを一緒に出来ればと思う。

社会人として働くことのイメージ調査で「義務」と捉えている生徒が減少している結果があった。これがどういった意味なのか考えてしまう。義務というと押し付けられている感じはするが、基本的に仕事とは「社会と約束をすること」と捉えて能動的に自分からどんどん仕事を運び、自己実現させていく子がこの事業で育てていければと思っている。

## 5 第三回連携プログラム委員会以降に取りまとめた職業意識調査

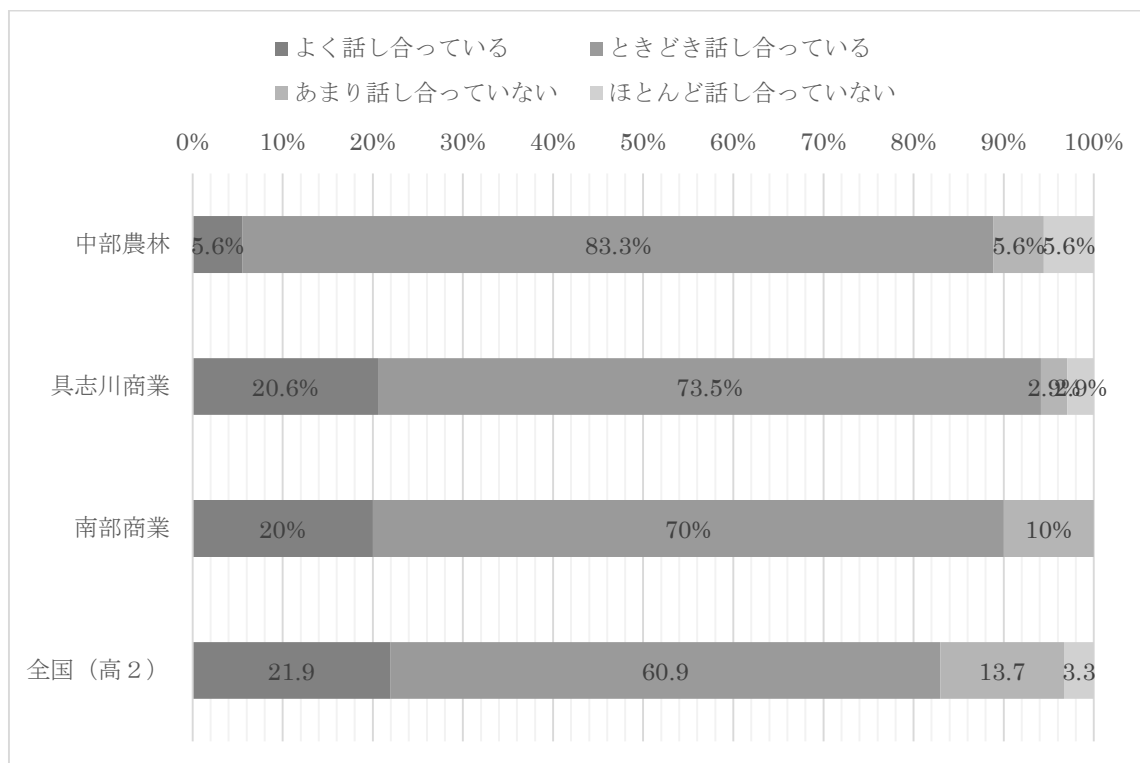
### 5.1 高校生の職業意識に関する調査（中部農林・南部商業・具志川商業）

#### 5.1.1 調査概要

中部農林高校	日時	1月15日
	対象	熱帯資源科動物コース 2年生
	人数	18名（男2女16）
南部商業高校	日時	1月29日
	対象	観光コース 2年生
	人数	20名（男1女19）
具志川商業高校	日時	1月18日
	対象	リゾート観光科 2年生
	人数	34名（男0女34）

#### 5.1.2 将来の生き方や進路についての保護者との会話

将来の生き方や進路について保護者と「よく話し合っている」「ときどき話し合っている」と回答した割合は約9割で、全国と比較すると高い。  
※全国データは、高校2年生で男女比がほぼ均衡しているデータ

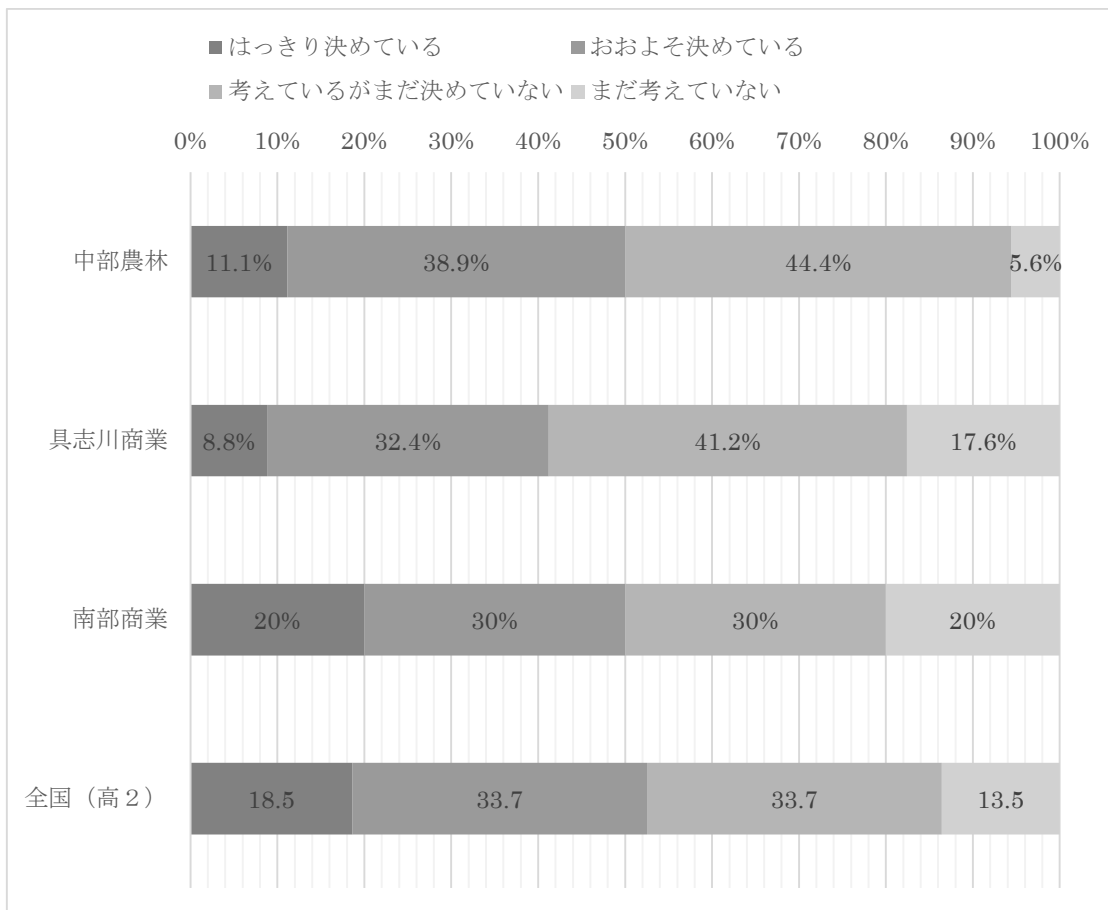


将来の生き方や進路についての保護者との会話



### 5.1.3 将来希望する職業を決めているか

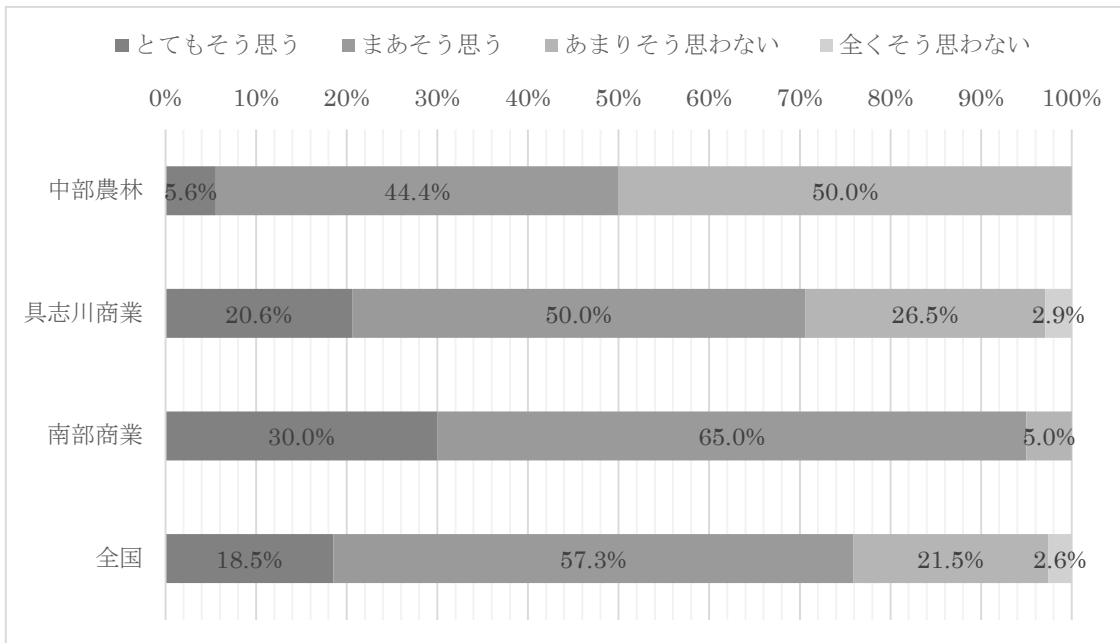
「はっきり決めている」「おおよそ決めている」と回答した割合が具志川商業で低かった。



将来希望する職業を決めているか

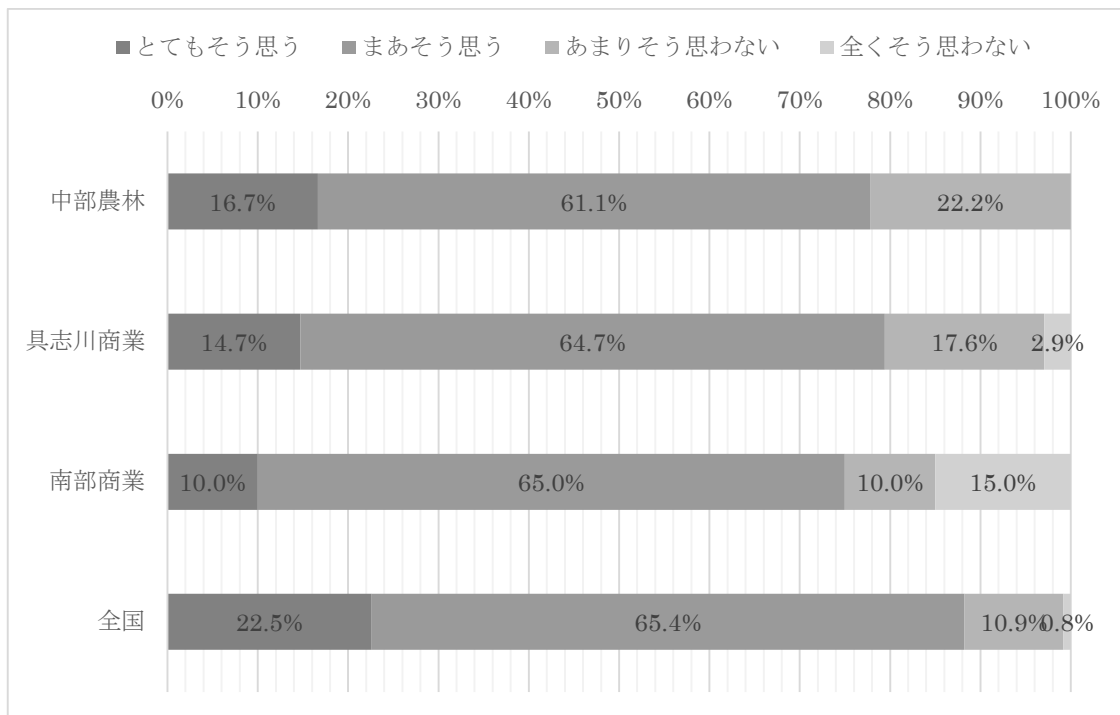
### 5.1.4 「仕事」「働くこと」のイメージ

南部商業は、「とてもそう思う」「まあそう思う」が高く、中部農林は低かった。



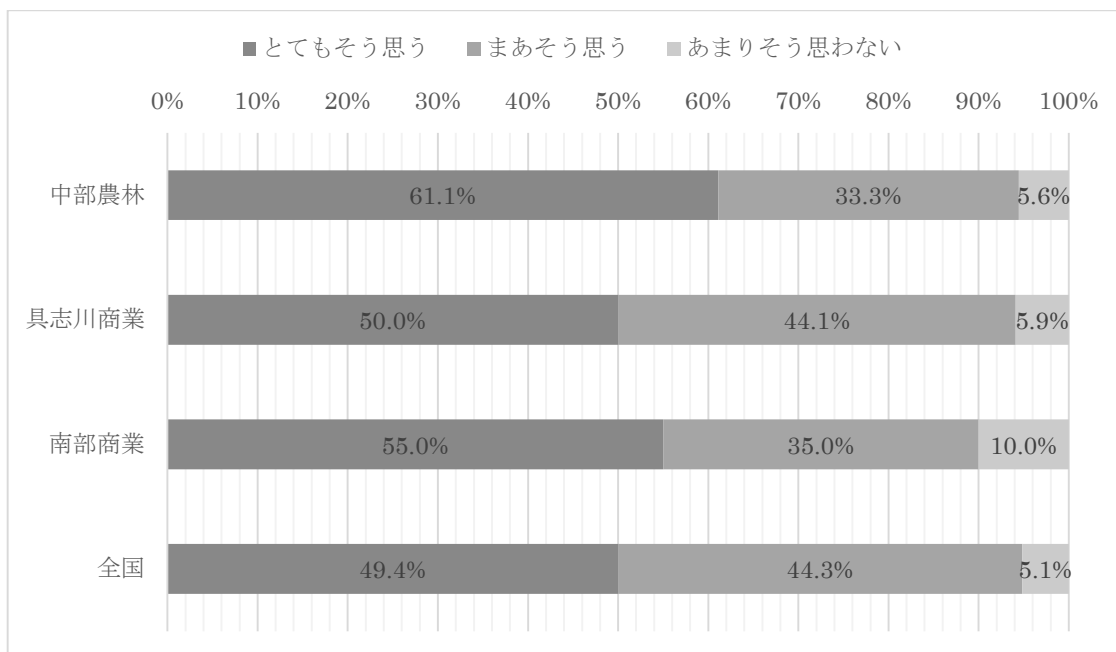
「仕事」「働くこと」のイメージ：「楽しい」

「苦しい」について、南部商業は「とてもそう思う」が少ない。3校ともネガティブなイメージを持っている生徒が全国に比べると少ない。



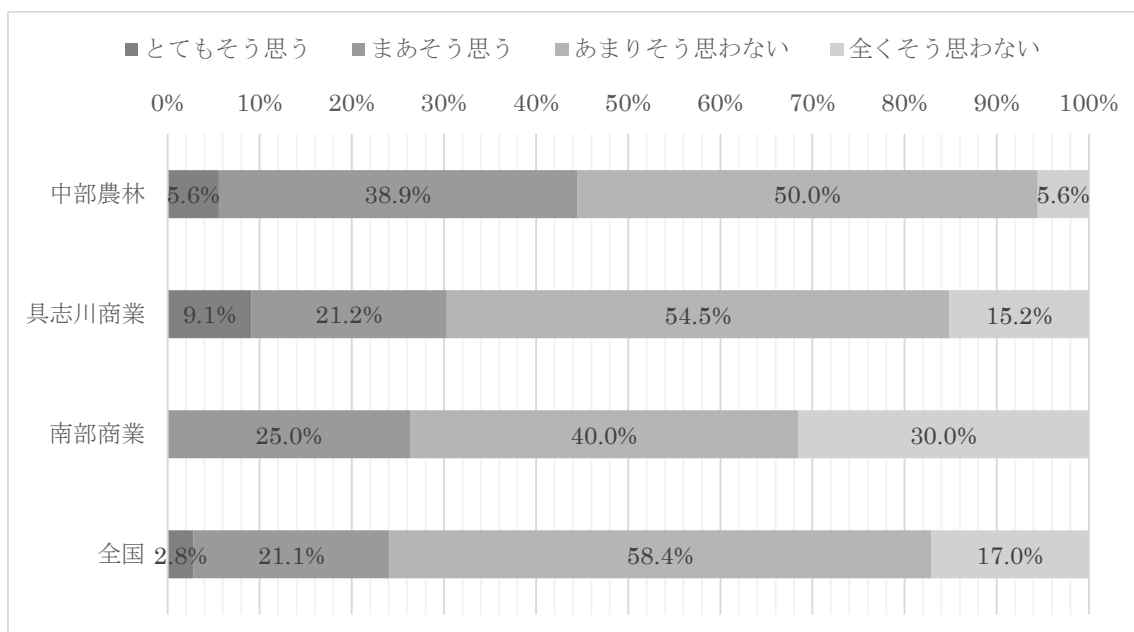
「仕事」「働くこと」のイメージ：「苦しい」

中部農林に「とてもそう思う」が多かった。



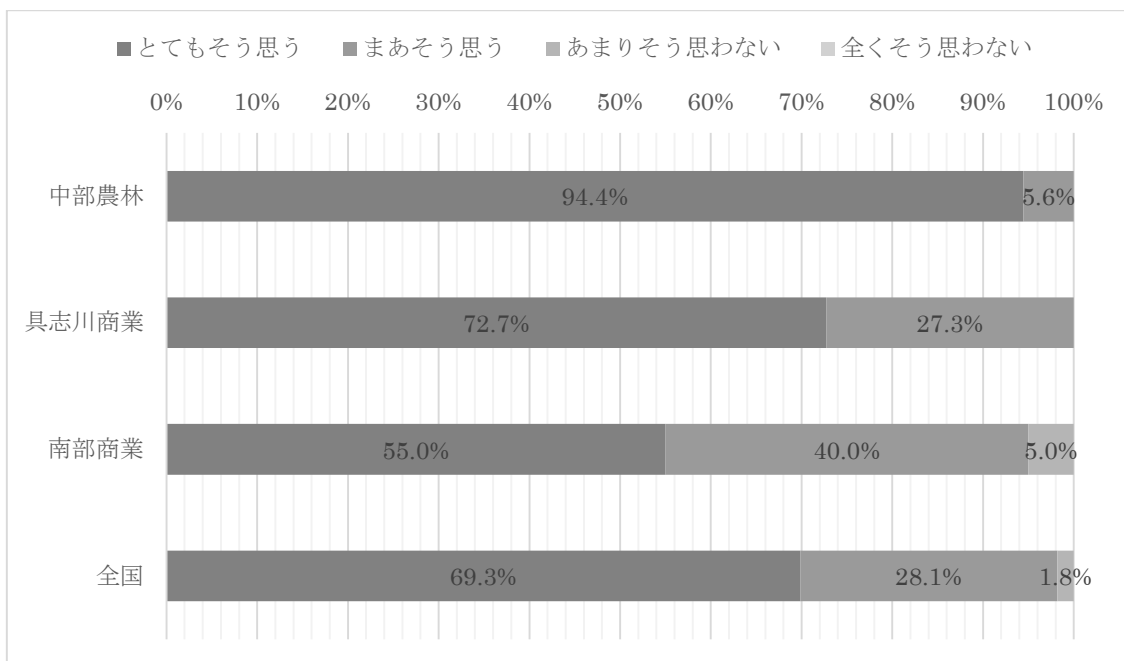
「仕事」「働くこと」のイメージ：「やりがいがある」

「つまらない」について中部農林は、「とてもそう思う」「まあそう思う」が多かった。具志川商業は「とてもそう思う」が多かった。



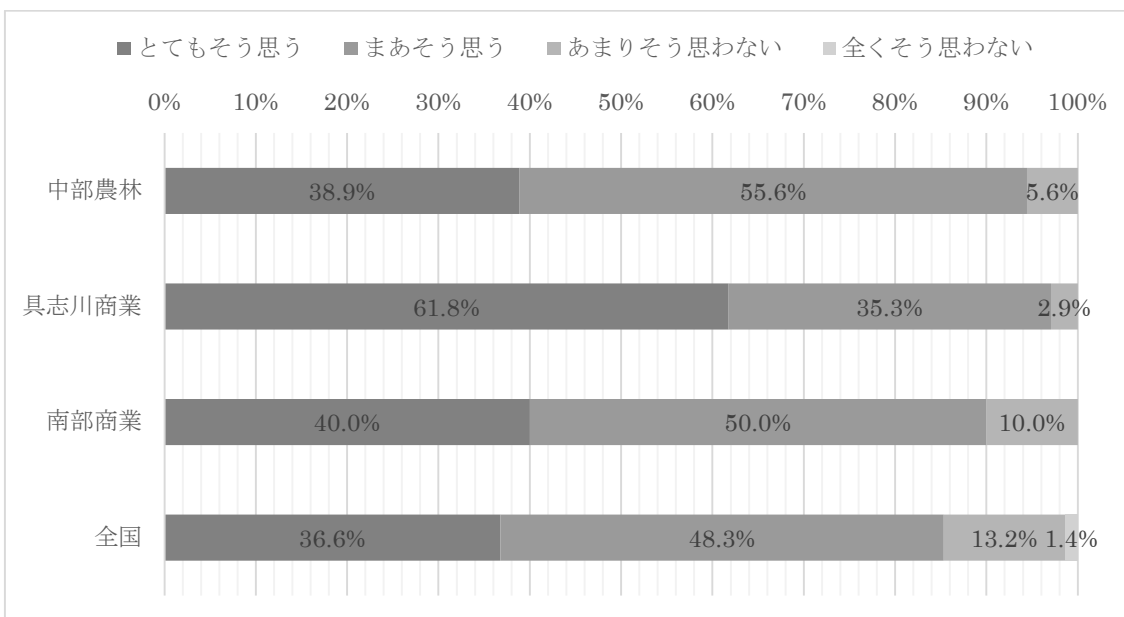
「仕事」「働くこと」のイメージ：「つまらない」

「生活のため」について、「とてもそう思う」が中部農林に多く、南部商業に少なかった。



「仕事」「働くこと」のイメージ：「生活のため」

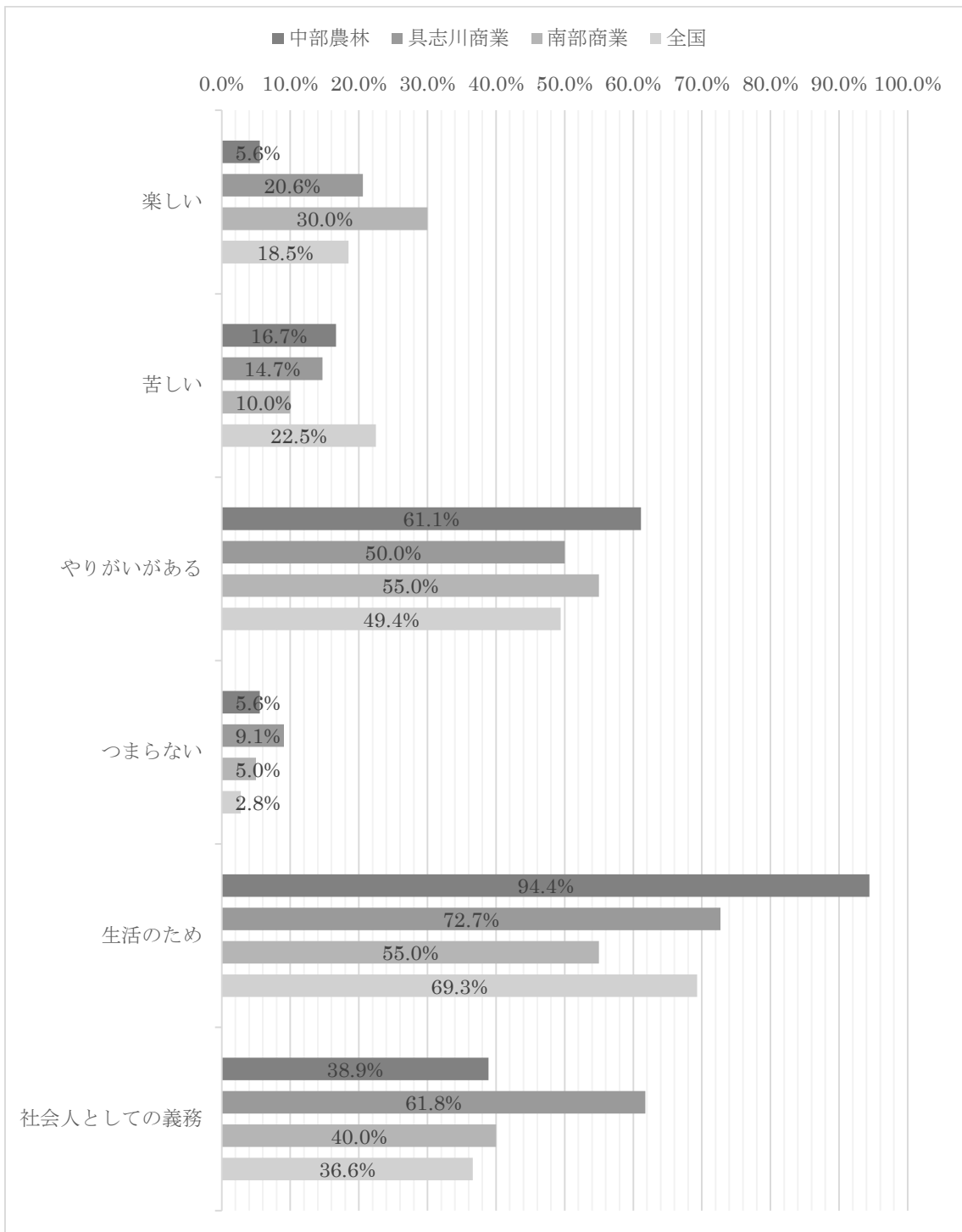
「社会人としての義務」について、「とてもそう思う」が具志川商業に多かった。



「仕事」「働くこと」のイメージ：「社会人としての義務」

5.1.5 働くことのイメージの6項目について、「とてもそう思う」と回答した割合をまとめた。

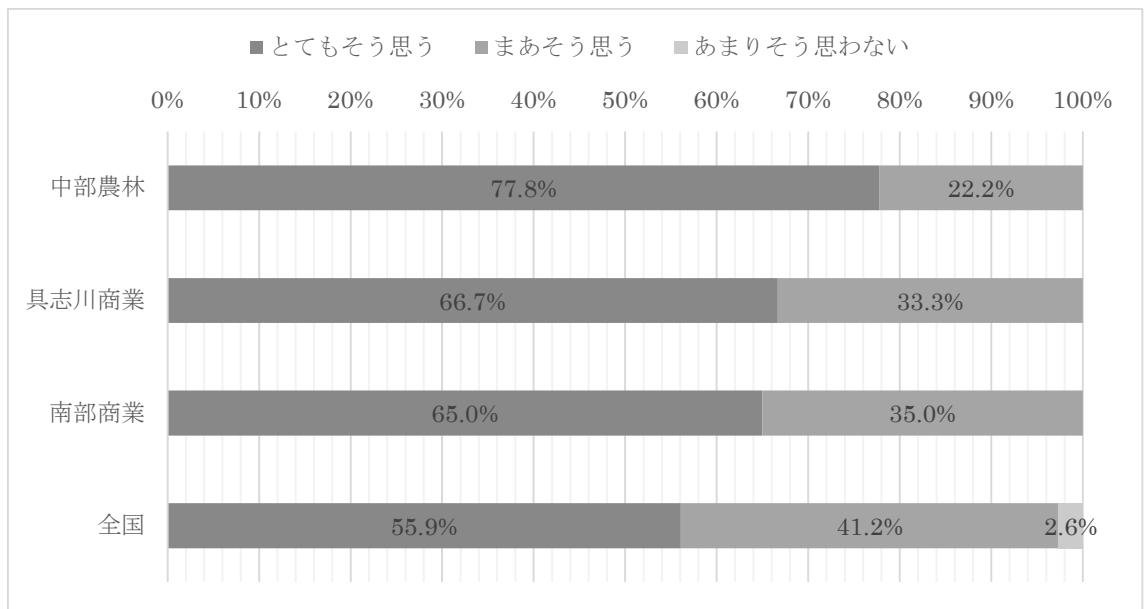
中部農林は、「生活のため」「やりがいがある」が高く、「楽しい」が低かった。  
南部商業は、「楽しい」が高かった。  
具志川商業は、「社会人の義務」が高かった。



「仕事」「働くこと」のイメージで「とてもそう思う」と回答した割合

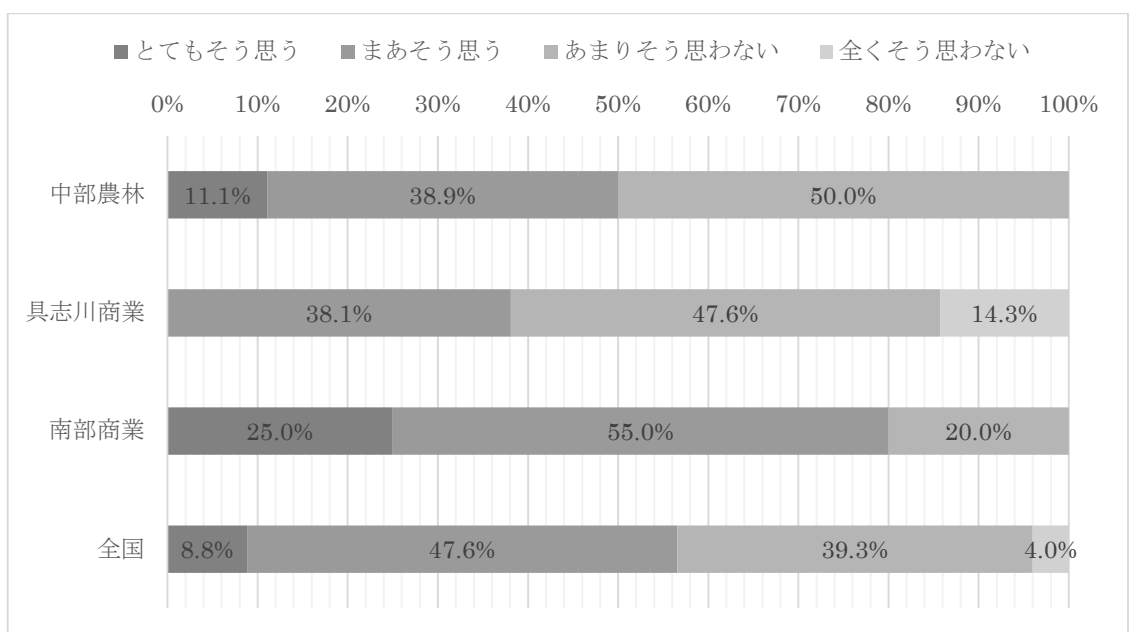
### 5.1.6 職業を選ぶにあたって重視すること

「収入」について、「とても思う」が全国（55.9%）と比較すると多く、特に中部農林が高かった。



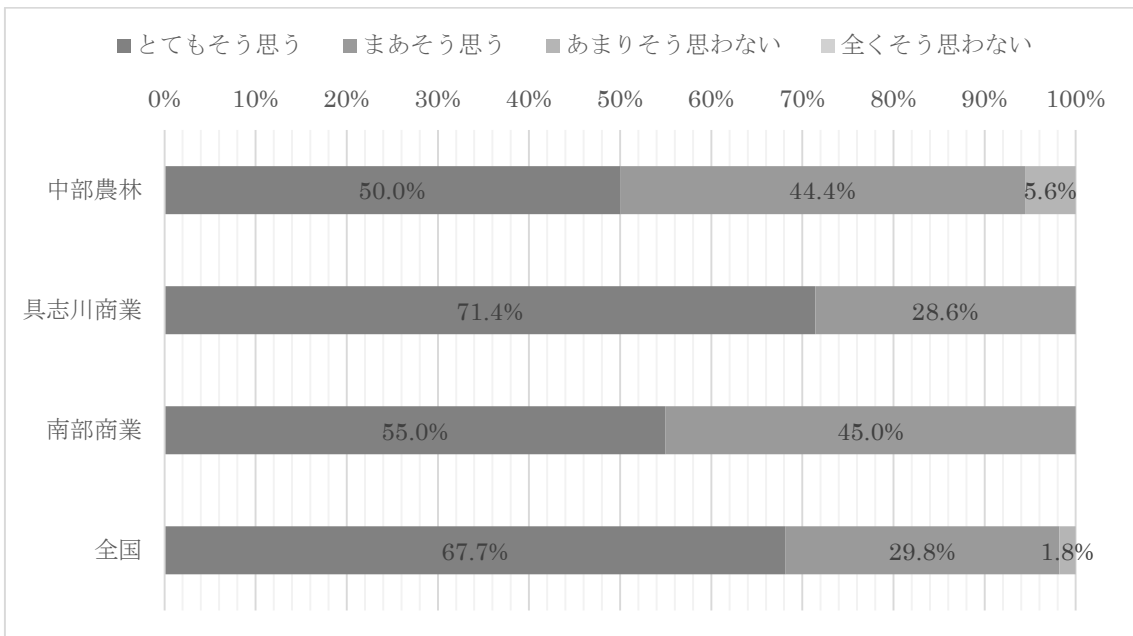
職業を選ぶにあたって重視すること：「収入」

「社会的地位」について、南部商業は「とても思う」が非常に高く、具志川商業はゼロだった。



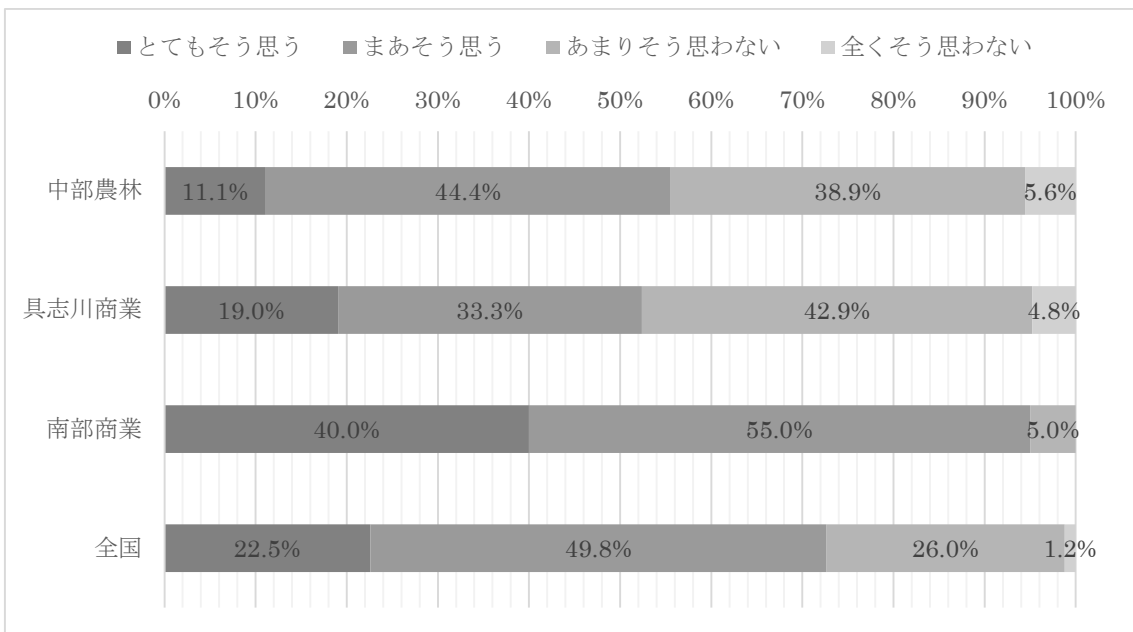
職業を選ぶにあたって重視すること：「社会的地位」

「安定性」について、「とてもそう思う」が中部農林と南部商業は、全国と比較して低かった。



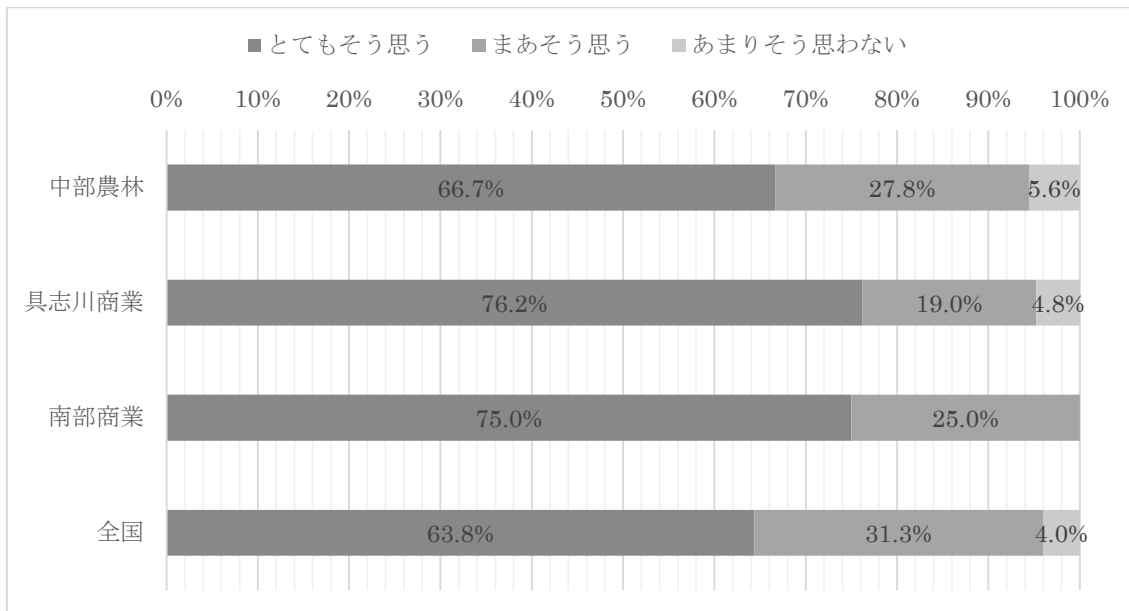
職業を選ぶにあたって重視すること：「安定性」

「仕事の内容ややり方を自分で決められる」について、南部商業は「とてもそう思う」が高く、中部農林が低かった。「まあそう思う」と合わせると南部商業は95.0%で非常に高かった。



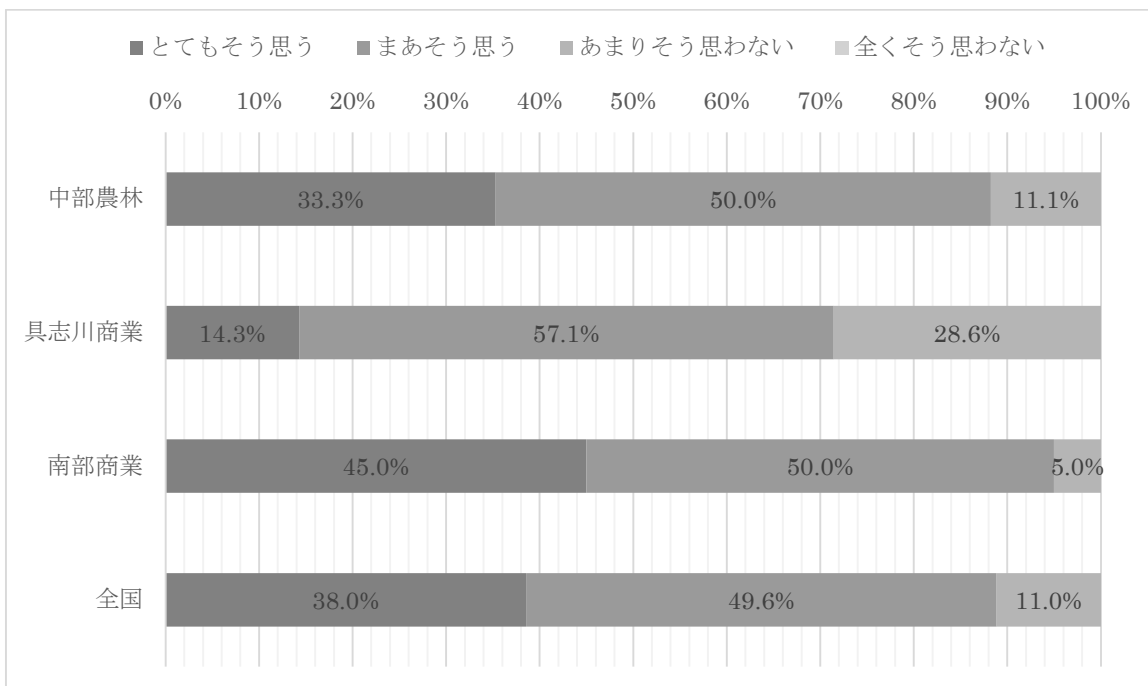
職業を選ぶにあたって重視すること：「仕事の内容ややり方を自分で決められる」

「自分の興味や好みに合っていること」について、商業系は、「とてもそう思う」が高かった。



職業を選ぶにあたって重視すること：「自分の興味や好みに合っていること」

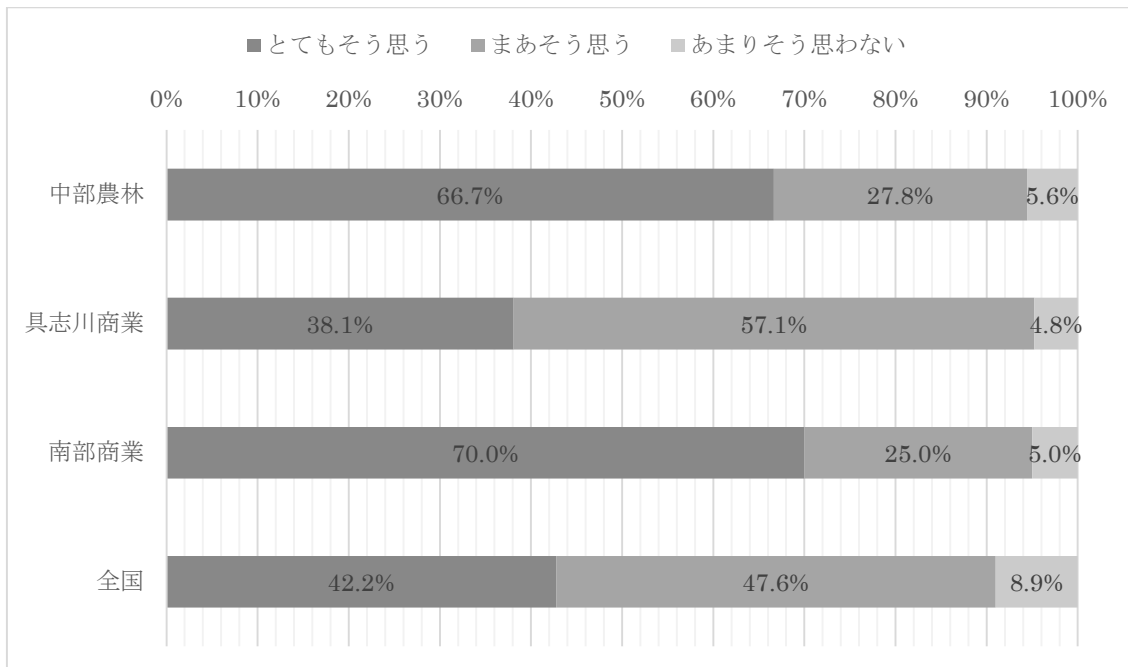
「働く時間を自由に決めること」について、「とてもそう思う」が具志川商業で特に低かった。



職業を選ぶにあたって重視すること：「働く時間を自由に決めること」

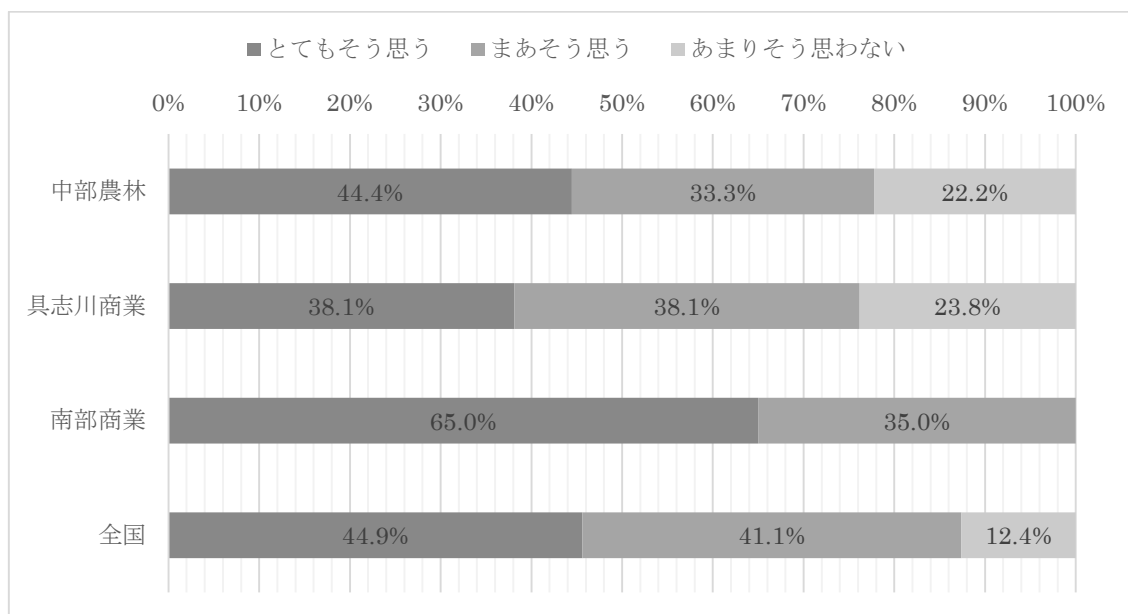


「能力を発揮できること」について、中部農林と南部商業の「とてもそう思う」が非常に高かった。



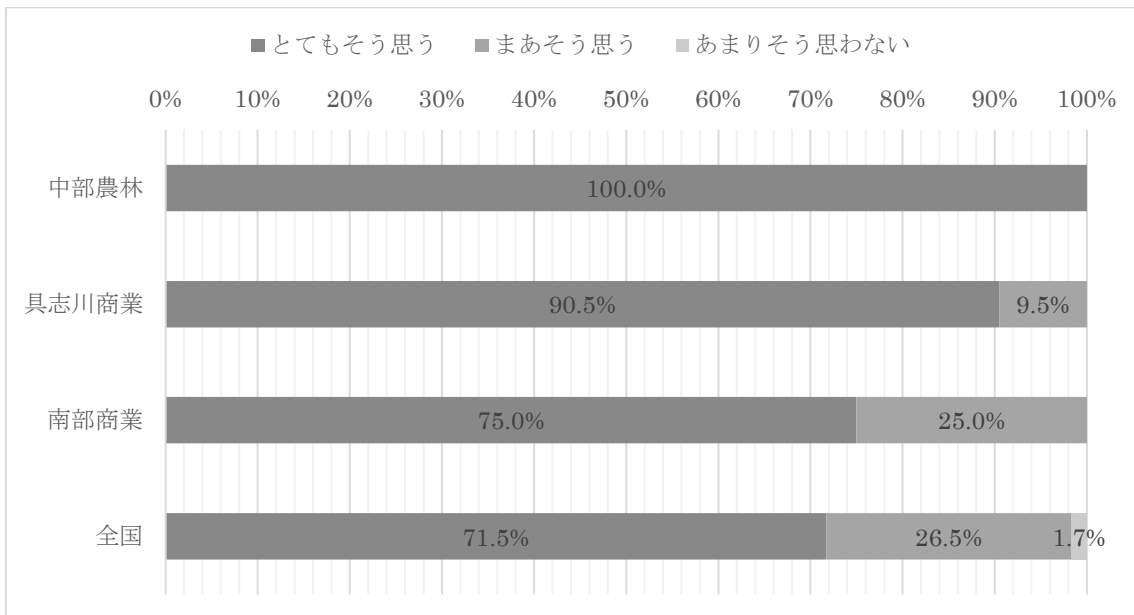
職業を選ぶにあたって重視すること：「能力を発揮できること」

「社会や人のために役立ち貢献できること」について、南部商業が高かった。



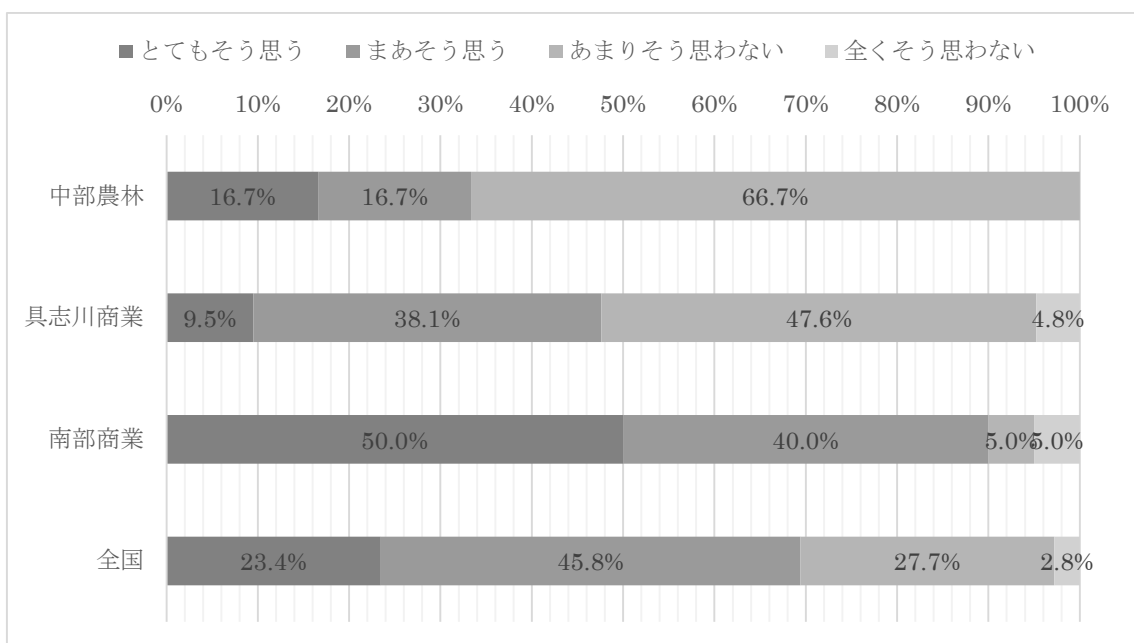
職業を選ぶにあたって重視すること：「社会や人のために役立ち貢献できること」

「働きやすいこと（仕事の環境）」について、「とてもそう思う」が中部農林 100%、具志川商業 90%だった。



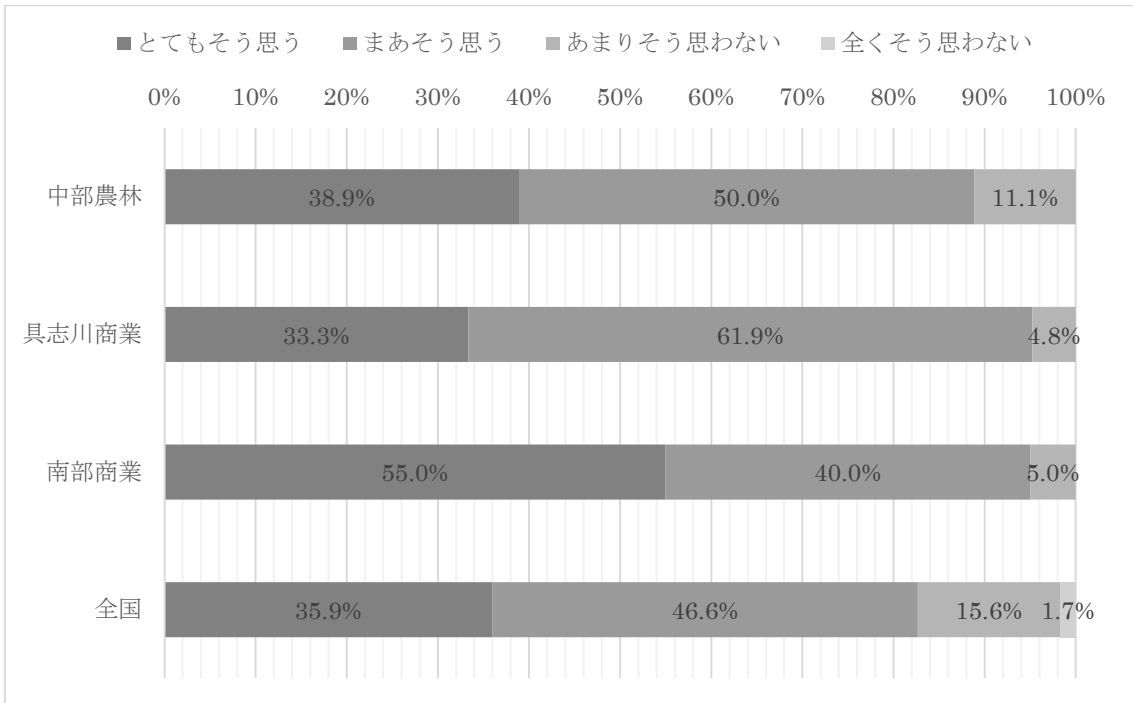
職業を選ぶにあたって重視すること：「働きやすいこと（仕事の環境）」

「新しいことにチャレンジできること」について、南部商業が「とてもそう思う」が全国の2倍以上だった。具志川商業、中部農林は、「まあそう思う」を合わせても全国と比較すると低かった



職業を選ぶにあたって重視すること：「新しいことにチャレンジできること」

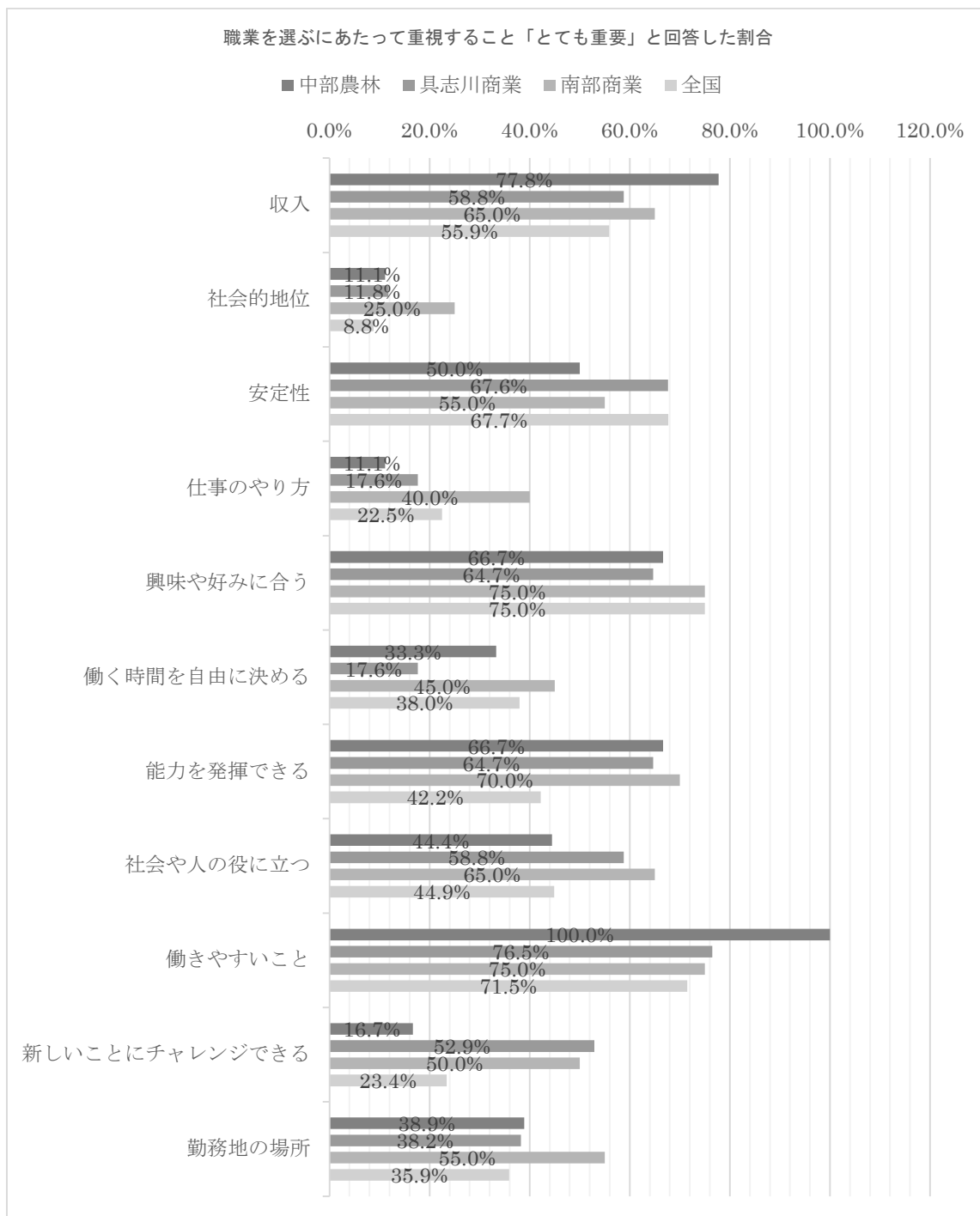
「勤務地の場所」について、南部商業の「とてもそう思う」が非常に高かった。



職業を選ぶにあたって重視すること：「勤務地の場所」

5.1.7 職業を選ぶ際に重視することの11項目について、「とても重要」と回答した割合をまとめた。

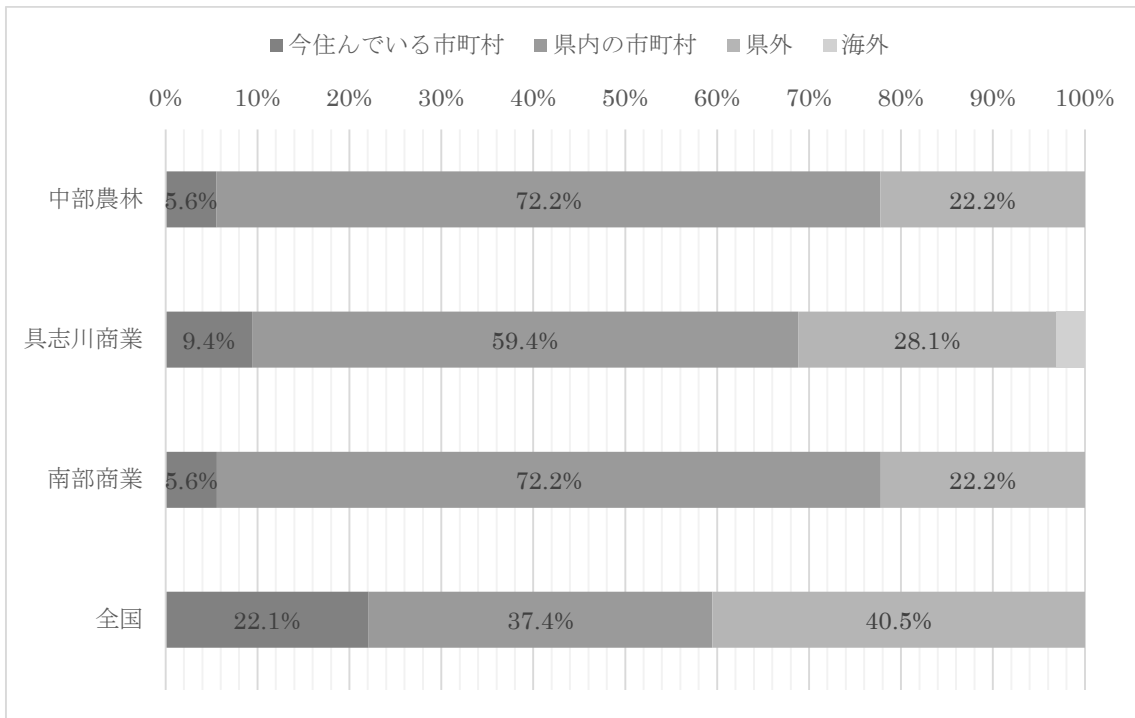
3校とも、「働きやすいことが」が一位だった。2位は、具志川商業と南部商業は、「興味や好みに合う」、中部農林は「収入」だった。  
3校とも、「能力を發揮できる」が全国に比べて非常に高かった。



職業を選ぶにあたって重視することで「とても重要」と回答した割合

### 5.1.8 希望する勤務地

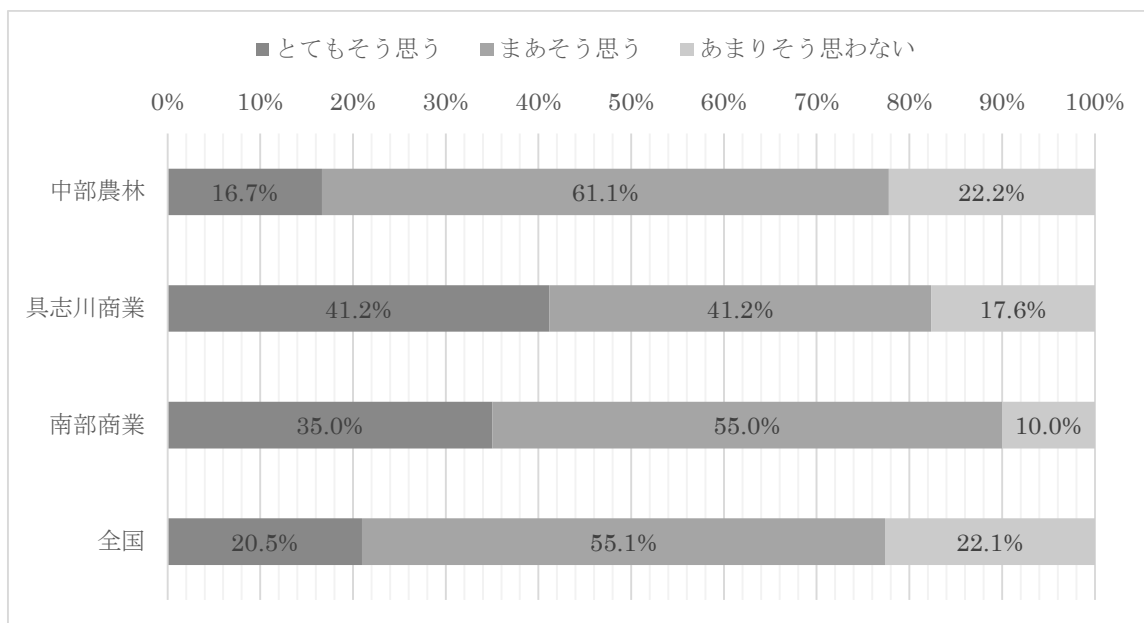
「希望する勤務地」について、3校とも「県外」が低かった。



希望する勤務地

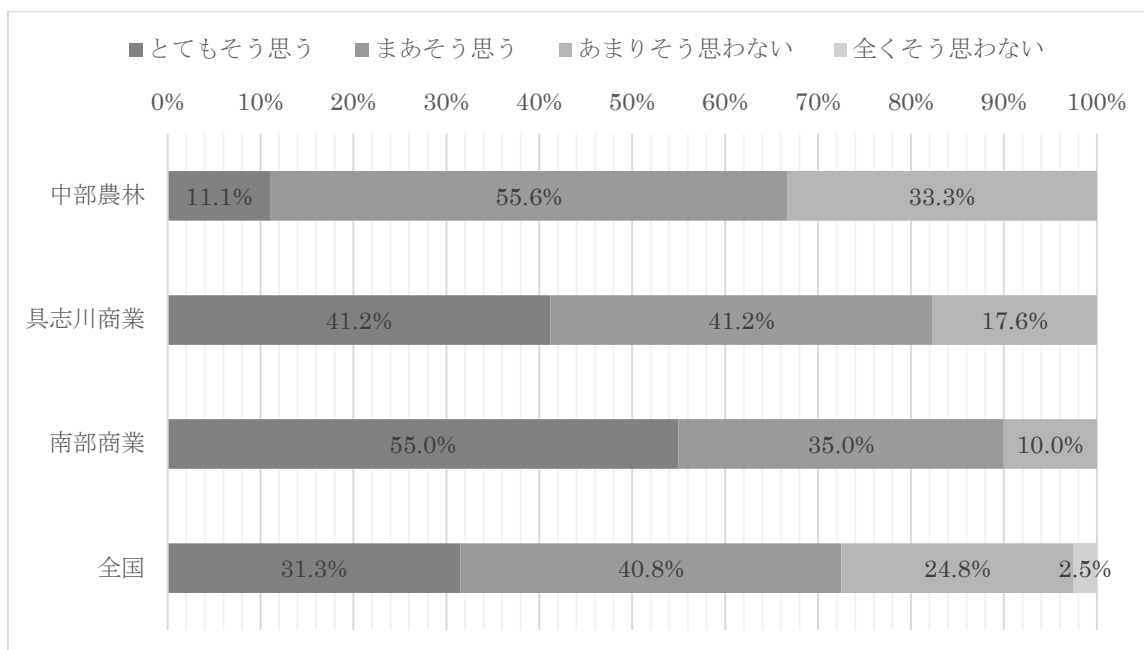
### 5.1.9 仕事に関する意識・考え

「やりたいことに困難があっても挑戦したい」について、具志川商業、南部商業は「とてもそう思う」が高かった。



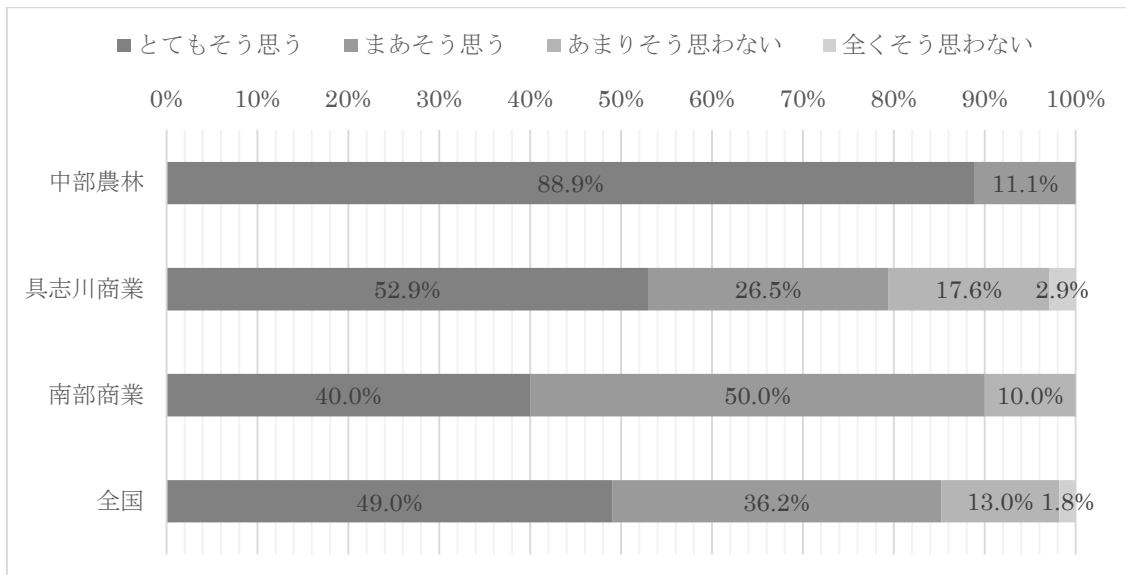
やりたいことに困難があっても挑戦したい

「若いうちはいろいろな仕事を体験したい」について、「とてもそう思う」が具志川商業、南部商業は高く、中部農林は低かった。



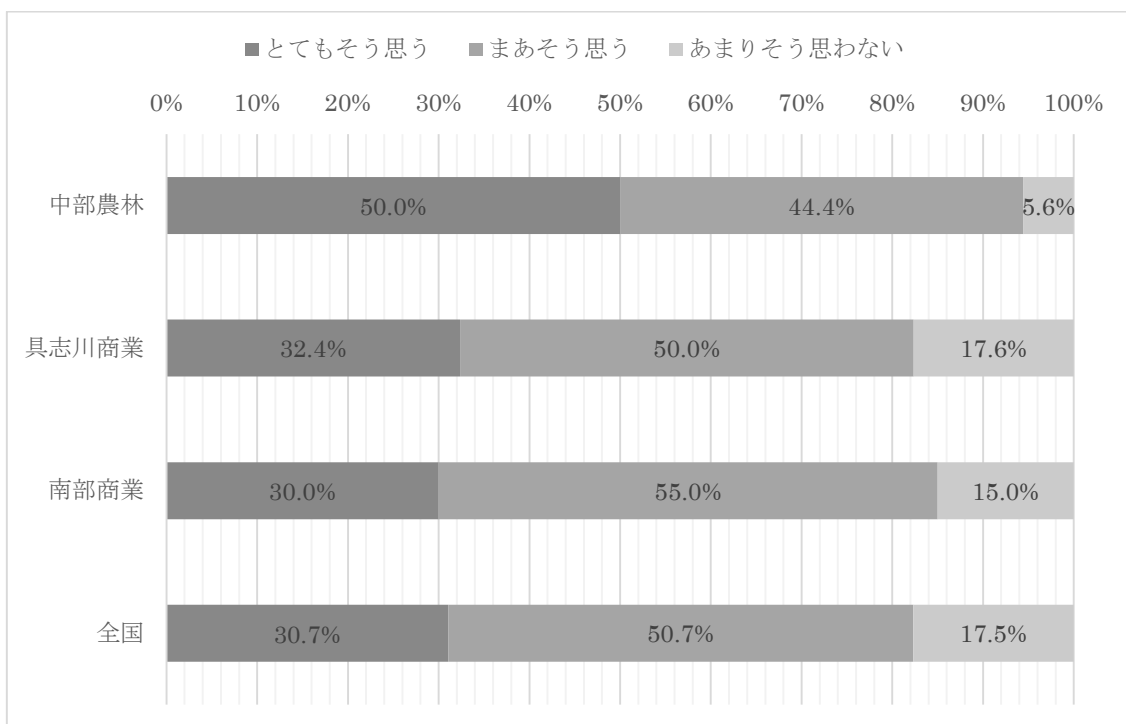
若いうちはいろいろな仕事を体験したい

「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」について、「とてもそう思う」が中部農林は非常に高かった。



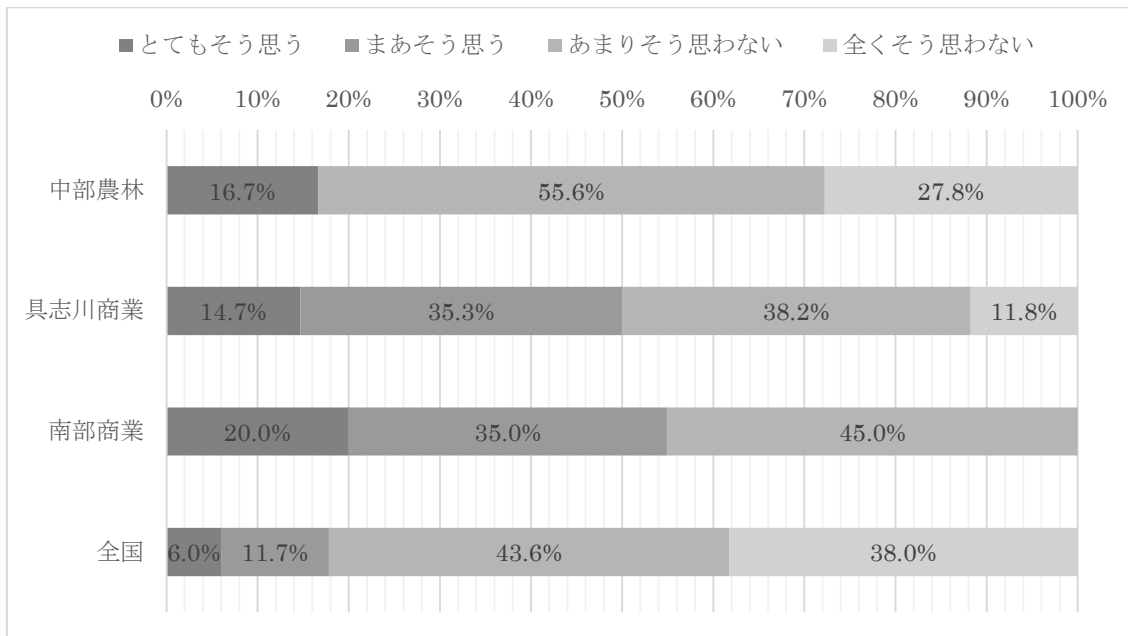
暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい

「仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい」について、「とてもそう思う」が中部農林で高かった。



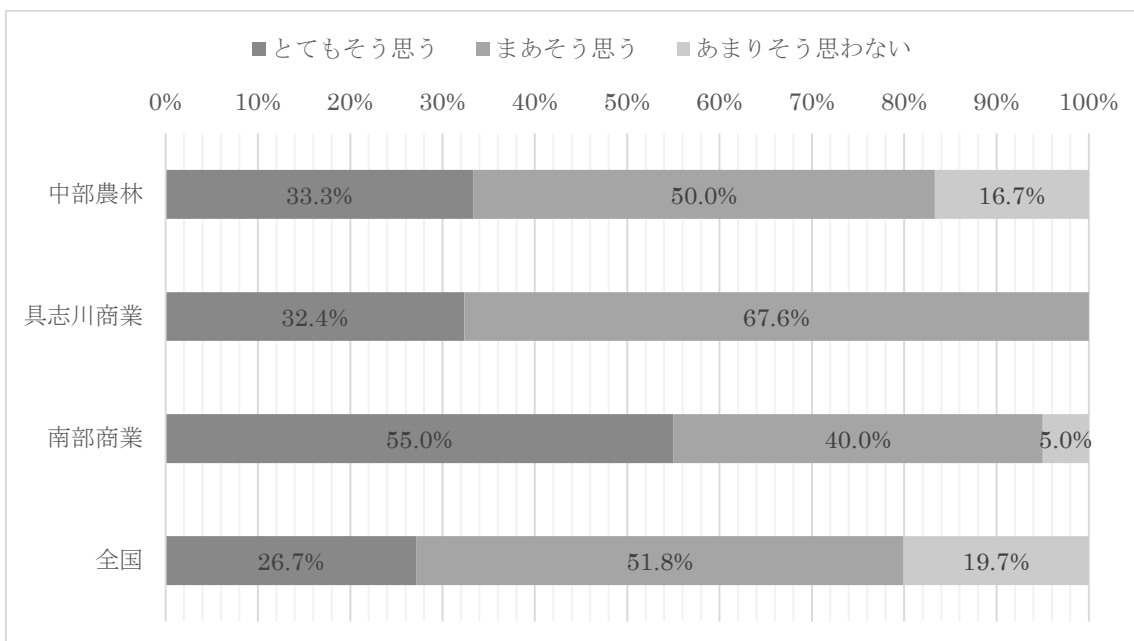
仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい

「自分の会社や店を作りたい」について「とてもそう思う」は、3校とも全国より高かった。「まあそう思う」との合計は、具志川商業、南部商業が非常に高く、全国の3倍だった。中部農林は、「まあそう思う」はゼロだった。



自分の会社や店を作りたい

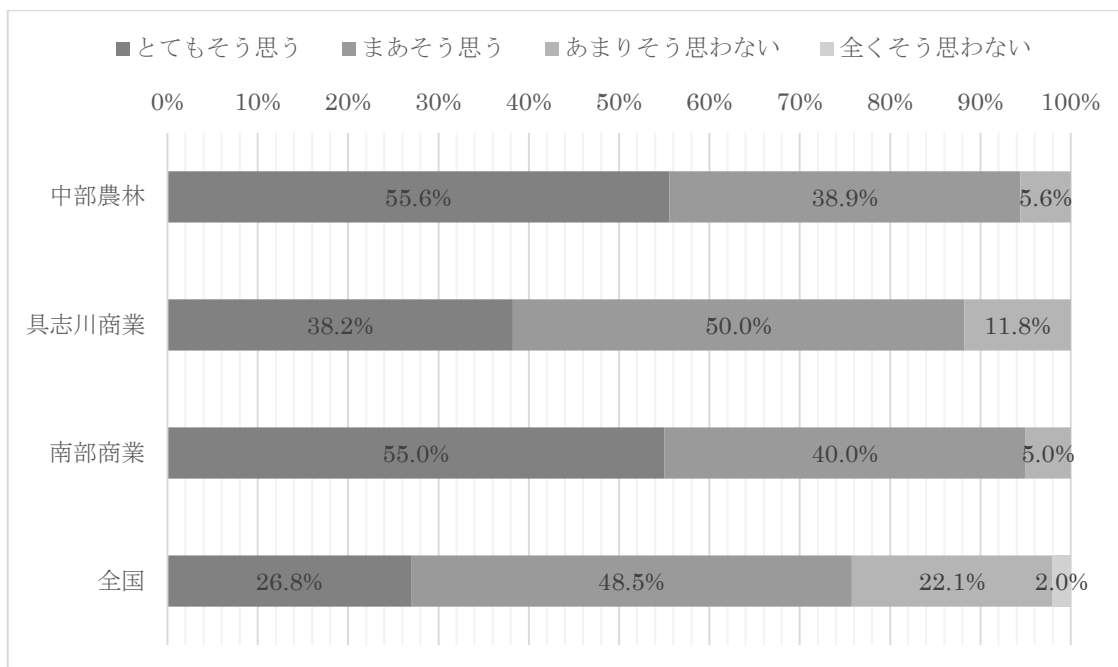
「学歴より技術や技能を身につけることが大事だ」について、「とてもそう思う」が3校とも全国より高く、南部商業は特に高かった。具志川商業は、「まあそう思う」を合わせると100%になった。



学歴より技術や技能を身につけることが大事だ

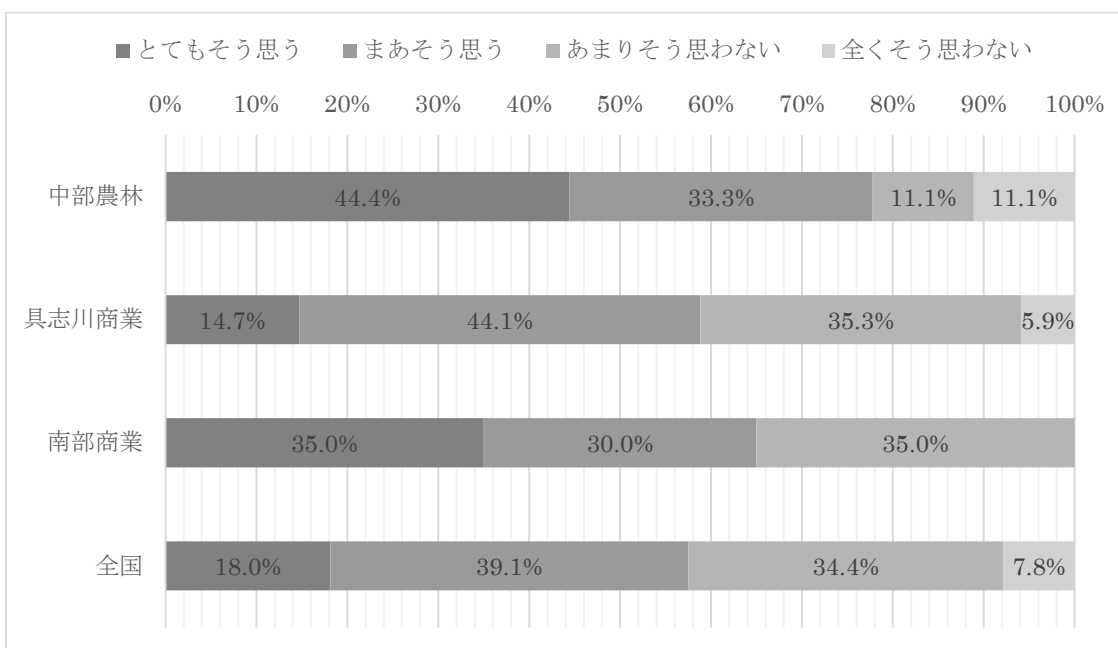


「周りに反対されても自分がやりたいことをしたい」について、「とてもそう思う」が3校とも高く、特に南部商業、中部農林は全国の2倍を超えた。



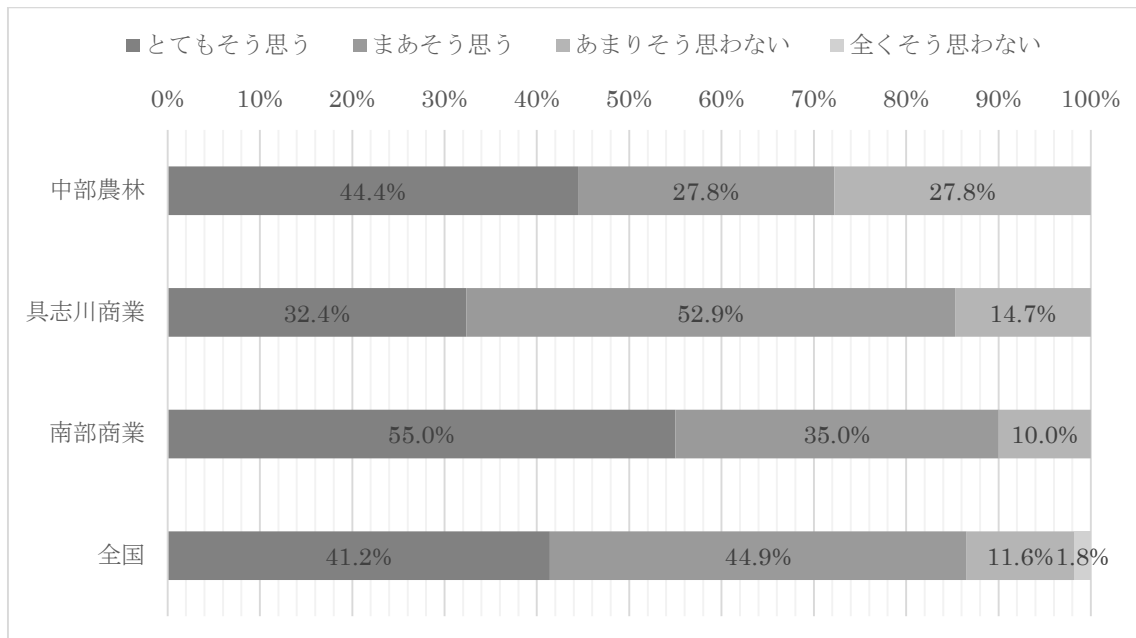
周りに反対されても自分がやりたいことをしたい

「地元で仕事や生活をしたい」について、「とてもそう思う」が、中部農林、南部商業は全国（18.0%）の2倍を超えた。



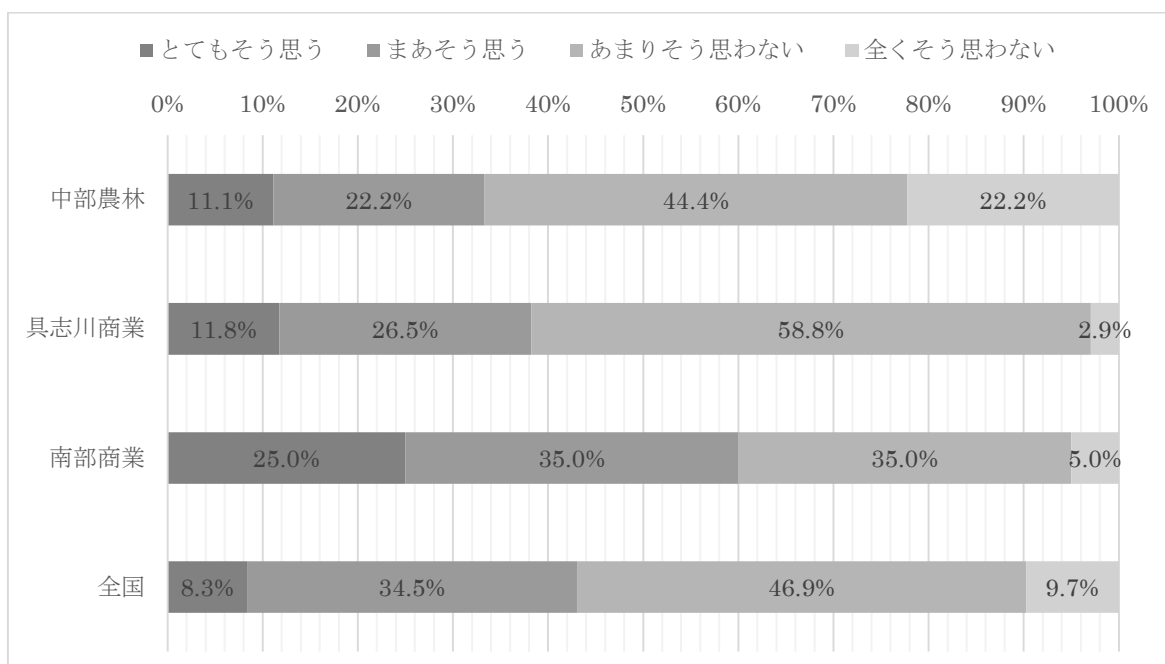
地元で仕事や生活をしたい

「社会に役立つ仕事をしたい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が、中部農林は低かった。



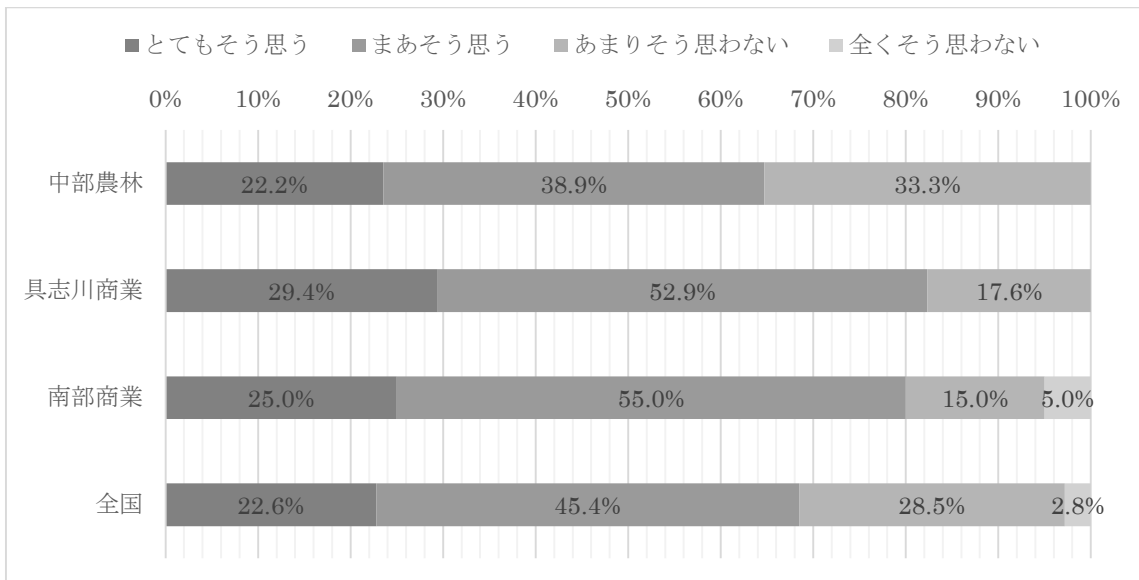
社会に役立つ仕事をしたい

「できるだけ高い地位につきたい」について、「とてもそう思う」が、南部商業は高かった。



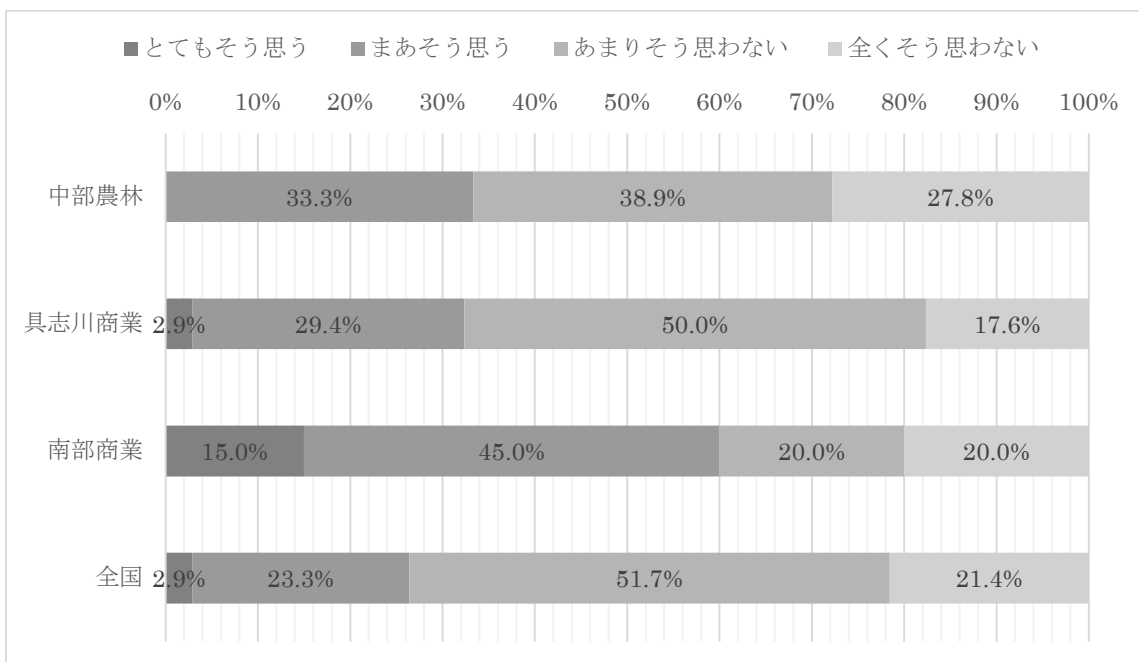
できるだけ高い地位につきたい

「よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」は、具志川商業、南部商業が高かった。



よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい

「望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ」について、「とてもそう思う」「まあそう思う」が、南部商業が非常に高く全国（26.2%）の2.3倍だった。



望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ

5.1.10 仕事に関する意識・考えの12項目について、「とてもそう思う」と回答した割合をまとめた。

中部農林は、「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」「仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい」が高かった。  
 南部商業は、「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」「周りに反対されても自分がやりたいことをしたい」「社会に役立つ仕事をしたい」が高かった。  
 具志川商業は、「暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい」「社会に役立つ仕事をしたい」が高かった。  
 商業系高校は、特に「やりたいことに困難があっても挑戦したい」「若いうちはいろいろな仕事を体験したい」「自分の会社や店を作りたい」が高かった。  
 ※全国データは、男女比調整データ



仕事に関する意識・考えで「とてもそう思う」と回答した割合

「キャリア講座」アンケート

今後の授業をよりよいものにするため、本日の授業(キャリア講座)についてアンケートにご協力ください。

このアンケートは名前や学籍(出席)番号は書きません。また、アンケートの回答は、皆さんの学校での成績や評価に一切影響しません。



1.今日の授業の内容は、理解できましたか？

5	4	3	2	1
よく理解できた	だいたい理解できた	どちらともいえない	あまり理解できなかった	理解できなかった

2.今日の授業の内容は、これから役に立つと思いますか？

5	4	3	2	1
大変役に立つ	まあ役に立つ	どちらともいえない	あまり役に立たない	役に立たない

3.あなたは将来希望する職業を決めていますか。

5	4	3	2	1
はっきり決めている	おおよそ決めている	考えているがまだ決めていない	まだ考えていない	将来仕事に就きたいとは思わない

4.授業を受けて、「はじめて知ったこと、はじめて聞いたこと」を記入してください。

---



---



---



---

5.授業を受けて「特に印象に残ったこと、授業を受けてよかったこと」を記入してください。

---



---



---



---

6.今後、授業で取り上げて欲しい仕事内容や職業に必要なことなどがあれば自由に書いてください。

例)医療や福祉の仕事について知りたい、世の中にどんな仕事があるのか知りたい、自分がどんな仕事に向いているのかを知りたい、電話が苦手です……

---



---



---

アンケートのご協力ありがとうございました。

「高校生の職業意識に関する調査」について

この調査は、みなさんの職業意識が1年間でどのように変化したかを把握するとともに、全国調査と比較することで今後のキャリア教育の研究や参考にするを目的としています。

・調査データは厳重に保管され、統計的に処理されます。個人のプライバシーの保護については十分配慮しあなたにご迷惑をおかけすることはありません。またキャリア教育の研究や参考の目的以外には使用しません。

・学籍番号を書いてください。個人の特定はせず、職業意識の変化を確認することのみに利用します。

・答えたくないと思ったものは○をつけなくてもかまいません。また、提出したくないと思った場合は提出しなくてもかまいません。回答内容や、また、回答や提出をしなくても学校での成績や評価には一切影響しません。

・アンケート調査への回答や用紙の提出によって、キャリア教育の研究や参考への利用協力に同意したとみなさせていただきます。

問1 あなたの学籍(出席)番号を書いてください。名前は書きません。

問2 あなたの性別に○をつけてください。(○は1つ)

男                      女                      答えたくない

問3 将来の職業について保護者との程度話し合っていますか。(○は1つ)

- 1 よく話し合っている                      2 ときどき話し合っている  
3 あまり話し合っていない                      4 ほとんど話し合っていない

問4 将来希望する職業を決めていますか(○は1つ)

- 1 はっきり決めている                      2 おおよそ決めている  
3 考えているがまだ決めていない                      4 まだ考えていない  
5 将来仕事に就きたいとは思わない

問5 あなたにとって「仕事」や「働くこと」は、どんなイメージですか？以下のそれぞれについて、あてはまるものの数字に○をつけてください。(○は1つずつ)

	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
a.楽しい	1	2	3	4
b.苦しい	1	2	3	4
c.やりがいがある	1	2	3	4
d.つまらない	1	2	3	4
e.生活のため	1	2	3	4
f.社会人としての義務	1	2	3	4

問6 職業を選ぶにあたって、次のことをどのぐらい重要視しますか。それぞれにつき、あてはまるものに○をつけてください。(○は1つずつ)

	とても重要	やや重要	あまり重要でない	全く重要でない
a.収入	1	2	3	4
b.社会的地位	1	2	3	4
c.安定性	1	2	3	4
d.仕事の内容ややり方を自分で決められる	1	2	3	4
e.自分の興味や好みに合っていること	1	2	3	4
f.働く時間を自由に決めること	1	2	3	4
g.能力を発揮できること	1	2	3	4
h.社会や人の役に立つこと	1	2	3	4
i.働きやすいこと(仕事の環境)	1	2	3	4
j.新しいことにチャレンジできること	1	2	3	4
k.勤務地の場所	1	2	3	4

問7 あなたは将来、どこで働きたいと思いますか。あてはまるもの一つだけ○をつけてください。

- 1 今住んでいる市町村                      2 県内の市町村  
3 県外(国内)                                  3 海外

問8 次にあげる仕事に関することで、あなたの考えに近いものはどれですか。あてはまるものに○をつけてください。(○は一つずつ)

	とても そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	全く そう思わない
a.やりたいことに困難があっても挑戦してみたい	1	2	3	4
b.若いうちはいろいろな仕事を体験したい	1	2	3	4
c.暮らしていける収入があればのんびり暮らしたい	1	2	3	4
d.仕事よりも自分の趣味や自由な時間を大切にしたい	1	2	3	4
e.自分の会社や店を作りたい	1	2	3	4
f.学歴より技術や技能を身につけることが大事だ	1	2	3	4
g.周りに反対されても自分がやりたいことをしたい	1	2	3	4
h.地元で仕事や生活をしたい	1	2	3	4
i.社会に役に立つ仕事をしたい	1	2	3	4
j.できるだけ高い地位につきたい	1	2	3	4
k.よりよい職場があれば積極的に転職した方がよい	1	2	3	4
l.望む仕事につけなくても、がまんして働くべきだ	1	2	3	4

ご協力ありがとうございました。

質問項目は、独立行政法人 国立青少年教育振興機構

「高校生の進路と職業意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較-(令和5年6月)」より引用させていただきました

国立青少年教育振興機構 所蔵資料等検索サービスより「高校生の進路と職業意識に関する調査」で検索できます。

<http://www.niye.go.jp/research/jyouthcenter/>

<本アンケートの問い合わせ先>

調査研究責任者: 学校法人 KBC 学園 学園本部 地域創生室 仲宗根 真 TEL:098-941-3159

文部科学省事業 令和5年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」	
第1回 プログラム検討委員会 議事録	
開催日時	2023年8月25日(金) 15:00~17:00
会場並びに開催方法	沖縄ペットワールド専門学校 7階ホール (一部、ZOOM 利用によるリモート方式)
出席者	<p>(プログラム検討委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県立中部農林高等学校 教諭 渡真利 学</li> <li>・学校法人シモソノ学園 国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校 募集広報部 部長 吉川 鉄平</li> <li>・学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 副校長 吉田 剛 事務局長 仲松 謙 就職課主任 崎山 孝司 教務主任 儀間 秀人 教務 永井 洋美</li> <li>・ペットメディカルセンター エイル 喜納 保 (事務スタッフ)</li> <li>・学校法人KBC学園 地域創生室 伊禮 嘉本 東 知範 (教材制作)</li> <li>・株式会社 グローバル専門人材開発ラボ 開発マネージャー 広原 敬幸 (議事録作成)</li> <li>・学校法人KBC学園 地域創生室 伊禮 嘉本</li> </ul>
議題	<p>議 事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>議題1 令和5年度事業計画説明</li> <li>議題2 令和5年度実証授業、開発教材について</li> <li>議題3 令和5年度プログラム評価について</li> </ul>
配布資料	<p>配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料① プログラム検討委員名簿</li> <li>資料② 令和5年度事業計画書</li> <li>資料③ 熱帯資源科 実証授業 (予定)</li> <li>資料④ 令和5年プログラム評価概要と評価例</li> </ul>
会議概要	伊禮よりスケジュール、配布資料の確認後、吉田が挨拶。議題1にて伊禮より令和5年度事業計画説明を行う。議題2にて伊禮より実証授業、開発教材について、議題3で広原より令和5年プログラム評価について説明した。最後に委員の方々より感想を承り、今後の予定を確認して終了。



目次	<p><b>議題 1：令和5年度事業計画説明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊禮より資料②を使い、今年度の事業計画を説明</li> </ul> <p><b>質疑・応答等</b></p> <p>(仲松委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KPI のところで卒業後3年定着率が81%、最終的に90%以上という目標を立てているが、離職の理由も踏まえた上で出しているのか？ 離れたくなくても個々の諸事情があって離れていく人もいると思う。この辺りをどう考えているのか？</li> </ul> <p>(伊禮)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・転職先が同じ動物業界であれば「離職」というカウントにはしない。分野が異なる他業種への転職をどうにかしていきたいと思っている。最終的に「90%以上」という数字を目指していきたいという希望を込めている。</li> <li>・具体的にどうすれば実現できるかは、今の段階では進めながらだと思う。業界が就業できる環境に変わっていくことがこちらの理想であり、企業の方々に協力して頂くことなのかなとも思う。</li> <li>・就業の改善など就業できる環境づくりが企業に広がることで定着に繋がると思うので、私たちから発信していかなければならない。これは誰かがやらなければならない。卒業生に対し、できる限り働き続けられる環境にすることが願いである。</li> </ul> <p>(仲松)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人ひとりの理由もあり離職してしまうことはしょうがないと思う。女性が多い職場なので結婚や出産などもある。人間に対応する看護師の場合、資格を持った人の再就職を支援するシステムが携帯のアプリでもあったりする。</li> <li>・あえて離職という言葉を使うと、離職の理由をしっかりと踏まえた上でこの数字を出した方が良いと思う。ただ離れるだけではなく、働きやすい環境を作っていくことが最終的な目的だと思う。</li> </ul> <p>(永井委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所としても離職理由は知りたいと思う。退職の理由に対し、現場の感覚としては給与や福利厚生でないとしたら人間関係だと思う。それに対する現場のトランス、体制というのが現代の子どもたちがどのくらいの負荷にまで耐えられるか事業所の立場として考えないといけない。これは私たちの世代とだいぶ違っている。例えば現場として、リーダー研修や新人研修などがそれにフィードバックされるべきだと思う。また勉強と少し離れるが学校もそれに耐えうる指導をしないといけない。</li> <li>・人間性教育は本校でも取り組んでおり、その連携は吉田委員、仲松委員の昨年実施した授業内容につながり、盛り込めると思う。</li> </ul> <p>(吉納委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・30年ほど中縄市で動物病院をやっているが、後継者の問題から事業と人事を継続したまま昨年の12月から大阪にある企業の子会社となり働きやすくなった。</li> <li>・以前も株式会社ではあったが、業界自体の中身は未完成な部分も多い。過去の法人でも福利厚生の部分で、社会保険、基本給の設定に対する在り方、働き方など努力はしていた。8割が女性なので結婚、出産が多い。その中で彼女たちが子育てしながら働けるよう一緒に考えながら進めていった。離職の理由は永井委員からあったように多くが人間関係である。結婚や出産といった理由で辞めることは今のところほとんど感じない。</li> </ul>
----	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係の問題は一定の職員数になると必ず出てくる。企業として、理解させながらそこに至る経緯、原因をすべて確認して話し合いによる解決の場をつくる環境に努めている。</li> <li>・3年定着率に関しては企業においても努力しないといけないところがあり、このような場でも発言していく必要があると思う。前にはなかったが、ハラスメントに対する通報窓口も開設されている。</li> </ul> <p><b>議題2：令和5年度実証授業、開発教材について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料③とHPに公開されている教材を使い伊禮が説明 (伊禮)</li> <li>・渡真利委員と意見交換を行った結果、12月8日にキャリア教育の動画教材を利用した授業がある。今回のプログラムでは授業用の動画教材を制作しているので、対面による授業を実施してそれを動画教材として制作したほうが効果的であろうということになった。</li> <li>・1年生に対しては対面による授業が効果的であろうということで2年生対象の授業を考えた際、キャリア教育と職業講話の内容を織り交ぜた動画教材を2本製作。渡真利委員とも相談して進めていきたいと考えている。</li> </ul> <p><u>昨年の授業担当者と中部農林高校の振り返り</u></p> <p>(吉田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの業界でも人と接することは必ずある。動物の好きな子はおとなしく、コミュニケーションが苦手な子が多かったりする。逆にすごく高い子もいるのでかけ離れている印象もある。自身もIT系の学校にいたがここもコミュニケーションの苦手な子が多く、その頃からコミュニケーションの重要性を高めるとヒューマンスキルの授業を実施してきた。</li> <li>・体験を通して、気づくという授業を実施したが、中部農林高校の生徒は本当に優秀で熱心であった。熱い授業を体験してもらい多くの気づきもあったと思う。今年も入学して半年の生徒を対象にコミュニケーションの必要性に関する授業を行う。良好な人間関係は日々のコミュニケーションから生まれると思うのでこういった授業を通じて動機づけたい。</li> </ul> <p>(仲松)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めに「自分が何をしたいのか」「その分野がどういったものなのか」をしっかりと理解した上で選択する。考える機会が早いほど情報収集もたくさんできると思う。イメージだけで就職してしまいミスマッチが生じることは高校生、学生、企業においてお互いが不幸で大変な思いをしてしまうので、まずはしっかりと職業を理解できる機会があっても良いと思う。</li> <li>・吉田委員からあったように中部農林高校の生徒はかなり熱心に聞いてくれた。沖縄の子は質疑応答でも質問が挙がりにくいけど、今回は授業が終了したあとにも個別に質問があった。情報が欲しいという思いをすごく感じた。今年は昨年使用した教材に喜納委員や永井委員の意見も少し踏まえて作成したいと思う。</li> </ul> <p>(儀間委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロを目指す専門学生と動物のことが好きで入学してきた高校生は教え方を変えないといけないという点を考えながら授業準備を行った。また検定の合格率を上げることが一番大事ではあるが、それは教科書にも載っており自分でなくてもよいと思うので自身の経験や知識、専門学校教員による授業も知ってもらいたいという点から教科書を越えた展開を意識して授業を行った。</li> </ul>
--	---

	<p>・生徒も優秀でリアクションもあり楽しませようという授業が、自分自身が楽しんで出来たところが本当に良かった。今年は1級対策で難しくなるので、楽しさだけではなく厳しい面や細かいところもどんどん教えたい。今後、就職や進学など私たちの授業を通じて考えたところがあってほしいという希望を持って授業を行いたい。</p> <p>(渡真利委員)</p> <p>・いつもと違い、専門学校の教員による授業は緊張感もあり生徒たちの集中力も高かった。質疑応答や積極的に記録を取る様子は主体的に参加していると見て分かった。スライド映像、実際に動物を使った授業などどれも高校現場だけでは準備できないものが多かったので効果的でリアルに感じるところであった。生徒たちからも本当に良かったという声を聞いている。</p> <p>・当初はペットワールド専門学校の校舎で実証授業をする予定であったが、通常の授業時間内で実施したほうが良いので中部農林高校で行うこととなった。生徒たちからはペットワールド専門学校の校舎で行いたいという要望が高い。しかし土日での実施などは制約も多いため難しいと思いつつも効果を上げるためになるべく生徒の要望には応えてあげたい。</p> <p>・昨年授業を受けた1年生にとって第2回目のステージとなるので、より高い効果が期待される。また生徒たちも楽しみに待っている。授業が始まる前からそういう姿勢が導入されていることで、いい結果になることが期待される。まだ生徒たちに授業内容は開示していないが、周知した際にぐっと気持ちが高まると思う。</p> <p>・仕事に対する考え方、これから動物に関わる職業に就くという意識、こういった部分を大きく叶えてくれる結果になっている。今年のさらなるステップに期待し、生徒たちにも意識づけしていきたい。</p> <p>(吉川委員)</p> <p>・さまざまな分析結果、動物業界の本当の部分が分かってしまうところもありドキドキしてしまう。結果が楽しみである反面、逆に怖いと思う部分もすぐあると思った。</p> <p>・卒業後の定着率については動物業界において一番大きな問題である共通認識であると感じた。ペットワールド専門学校では定着率が出せていることがすごい。本校ではなかなか調査できていないが何かシステムがあるのか？卒業生と連絡が取れないなど管理体制の課題を抱えている。</p> <p>・地域性もあると思うが人間関係に関しては大きな課題であると捉えている。もし本校の生徒が辞めてしまった場合、同じ内容ではないかと感じたところもある。</p> <p>・実証授業が高校生にとっても刺激的で合格率にもつながっていると思うが、高校で実施している試験対策時間においてペットワールド専門学校の教員の授業はどのくらいの割合になっているのか？</p> <p>(吉田)</p> <p>・このプログラムをきっかけにしっかりと調べることにした。就職担当だけでなく、担任も含め直近5年間の定着率を手分けして調査した。1年目は大変であったが2、3年目はシステム化により目標設定を行いデータ化していくことができた。担任が把握しきれていない部分もありまだ課題はあるが1歩前進することができた。</p> <p>(伊禮)</p> <p>・高校での愛玩試験対策時間については、多くのコマを担当しているのではなく、高校と授業実施による効果について話し合いを持ちテーマを決め、限られたコマ数の下で効果のあるものにするか検討しながら実施している。</p> <p><b>議題3：令和5年度プログラム評価について</b></p>
--	--

	<p>・資料④を使い広原が説明。</p> <p><u>感想等</u></p> <p>(吉田)</p> <p>・昨年度からスタートしたプログラムが 1 本化してきている印象。中学、企業までもつながりたすぐ良いプログラムであると思う。中部農林高校以外の高校にも広げ、パイプを太くしていけばさらに良くなると思う。</p> <p>(渡真利)</p> <p>・吉川委員からあった専門学校の教員が受け持つ試験対策のコマ数は、総時間からするとだいぶ少ない。しかし勉強の方法、これを元にした独自の試験対策への取組むことで大きな刺激を受けて良い結果となっている。子どもたちも自身のやり方と、専門学校教員の視点をうまくリンクさせて新しい勉強の手法を取り入れて見直すことを繰り返している。</p> <p>・どうしてもテキストや問題を見てわからないところは我々もアドバイスしているが、専門学校教員の的確なアドバイスや指導方法を見ていると追いついていない技術、知識面もあったのでそのような刺激を次もさらに期待していきたい。</p> <p>・高校教員の我々も専門学校の手法をうまく取り入れて、新しい 2 年生に去年の教材をうまく活用して教えていく取り組みにつなげたい。南部商業や貝志川商業の結果を踏まえて「見える化」することで、中部農林高校の生徒からも見えてくるものがあると思う。私自身がドキドキしている。</p> <p>(喜納)</p> <p>・このプログラムを進めていくことで、企業の立場としてプレッシャーになってきたと感じる。だんだんと職業のイメージ調査結果がでてくると、さらにどうしていくべきか持ち帰って話をしないとイケない。従業員も増えていくなか、業界として責任を感じないとイケない。この結果を真摯に受け止め、学ぶべき環境や 3 年以上働き続けられる環境づくりなどをテーマに出し、今後どうすべきか話し合いながら建設的に進めていきたいと思う。</p> <p>(仲松)</p> <p>・高校生が将来、社会に出て仕事に就く。その時のお手伝いとして学生が「大人になる」という形で職業を選べるようになってほしいと思う。昨年資料等を見直し、さらにブラッシュアップしながらお役に立てたらと思う。</p> <p>(崎山委員)</p> <p>・動物業界以外の就職は毎年、数名の学生がいる。その理由として給与面があり、奨学金の返済や両親の面倒を見ないとイケないとなると、給与が高い IT 系に就職してしまう。そういった意味では業界の就職率は%だけでは表せない個々の事情も考えないとイケないのかも感じる。もちろん目標に対して頑張りたいと思う。</p> <p>・広報課が入学前の高校生に就職や将来像を話してくれているので、入学後のミスマッチは減ってきていると感じる。今後、広報課と就職課の連携も強くしていきたいと思う。</p> <p>(永井)</p> <p>・コロナ禍の数年を乗り越えた高校生のなかでも、中部農林高校の生徒は明るいイメージがある。しかし入学してくる学生を見ていると「個」でありたがる。職業に対して自分のためと考えている子が、ほとんどではないかと思う。結果として何か壁にぶつかった時に「もういい」と辞めてしまう。</p>
--	--

	<p>が、どの卒後教育セミナーも小さく生んで大きく育てるように取り組んでいるので、参加者が少ない場合でもマンツーマンで実施していこうと現場の職員が頑張ってくれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一番大事なのは「告知」である。卒業生へどのように情報を届けるか。当校では SNS くらいでは行えていないので、何かよい方法を教えて頂ければと思う。</li> <li>・資格と連動させることで意識が変わってくるという点が今後も非常に楽しみ。このような生徒が多く入学していることにより、学校の中身や教育活動が変わってくる点も含めて今後の展開が楽しみ。</li> </ul> <p>(翁長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果から子どもたちの変容、渡真利委員より生徒たちの良い変化を聞いて、非常によい事業だと実感している。</li> <li>・アンケートから「電話対応」や「話し方」をさらに学びたいという結果が出ていた。最近は携帯電話により個々人で友達としか会話をしない。固定電話が無い家庭もあり、友達の両親など目上の人とやりとりをする経験が一切ないという前提がある。</li> <li>・最近、当然知っている前提で「ここまで伝えなければいけないのか」「こういった認識がないのか」という経験があった。人材の育成という点で時代が変容していくなか、大変であると思うが良い事業なのでできることを一緒に出来ればと思う。</li> <li>・社会人として働くことのイメージ調査で「義務」と捉えている生徒が減少している結果があった。これがどういった意味なのか考えてしまう。義務というと押し付けられている感じはするが、基本的に仕事とは「社会と約束をすること」と捉えて能動的に自分からどんどん仕事を選び、自己実現させていく子がこの事業で育てていければと思っている。</li> </ul> <p>・今後の予定について (伊禮)</p> <p>令和6年度プログラム検討委員会日程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 令和6年 7月26日(金)</li> <li>第2回 令和6年 11月29日(金)</li> <li>第3回 令和7年 2月 7日(金)</li> </ul> <p>時間：15：00～17：00 会場：沖縄ベトワールド専門学校</p> <p>以上 委員会を終了する。</p>
--	---

Zoom を活用した会議と会場の様子



文部科学省事業 令和5年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」	
第2回 プログラム検討委員会 議事録	
開催日時	2023年11月24日(金) 15:00~17:00
会場並びに 開催方法	沖縄ペットワールド専門学校 7階ホール (一部、ZOOM利用によるリモート方式)
出席者	<p>(プログラム検討委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県教育庁 県立学校教育課 産業教育班 指導主事 平良 一朗</li> <li>・沖縄県立中部農林高等学校 教諭 渡真利 学</li> <li>・学校法人シモソノ学園 国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校 募集広報部 部長 吉川 鉄平</li> <li>・学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 副校長 吉田 剛 事務局長 仲松 謙 就職課主任 崎山 孝司 教務主任 儀間 秀人 教務主任 名護 聡美 教務 永井 洋美</li> <li>・ペットメディカルセンター エイル 喜納 保</li> <li>・公益財団法人 沖縄こどもの国 動物みらい課 課長 翁長 朝</li> </ul> <p>(事務スタッフ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人KBC学園 地域創生室 伊禮 嘉本 東 知範</li> </ul> <p>(教材制作)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社 穴吹カレッジサービス 広原 敬幸</li> </ul> <p>(議事録作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校法人KBC学園 地域創生室 伊禮 嘉本</li> </ul>
議題	<p>議 事</p> <p>議題1 令和5年度実証授業について</p> <p>議題2 令和6年度の取組み予定</p>
配布資料	<p>配布資料</p> <p>資料① 熱帯資源科 実証授業</p> <p>資料② 実証授業 報告書(概略版)</p> <p>資料③ 2023年度高校生の職業意識調査(3高校プログラム前) 報告書</p> <p>資料④ 令和5年度動物愛護週間行事日程</p> <p>資料⑤ R5年度文科省事業 実証授業(キャリア教育講座)</p>

会議概要	伊禮よりスケジュール、配布資料を確認。吉田の挨拶後、参加委員より一言頂戴した。議題 1 で伊禮より実証授業、渡真利委員より、愛玩動物飼養管理士試験対策授業の感想、教材担当の広原氏よりキャリア教育の授業と職業意識調査の報告と渡真利委員の感想を伺った。議題 2 にて伊禮より次年度の取組み予定（地域社会に貢献できるフィールドワークメンバーとして参画）について委員と情報共有。最後に伊禮より今後の予定を確認して終了。
目次	<p><b>議題 1：令和 5 年度実証授業について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料①を使い、伊禮が説明。資料②～③を使い広原氏より調査等を報告。</li> </ul> <p><b>感想等</b> (顧問委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中部農林高校から授業してほしい分野について意見をもらい、永井委員と新崎の 3 名で 1 級試験の対策を担当した。今回の対象が昨年 2 級対策を行った生徒たちだったのでやりやすかった。</li> <li>・授業内容が 2 級よりも難しくなり病気に関係する部分であったので、いかに伝えていかに授業の中で考えながら準備していった。普段は就職先を動物病院と決めた学生に授業を行うのでそこまで難しいことはないが、中部農林高校の生徒はどの分野に進学、就職するのか分からないので専門的部分は抑えつつ、まずは教科書に載っている部分を最大に教え資格取得の意味や重要性を伝えるようにすることを 1 級では意識した。</li> <li>・自身の課題としては「なぜ資格を取るのか」「取ることでどうなるか」といった部分が対策の授業に行きがちとなり、生徒たちに届いていなかったと感じた。永井委員の授業ではこれらが本当によく伝えられていたと聞いたので、もっと具体的に授業へ取り込めることができたらよかった。受講した生徒がどう感じたか、細かく聞いていないので渡真利委員より伺えればと思う。</li> </ul> <p>(永井委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・犬と猫の栄養学、病気の分野で感覚器と脳神経をまとめた。それぞれ 45 分 2 限の授業にまとめるのは大変な作業だった。1 番のプレッシャーはパワーポイントでの教材づくりだった。何を省き、何をどのように楽しく伝えるか、楽しくなければ聴いていても入ってこない。私たちが実証授業で使用したものを広原氏が素晴らしい編集してくれた。編集もやりにくかったのではと思った。</li> <li>・私たちの伝えたいことは授業の専門的な内容もちろんであるが、その部分は教科書を読めば終わる。その部分をどれだけ膨らませ、興味を持ってもらうかというところに注力したかという思いである。それがどれだけ高校生に伝わったか、もちろん愛玩動物飼養管理士の実習内容はコンテンツとして入れたが、顧問委員と同様に今から動物を対象として仕事することと一緒に大事なものは何かということが 1 つひとつ話の中で伝わればと思う。高校生からの評価は聞いてみたい。</li> </ul> <p>(広原氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方の素晴らしい動画を見せてもらい、勉強させてもらいながら楽しく制作することができたので苦労は全然していない。気を付けていたことは観察をすることが非常に大事であることをわかってもらえるように見た目はどう変わるか、どのようなところを見るのがポイントなのかといった点を中心に教材を作成している。これは中部農林高校の生徒たちが普段からたくさんの研修に触れて育っていると思い、高校生活にもプラスになればというところを考えて作成している。次回の委員会で少しご紹介できればと思っている。先生方お疲れ様でした。</li> </ul>

	<p>(渡真利委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒たちの反応ですが授業中は緊張感があり、先生たちの冗談に反応も悪くなってしまった。実証授業後はそれなりに効果があった。</li> <li>・我々、教員も教えるための専門的知識が乏しい中で必死に教えている状況。専門学校教員が教える内容がよりプロフェッショナルな教材で、実証授業後は質問内容の質が圧倒的に違う。これまで以上に中身を突いてくる質問がくるので、我々ももっと勉強しないと伝えきれない。</li> <li>・生徒たちが限られた時間の中で教材を自分で開き勉強する際の集中力がとても高い。明後日の試験本番に向け、自身の教材にメモする文字数、まとめ方などを見るとこれまでの生徒以上に合格に向けた意識が高まっていると感じる。</li> <li>・追及してこういう気持ちが高まれば、この教材がパワーポイントでも十分であるが実際に動物などと触れあいながら学びたいという意見が昨年同様今年も出ていた。全ての授業を中部農林高校で行ったが、これに関しては十分学ぶことができたと言っている。高校内での実施でも十分だと思うが、実物を見た授業が少しでも取り入れることができればさらに良いという意見もあったことも今日の委員会で伝えることを生徒たちと話をしている。</li> <li>・明後日の試験に関し、昨年度の結果が良かっただけにあまりプレッシャーをかけることができなかった。それでも生徒たちの意識は高まっているので、良い結果であると期待している。</li> </ul> <p>(仲松委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業講話の授業として動物に関わる仕事がどのようなものか、資格は何かが必要かなどを話した。昨年も同様の話をしているが、動物に関わらず「働く」ということがどういことなのかを投げかけて働く意義、目的は人それぞれあるがどれも間違いなく、正解だという話をした後に動物に関わる仕事の紹介をした。最後にすべての動物に関わる仕事として共通して大切なことは観察すること、動物の状況に合わせて仕事を行っていく必要があるという点を話した。</li> <li>・昨年と異なる点は、初めに働く目的について話をしたので、最後に動物に関わる仕事だけではなく全ての仕事に関してコミュニケーションが重要になることを追加した。人との関わりはどうしても避けては通れないことや、働く環境を自分で良くしていこうという意識を持っておく必要がある話を前回の委員会で触れてもらいたいという意見があったので、スライド 1 枚ではあるが付け加えた。</li> <li>・反省点としてもう少し生徒が参加できるような授業にしても良かったと思った。2 時間、私がまぼ喋ってしまったのでもう少し動物に関わる仕事にフォーカスを絞り、グループワークや個人で考える時間にするなど考えないといけない。生徒が発言できる、自身で考えるといったワーク的なものを取り入れても良かったと思った。</li> </ul> <p>(吉田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に引き続き、コミュニケーションの重要性について 1 年生 40 名を対象に実施した。仲松委員より話を聞き、ちょうどタイミングでどのような仕事に就いても必ず人と関わることがあるという話をさせてもらった。動物系だから人と関わらないというわけではなく、飼い主や患者といった方と関わることが必ずあるなかでコミュニケーションは大事だということと、話すだけではなく「聞く力」も非常に大事である話を最初にさせてもらった。</li> <li>・ゲームを通じた体験学習では自分のことを知る「自己理解」と、相手の話を聞き理解してまとめる「謎の宝島」というゲームを使った他者理解の体験学習を実施した。入学したばかりの 1 年生でやんちゃな生徒が多いと思っていたが真面目に取り組む生徒たちで、こちらも助けられた印象を受けた。また時間通りに進めることができたことが非常に良かった。前回</li> </ul>
--	--



	<p>のアンケート同様、気づくところはしっかり気づくことができたと感じた。本当に中部農林高校の生徒は優秀で助けられた。</p> <p>(渡真利)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年は多くの生徒から質問が出たが、今回はなかなか出なかったので私も少し焦った。なぜ質問が無かったか聞くと、聞きたいことは準備していたが手を挙げられない生徒が多い。昨年とパターンが違う生徒たちということで受け止めながらも、ここで遠慮してチャンスを逃すか、少し恥ずかしいかもしれないが質問して次に繋げるかで大分違うことを生徒たちと反省会をした。今後はチャンスがあれば必ず質問するということだったので期待したい。</li> <li>・仲松委員の授業では最後に発表の場を設けたらよかった。質問はできなくても何が学んだことを発表することはできたのではと思った。吉田委員の授業では面白いグループ作りで、派閥ができていながら普段会話の無いメンバーが混ざっていた状況でとても結果が楽しみ。良い結果だったグループとそうでないグループの違いを見ると、リーダーとなった生徒が「意味がわからない」とベンを置き、時間内にゴールに導くことができなかつたがサポート役が浮上して、もう1度ちゃんと確認しようと支えてくれるメンバーにより答えを導き出していた。こういった点は私の考察として生徒には伝えたい。この生徒らは出席状況やその他チームワークなどグループの輪から離れていく現状がある。何かしら答えに導けるグループは、その要素があったということ伝えていきたいと思った。最後にゴールに導く決め手は何であったかを発表させたいということだったが、時間切れで出来なかった。これは言わせたかった。今後は時間内で出来るよう、チームワークを導いていきたい。</li> </ul> <p><b>議題2：令和6年度取組み予定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料④～⑤を使い、伊禮が説明。</li> </ul> <p>(吉川委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中部農林高校からどの程度、沖縄ペットワールド専門学校に入学してくるかはあるが、高校で愛玩動物の1級を取得する子はエリートというイメージがある。そのような子と、何の資格を持っていない子の「住み分け」をどうするのか、この点にすぐ興味がある。このような学生が今、話に合った地域社会との連携などでリーダーシップをとる子にあたるのかと思う。</li> <li>・現在、私たちの学校で東京校が「国際★どうぶつ祭り」という文化祭の期間である。実はこのどうぶつ祭りがすごい地域貢献になっている。文化祭イベントとはちょっと環境が異なるが、東京校は世田谷区にあり近隣に動物園などはあまり無い。コロナ禍により明日どうなるかわからないが、自転車で行きやすい、幼稚園生や小学生も並ぶ「動物とのふれあい」でこの点が1番。地域貢献、社会貢献のイベントとして地域の学童との連携にもなっている。先週は大宮校で行い、高校生が120名ほど参加した。地域、保護者等をすべて含めると、2日間で1000名ほどだった。</li> <li>・小中学校とも連携しており、案内させてもらうことで学校を見てもらうのと同時に動物の仕事や普段学生たちが学んでいる内容を伝え、その中に動物とのふれあいがある。動物がいるので喫茶やカフェなどはないが、例えば「ベタ釣り」では普通に釣れないので1匹ずつパッキングしてヨーヨー釣りをしていた。子どもたちもすごく喜び、なぜ生き物が手渡しできるのかという点をちゃんと伝えられていたことに感心した。</li> <li>・こういう学生たちが楽しみながら行えることや、小中学生の年齢で飼育動物がいるということは大きな興味を持ってもらえる。先ほど渡真利委員からもあったが、動物に関して勉強したくなるのは低い年代からだと思う。</li> </ul>
--	---

	<p>・学生たちは私たちのような大人と話をコミュニケーションとなると、いきなりは難しいと思うが子どもであれば知らなくても話がしやすいだろうし、これが動物園の「ふれあいコーナー」などでいきてくるのかと思う。私たちの学校は結構、地域の学校などつながりが多いと思っているので1つ参考になれば良いなと思ひまして話させてもらった。</p> <p>(橋間)</p> <p>・先ほど吉川委員が話していたイベントのメインは地域貢献で学生や保護者よりも、外部の方がメインになるのか？</p> <p>(吉川)</p> <p>・私と教務部長で考えてスタートした。始めは生徒募集も視野に入れていた。普通の説明会や体験ではつまらないという風になり、文化祭みたいな感じで見てもらう機会になるよう試行錯誤でやり始めた。今では説明会も完全になくなった。</p> <p>・高校 2 年生に来てもらえるように、参加すると来年は特典があるというものは残っている。入試の終わった生徒もくることが、だんだんと地域の方が増えている。今は自立支援センターや幼稚園や保育園が学校単位で見に来るイベントになっている。昨日、東京校は準備日で休みだったが 2 年生は登校して準備。今日は両校の 1 年生が見学している。来年に向け自分たちがどのようにイベントを作っていくかを考える。先週は東京校が大宮校の見学に来ていた。今週は大宮校が東京校の見学をしている。パフォーマンスを見せる学科にとってリハーサルにもなる。</p> <p>・土日は保護者や地域の方で在校生は基本的に休み。大分様変わりしているが本当に「見せる場」となると特に小さい子が楽しんでくれる。普段なかなか入ることのない動物の専門学校は何をやっているのかと思われがちなので、初めはオープンにすることで動物嫌いの方にも少しずつ理解してもらえようになりたいという趣旨だった。今では学生たちが楽しみ、自分たちを見せる場となっているので大分変わってきたと思う。</p> <p>(橋間)</p> <p>・我が校でも 12 月にアニマルフェスタという学園祭を行っている。スタートしてすぐコロナ禍になってしまったので学生だけで行っていたが、今年から緩和しているので外部の方もとなったがノウハウがなかったのでまずは保護者を呼ぶことにした。やはり外部の方を呼ぶと、校舎の広さからキャパ的に不安があるので目的として外部をメインとする場合は別のイベントとして分けた方が良いのかとも吉川委員の意見を聞いて感じた。</p> <p>(吉川)</p> <p>・スタートした時は、行政をお願いして地域の掲示板にポスターを貼らせてもらったり、世田谷区の広報誌で告知してもらった。最終的に小中学校と連携してポスターを貼らせてもらうなどした。そういったところから動物のイベントがあるという反響が大きかった。きちんと予算をもらって、小さな子に全フロアを回ってもらうためスタンプラリーを実施して駄菓子もらえるなどした。緑日に近いイメージかもしれない。</p> <p>・私の立場からではあるがこのような取り組みをして認知されるようになり、実に長い話にはなるが小学校の時、イベントに参加した子から願書が出ている。</p> <p>・学年を分けて実施しているので 1 年生は不在で 2 年生がしっかりと見せてくれる。そうすると学校の人数が半分になるのでタイムスケジュールを出して地域や保護者の方に入ってもらえる。</p> <p>(平良委員)</p> <p>・この件に関し、とても良い取り組みだと思った。やはり先生や学校主体でやるより、成長して次のステップに行くということで学生に考えさせる活動の方が良いかと。例えば地域の課題を考えさせ、その課題を解決するために何か活動ができない</p>
--	--

	<p>・少しショックだったことは中部農林高校のアンケートで地域社会への貢献という点が無かったところである。自分の安定やキャリア計画を教え、しっかりと自分自身でキャリア計画を立てていくことで安定につながると思う。さらにもう一段階上げ、何のために仕事をして、この仕事することでどのような社会になるのか、社会の一員として社会貢献の1つとしてやっているという取り組みになると大きくなって良い。そういった点を含められるといいかと思う。</p> <p>(委員長)</p> <p>・動物愛護週間に合わせて、沖縄こどもの国でも関連のイベントを実施している。沖縄ペットワールド専門学校の学生にも参加してもらっている。コロナ禍で中止もあったが、あいったイベントをもう少し推し進めても良いかもしれない。私たちも学生たちに参加してもらいたいし、学生たちが何かしていると来てくれる子どもたちも食いつきが違う。大人より学生たちから受け取るものは、また違う効果を生む。</p> <p>・例えば、以前の「ふれあい広場」が「どうぶつ広場」にリニューアルした。モルモットやうさぎなど小動物とふれあえる場所で、リニューアル前は子どもたちがワッと集まって自由に触っていた。現在は完全予約として人数を制限し、飼育員が動物の触り方や接し方など15分のプログラムを組んで教えている。このプログラムを学生たちにやってもらい、子どもたちに動物を通じてどのようなメッセージを伝えていかなどを考えてもらっても良い。学生たちが活躍する場、活動するフィールドの場として、沖縄こどもの国をぜひ活用してもらえればと思う。</p> <p>・今後の予定について (伊禮)</p> <p>①北部農林高校の実証授業 (キャリア教育講座) 12月13日 (水)</p> <p>②県内中学校職業体験イベント (動物とのふれあいなど)</p> <p>11/27 国頭中学校 11/29 西原中学校</p> <p>11/30 神森中学校 12/1 神森中学校</p> <p>③第3回 プログラム検討委員会 (予定)</p> <p>日程: 2024年1月26日 (金) 15:00~17:00</p> <p>会場: 沖縄ペットワールド専門学校</p> <p>以上 委員会を終了する。</p>
--	---

Zoom を活用した会議と会場の様子



文部科学省事業 令和5年度「専修学校による地域産業中核人材養成事業」	
第3回 プログラム検討委員会 議事録	
開催日時	2024年1月26日(金) 15:00~17:00
会場並びに 開催方法	沖縄ペットワールド専門学校 7階ホール (一部、ZOOM 利用によるリモート方式)
出席者	<p>(プログラム検討委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県立中部農林高等学校 教諭 渡真利 学</li> <li>・学校法人シモソノ学園 国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校 募集広報部 部長 吉川 鉄平</li> <li>・学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校 副校長 吉田 剛 事務局長 仲松 謙 教務主任 儀間 秀人 教務主任 山城正仁 教務主任 名護 聡美 教務 永井 洋美</li> <li>・公益財団法人 沖縄こどもの国 動物みらい課 課長 翁長 朝 (事務スタッフ)</li> <li>・学校法人KBC学園 地域創生室 伊禮 嘉本 東 知範 (教材制作)</li> <li>・株式会社 グローバル専門人材開発ラボ 開発マネージャー 広原 敬幸 (議事録作成)</li> <li>・学校法人KBC学園 地域創生室 伊禮 嘉本</li> </ul>
議題	<p>議 事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>議題1 実証授業報告、職業意識調査報告</li> <li>議題2 令和5年度 事業報告について</li> <li>議題3 令和6年度 事業計画について</li> </ul>
配布資料	<p>配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料① 実証授業報告書</li> <li>資料② 高校生の職業意識に関する調査報告書</li> <li>資料③ 令和5年度実績報告書(高専接続)</li> <li>資料④ 令和6年度事業計画書(高専接続)</li> </ul>
会議概要	伊禮よりスケジュール、配布資料を確認。吉田の挨拶後、議題1で広原より実証授業、高校生の職業意識に関する調査を報告。伊禮より議題2にて令和5年度実績報告(高専接続)を行った。続けて議題3で令和6年度事業計画(高専接続)を行い、委員と意見等を交換。最後に伊禮より今後の予定を確認して終了。

目次	<p><b>議題 1：実証授業報告、職業意識調査報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広原より資料①、②を使い報告</li> </ul> <p><u>感想等</u></p> <p>(渡真利委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「内地で仕事をしたい」という意識が少し高くなっているのを見て、少し視野が広がっているのかと思ったら「地元で働きたい」がダントツに高いものもあって、どちらの気持ちなのか・・・というものがある。県内で働きたいというのは当然あっていいと思うが、より広く視野を広げてほしい。</li> <li>・毎年、留学する生徒がいるが今年はいない。国を変えてでも働きたいという気持ちがあると今後が楽しみである。ある意味このクラスは非常に考えが広い生徒がいることが分かった。今後の進路に活かしていきたい。</li> </ul> <p>(吉川委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の検討委員会で気になったところで、職業を選ぶ際に重視する点で「能力を発揮できる」という項目があった。この項目が商業高校でもの凄く高く、農林高校は低かった。異なっているかもしれないが、このプログラムは職業観と愛玩動物の資格という2本立てという認識がある。商業高校では在学中に簿記や PC など多くの資格を取得する。これらを活かした職業が認知、実感しやすいのではないかと思った。</li> <li>・農林高校で取得できる資格についてどうというわけではなく、ここに愛玩動物の資格に関する取り組みが関係しているのでは。今回二十数%上昇していたという報告があったが生徒たちにとって資格を取り、活かしていくことは「資格＝能力」という考えにつながるのではないかと思った。今後の報告でもきちんと見ていかないといけないと感じた点が前回伝えられなかった。今回追加の報告で数値が上がっていたことを含め、今の取り組みがこれから動物の業界を目指す生徒たちの意識を高める意味でも意義があると感じた。</li> </ul> <p>(広原)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「能力」という点で話があったが、これから伊禮を通じてお伝えしたいと思っていたことがこの点で、例えば具志川商業高校での結果から見ると、能力を重視している生徒は「人に役立つ仕事を重視」「将来の仕事を決めている」「新しいことにチャレンジできる」という点で相関関係が出てきている。そうすると能力を発揮できる以前に、自分にどのような能力があるのかを認知させることが非常に重要なのではと考えている。</li> <li>・中部農林高校でも「自分の能力を発揮できる仕事」と「自分の興味や好みに合っている仕事」という項目に相関関係があった。自分の進路をはっきり決める際、自分の能力がどのくらい分かることが大事なのではという結果が出ている。</li> </ul> <p>(吉田委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広原氏が12月8日に中部農林高校の授業で行った「伝言ゲーム」について、内容を聞かせてほしい。</li> </ul> <p>(広原)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10人ずつ縦に列をつくり先頭の人にある文章を読ませ、後ろの人へ伝えていく。当然、後ろの人の答えはデタラメになる。なぜそのような結果になったか1人ひとり問いかけて気づかせる。私から答えは言わないが、生徒たちは気づいている。何が大事なのか、どのような点に気を付けなければいけないか、7と4は気を付けられないなど生徒から答えが出てくる。なるべく気づかせる発問に気を付けて授業を行った。</li> </ul>
----	--

	<p>(伊禮)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えられたと思って、意外と伝わっていない。だから「メモ」をとることが大事で「キーワード」となる点を生徒たちは気づいていた。メモをとった後からは結果も良くなっていた。生徒たちもとても楽しんでおり、その点が学びに繋がったのではと思った。とても良かったので次年度も実施したいと渡真利委員と話をしている。</li> </ul> <p><b>議題2：令和5年度事業報告について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊禮より資料③を使い説明</li> </ul> <p><b>議題3：令和6年度事業計画について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊禮より資料④を使い説明</li> </ul> <p><b>質疑・応答等</b></p> <p>(翁長委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・18ページの調査分析に新たな取り組みという話で「フィールドワーク」とあったが、どのようなイメージなのか決まっていたら教えてほしい。</li> </ul> <p>(儀間委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県や市、動物園からの依頼でボランティアに参加している。ボランティアを通じフィールドワークという方法で地域に貢献することをこれまで行ってきた。看護専攻ではそこにブースを設置させてもらい、犬の耳掃除や爪切りといった日常でできるケアの指導や、実際にやってあげたりした。</li> <li>・またノミやダニなどを予防する大切さ。沖縄にはフィラリアが1年間いるので予防が大切であることやワクチンに対する啓発などをポスターの制作を通じて実施していた。</li> <li>・飼い主との接客を通じて学生たちの成長が披露できる場でもある。ここ数年はコロナ禍で出来ていないが、次年度は地域に貢献できる環境として実施できればと思う。</li> </ul> <p>(山城委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍以前、飼育専攻では沖縄子どもの国に協力してもらい動物愛護週間の期間内で「スタンプラリー」を実施した。紙芝居を制作し、五か所に学生のグループを配置。動物の生態や食べるものについて子どもたちに説明をして、聞いてくれたらスタンプを押す。各所を回ったら最後に小さなケーキなどをプレゼントしていた。</li> <li>・学生にとって、来園者に責任をもって情報を伝える責任感、子どもたちに対する言葉づかいや接し方などすごく勉強になる。沖縄子どもの国から「このような協力がしてほしい」など要望を聞きながら内容を変えてもよいので次年度からまた一緒にやっていたらと思う。</li> </ul> <p>(名護委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トータルペットケア専攻がこれまで取り組んできた例として、浦添市の公園で芝生広場を借りて「ドックラン」「爪切り」「耳掃除」といったボランティア活動を学生たちが企画。全ての売り上げを募金にあてた。また卒業生の保護者からの依頼で、老人ホームで動物とのふれあいボランティアを学生たちと相談して実施したこともあった。</li> </ul>
--	---

	<p>・山城委員からもあったが、これまで学んできたことを伝えることといった点が現場に出て重要なことだと思う。知識・技術は持っているので、これを人や動物に対して伝えていく仕事になると思う。そういった点で子どもや同年代の高校生だけではなく、お年寄りなど幅広い年齢層と接することができるボランティア活動を今後実施したい。</p> <p>(翁長)</p> <p>・動物園としても、学生が来てくれると盛り上がる。学生たちにとって、より良い学びの場になるようにこれからも一緒にやっていきたい。</p> <p>・インターンシップにもぜひ来てほしい。飼育員も増え、45名ほどいる。6つの班に分かれて中部農林高校の卒業生が班長を務める班もあり、中核を担ってくれている。中部農林高校の現役生にも見に来てもらえればと思う。</p> <p>(伊禮)</p> <p>・沖縄子どもの国で次年度実施の企画は決まっているのか？</p> <p>(翁長)</p> <p>・動物愛護週間に合わせたイベントなど、何かしら行っているので連携はやりやすいと思う。現在、次年度の企画を検討する時期であるので一緒に何ができるか検討させてほしい。</p> <p>(伊禮)</p> <p>・企画する段階から学生たちも参加させてもらい、どのように企画、実施しているのかが目に見えるような形にしたいと思っている。</p> <p>・文科省からも学んだことを活かせるだけでなく、地域貢献にもつながる良い取り組みなので学校をあげてやってもらいたいという話があった。現場や吉田委員とも意見が一致しているので、学生のレベルアップのためにも取り組んでいきたい。</p> <p>(吉田)</p> <p>・中部農林高校から動物愛玩の1級対策を受けた生徒が何人か入学してくる予定。各専攻にいたので、そのメンバーが中心となることがプログラムの理想だと思っている。ボランティア活動でどの部分まで入っていけるかは分からないが、内部でも検討しながら進められればと思っている。</p> <p>(伊禮)</p> <p>・もう1つ、卒業生を対象とした看護とトリマー関係のセミナーを考えている。この点に関して担当者に話をしてもらいたい。</p> <p>(儀間)</p> <p>・これまで看護専攻では、卒業生と現場で働くスタッフを対象にアンケートを実施して年2～3回、講師を招いたセミナーを実施していた。コロナ禍でもリモートを活用して行う機会を作った。次年度も動物業界や卒業生の成長など気になる点を比較して実施したい。</p> <p>・同級生だけではなく同じ業界で働くさまざま卒業生たちが話をできる機会や我々も卒業生の状況が知れる場として対面方式を主にできればと思う。講師はまだ決まっていないので、県内外から検討したい。</p> <p>(名護)</p> <p>・トータルペットケア専攻では大きく分けて2種類を検討。現場で働く卒業生からよく聞く意見として、沖縄では暑さ対策からハサミよりバリカンを使用したカットが多く、現場でハサミを使う機会が少ない。カットの練習をしたいが、なかなか現場で行えないという声がある。また1度現場を離れて再度、戻った際にプランクが心配なので勉強できる場がないかという声</p>
--	---

もある。これらの点を踏まえて卒業生がもっと気軽にカットの練習ができる場を設けてあげたいという話がある。可能であれば今年度2月、3月に合計して3回くらいできればと思い企画を進めている。

- ・もう1つがハサミを使って犬のカットをかわいく仕上げるシザーリング研修。職員からもプードルなど人気の犬種だけではない種類のカット研修を行いたいという意見がある。現場から学生時代にプードルなどの犬種しかカットした経験がないため、わからないということにならないよう、いろんな犬種の勉強をしたいという声があった。

- ・企画段階で悩ましい点は、開催日。固定の休みではないので土日より平日休みの方が多い印象がある。場所によっても変わるだろうが、参加できる人を調査している段階で平日の方が参加しやすいのではという感触がある。卒業生たちがより参加しやすい方法で企画実行できればと考えている。

(伊禮)

- ・中部農林高校でもトリミングの授業がある。高専連携の取組みとして一緒に行えればと思う。

(渡真利)

- ・このプログラムを通じて、私自身が生徒の成長を1番に感じている。3年目でとても良い結果が出たと思う。愛玩動物試験の結果以前に生徒たちの動物に触れあう意識が着実に上がっている。アンケートの結果からは「いいのかな…」と感じるところもあったが、今の3年生は1年生からプログラムを受講している。初めは糞や尿を嫌がる生徒がいっぱいたが、卒業を前にもうそういう生徒がいらない。後輩に見られている意識、動物専攻を卒業した上、このままではいけないという反省があったようで今では課題であった掃除を抜ける生徒がいらない。このような点が改善されていることが非常に嬉しい。

- ・連携プログラムを受けた生徒が沖縄ペットワールド専門学校に入学する。この子たちの成長がとても楽しみ。入学後の活躍が期待されるなか、残った後輩たちは先輩らの活躍を見ているのもっと意識が高くなるかと期待される。コロナ禍をうまく克服した3年間の成長を見るなか、これからはよい活躍の域が広がっていく。これまで見ることができなかったさらに良い結果が後輩たちに期待できると思う。

(吉川)

- ・今日の報告から実りのある3年間だったという印象を受けた。先ほど渡真利委員と話している中で、当校の愛玩動物試験結果について考えてしまった。任意による受験ではあるが8割ギリギリ、もしくはそれ以下なので中部農林高校の結果は素晴らしいと思う。

- ・沖縄ペットワールド専門学校のHPにある教材で授業を行えば、当校でも8割、9割の合格率になるのではと思ってしまったぐらい素晴らしい成果物だと思う。本校では基本的に学生の自主学習による取り組みなので、これらの違いも勉強になった。

- ・卒業生向けのセミナーに関して、私たちが悩ましいのは同じである。何年も実施しているが少ない時は2～3名、多いときは10名ほどの参加実績だった。今年は3月12日、13日に東京と大宮で3学科実施予定。ペット業界が火曜日と水曜日の休みが多いのでこの日に組んだ。終了の時間を合わせて卒業生と教職員の交流を行いたいと考えている。

- ・昨年1年間、看護の学科では15回ほどの国家試験対策セミナーを録画し、限定公開のオンデマンド教材を運用したが受講者は3名～4名であった。卒業生で国試受験者が少ない点もあるが、どの卒業教育セミナーも小さく生んで大き



	<p>が、どの卒後教育セミナーも小さく生んで大きく育てるように取り組んでいるので、参加者が少ない場合でもマンツーマンで実施していこうと現場の職員が頑張ってくれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一番大事なのは「告知」である。卒業生へどのように情報を届けるか。当校では SNS くらいでは行えていないので、何かよい方法を教えて頂ければと思う。</li> <li>・資格と連動させることで意識が変わってくるという点が今後も非常に楽しみ。このような生徒が多く入学していることにより、学校の中身や教育活動が変わってくる点も含めて今後の展開が楽しみ。 (総長)</li> <li>・アンケート結果から子どもたちの変容、渡真利委員より生徒たちの良い変化を聞いて、非常によい事業だと実感している。</li> <li>・アンケートから「電話対応」や「話し方」をさらに学びたいという結果が出ていた。最近では携帯電話により個々人で友達としか会話をしない。固定電話が無い家庭もあり、友達の両親など目上の人とやりとりをする経験が一切ないという前提がある。</li> <li>・最近、当然知っている前提で「ここまで伝えなければいけないのか」「こういった認識がないのか」という経験があった。人材の育成という点で時代が変容していくなか、大変であると思うが良い事業なのでできることを一緒に出来ればと思う。</li> <li>・社会人として働くことのイメージ調査で「義務」と捉えている生徒が減少している結果があった。これがどういった意味なのか考えてしまう。義務というと押し付けられている感じはするが、基本的に仕事とは「社会と約束をすること」と捉えて能動的に自分からどんどん仕事を選び、自己実現させていく子がこの事業で育てていければと思っている。</li> </ul> <p>・今後の予定について (伊禮)</p> <p>令和6年度プログラム検討委員会日程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 令和6年 7月26日(金)</li> <li>第2回 令和6年 11月29日(金)</li> <li>第3回 令和7年 2月 7日(金)</li> </ul> <p>時間：15：00～17：00 会場：沖縄ベトナム専門学校</p> <p>以上 委員会を終了する。</p>
--	--

Zoom を活用した会議と会場の様子



令和5年度文部科学省委託  
「専修学校による地域産業中核人材養成事業による委託事業」

沖縄・動物分野における  
有機的高専連携プログラム開発・実証事業

## 令和5年度 事業報告書

令和6年2月  
学校法人KBC学園 沖縄ペットワールド専門学校  
〒900-0034 沖縄県那覇市東町 19-20